	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態					
	看護理論	1	前期	2	講義 30時間					
担当教員	休波茂子、有家香				1					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 3、DP 4									
授業概要	実践科学としての看護学とその発展について、看護モデル及び看護理論を中心に歴史的・特性的・学際的に把握する。さらに、看護モデル及び看護理論に関わる看護知識体系の構造を理解し、看護実践や教育・研究に効果的に活用できる能力を養うために、著名な看護モデルや理論についてクリティークを行う。									
到達目標	1. 看護理論に関する看護知識体系の構造 2. 看護理論を看護実践、教育、研究に活 3. 看護モデルまたは看護理論のクリティ 4. 看護理論及び看護モデルの看護実践へ	用する方法! ークができ <i>!</i>	について説見 る。	明することか	<b>ぶできる</b> 。					
履修条件	特になし									
	回				担当教員					
	1 理論とは何か、看護理論の開発の流れ		em a A	_	休波					
	<ul><li>2 看護知識体系の開発の流れについて、</li><li>3 中範囲理論について</li></ul>	王要な看護	理論につい	(						
	3 中配四理論について 4 看護モデルおよび看理理論のクリティ	ークの方法	について							
	5 特定の看護モデルまたは看護理論のク (Roy 適応看護モデルの理論分析)				休波					
	6 特定の看護モデルまたは看護理論のク (Roy 適応看護モデルの理論分析)	リティーク	の実際(2)		休波					
	7 特定の看護モデルまたは看護理論のク 大理論:ニード論(ヘンダーソン)	リティーク			有家					
	8 特定の看護モデルまたは看護理論のク 大理論:人間関係論(トラベルビー、>	リティーク オーランドな	: ど)		休波					
授業計画	9 特定の看護モデルまたは看護理論のク 大理論:システム論(オレム、キング、	リティーク			休波					
	10 特定の看護モデルまたは看護理論のク大理論:ケアリング理論(ベナー、ワ)	リティーク			休波					
	11 特定の看護モデルまたは看護理論のク中範囲理論:ローゼンストックの保健	リティーク 信念モデル	など	丰	す家・休波					
	12 特定の看護モデルまたは看護理論のク中範囲理論:ラザルスのストレス・コ	リティーク ーピングな	ど	有	「家・休波					
	13 特定の看護モデルまたは看護理論のク中範囲理論:バンデューラーの自己効	リティーク 力感など		有	す家・休波					
	14 看護理論及び看護モデルの看護実践へ 興味・関心ある看護理論及び看護モデ	の貢献(1) ルの臨床領	域への活用		休波					
	15 看護理論及び看護モデルの看護実践へ 興味・関心ある中範囲理論の看護実践				休波					
事前・事後学習	事前学習:①各自興味関心ある看護理論及て授業に臨むこと。②事前に各への応用についてまとめ授業ドションを行うために理論の分析事後学習:①その日に行った理論についてできるのかまとめておくこと。め提出すること。	自興味関心 寺に配布する 評価の方法 は、看護実	ある理論の含 ること。③効 について必ず 残及び看護	分析評価、研 が果的なプレ が理解してよ 研究にどのよ	f究と実践 グゼンテー がくこと。 こうに応用					
評価方法・基準	プレゼンテーション及び討議(60%)、課題	レポート(40	)%)から総合	合的に評価す	-る。					
教科書	なし									
参考書	・J.Fawcett / 太田喜久子ら監訳(2008): ・L.C.Walker ら/中木高夫他訳(2008): ・S.C.Roy / 松木光子監訳(2010): ザ・ロ ・看護理論家の業績と理論評価(2015): 筒	イ適応看護	モデル第2月	放、医学書院	書院					
備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導する	る。							

	単位数	授業 形態							
		1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子、足立智孝、中島洋一								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 4								
授業概要	プロセス、研究方法および研究倫理につい	専門的知識や技術の開発など、看護の質の向上をはかるために必要な研究の役割、研究 プロセス、研究方法および研究倫理について修得し、文献検索、クリティーク、および文 献の看護実践への活用について理解を深める。							
到達目標	<ul><li>2. 研究における概念と研究方法を表現で</li><li>3. 倫理申請書類を模擬作成できる。</li><li>4. 研究計画書作成の方法、研究報告、論</li></ul>	<ol> <li>研究疑問・問題を根拠づける文献のクリティークを実践できる。</li> <li>研究における概念と研究方法を表現できる。</li> <li>倫理申請書類を模擬作成できる。</li> <li>研究計画書作成の方法、研究報告、論文作成の方法について理解する。</li> <li>研究文献の看護実践への活用を討議できる。</li> </ol>							
履修条件	特になし								
	回				担当教員				
	1 授業概要、研究プロセス、研究問題、				中島				
	2 文献検索、文献の取集・分析・整理の 3 文献のクリティーク、文献レビュー量		空デザイン	データ	<u>中島</u> 中島				
	収集と分析	.µy11/71. • 11/17	九ノ ソイント		丁坤				
	4 文献のクリティーク、文献レビュー量 収集と分析	的研究:研究	究デザイン、	データ	中島				
	5 研究における倫理審査申請について				足立				
	6 研究計画書作成、研究報告、論文作成	•			中島				
授業計画	7 研究計画書作成、研究報告、論文作成				中島				
3201781	8 質的研究:研究プロセス、倫理的問題 9 質的研究:研究プロセス、倫理的問題				<u>田中</u> 田中				
	9 質的研究:研究プロセス、倫理的問題 10 質的研究:記述民俗学	【、	川観奈		<u> </u>				
	11 質的研究:グラウデッドセオリー				田中				
	12 質的研究:アクションリサーチ				田中				
	13 質的研究:ナラティヴリサーチ				田中				
	14 発表:文献(質的研究と量的研究)のク 討議:文献の実践への活用	リティーク		B	日中・中島				
	15 発表:文献(質的研究と量的研究)のク	リティーク			中・中島				
	討議:文献の実践への活用	))1 )		Д	1.11.1 <del>.∞</del> 0				
事前・事後学習	事前に示す資料や教科書を読んでくること 事後には疑問点を整理し、さらに関連した		読み理解を注	深める。					
評価方法·基準	講義および討議への参加度(20%)、倫理審 ク(レポート50%;口頭発表10%)	査申請書模!	疑作成(20%	、)、文献のク	フリティー				
	Polit,D.F.&Beck,C.T.,近藤潤子(監話	沢)(2010).	看護研究-	原理と方法	(第2版)、				
教科書	医学書院. ************************************								
秋竹音	Holloway, I.& Wheeler, S. 野口美和子監訳 (2006). ナースのための質的研究入門研究方法から論文作成まで(第2版)、医学書院.								
	前田樹海、江藤裕之(2013). APA に学ぶれ		筆のルール	、医学書院					
	アメリカ心理学会、前田樹海他(訳)(2011).								
参考書	Burns,N.&Grove,S.K.黒田裕子、中木ズ&グローブ看護研究入門-実施・評価・活			(監訳)(201:	5). ハーン				
少り目	山川みやえ、牧本清子(編著)(2014). 研究手			学ぶよくわた	いる看護研				
	究論文のクリティーク、日本看護協会出版会.	•							
備考	特になし								

授業科目名 開講 開講 年次 期間					授業形態				
	コンサルテーション論	1	後期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子、中島洋一、千葉恵子、松谷典洋、飯塚裕美、黒田宏美								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 5	DP 2, DP 5							
授業概要	コンサルテーションの基本概念、タイプ、プロセス等を学び、高度実践看護師の役割機能の一つであるコンサルテーションの方法について、さまざまな専門領域のコンサルテーションに応用できる技能を獲得できる。								
到達目標	<ol> <li>高度実践看護師が実施するコンサルテーションの基本概念、タイプ、プロセス等について学び、実践への応用のための基本的技能を習得する。</li> <li>さまざまな専門領域のコンサルテーションの事例を検討することを通して、それぞれの専門領域のコンサルテーションの特徴を把握するとともに、具体的展開方法について学ぶ。</li> <li>組織変革のための管理的コンサルテーションの実際について学ぶ。</li> <li>実際にコンサルテーションを模擬的に実施し、体験から学ぶ。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
	回 内容 1-2 コンサルテーションの基本概念、タ ディスカッションを通して理解を終	タイプ、プロ	!セスについ	て講義と	担当教員 田中				
	3-4 がん看護におけるコンサルテーション事例(診断・治療期にあるがん 黒田 患者)を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ。								
	5-6 がん看護におけるコンサルテーション事例(再発・終末期にあるがん 千葉 患者)を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ。								
授業計画	7-8 クリティカルケアにおけるコンサル 特徴と具体的展開方法について学ぶ	7-8 クリティカルケアにおけるコンサルテーション事例を検討し、その 飯塚							
	9-10 精神科におけるコンサルテーション 展開方法について学ぶ。		し、その特	徴と具体的	松谷				
	11-12 リエゾン精神看護におけるコンサノ 特徴と具体的展開方法について学ぶ		事例を検討	し、その	松谷				
	13-14 組織変革のための管理的コンサルラ 組織変革と、地域組織での組織変革	テーションに		院組織での	中島				
	15 コンサルテーションを模擬的に実施し	、体験から	学ぶ。		田中				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと(1時間事後には講義で学んだ技術を実習で応用し		(2時間程度	<u> </u>					
評価方法·基準	講義および討議への参加度30%(1時間程度 時間程度)。	度)、レポー ]	∖70%とし、	総合的に評価	価する(2				
教科書	特に指定せず。								
参考書	Hamric,A.B.,Hanson,C.H.,Tracy,M.F.et.al 中村美鈴、江川幸二監訳:高度実践看護統合的アプローチ、ヘルス出版、2017. 宇佐美しおり、野末聖香編:精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009. 野末聖香編:リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版、2004.								
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
	看護教育論	1	後期	2	講義 30時間			
担当教員	大野知代、休波茂子、有家香、安田友惠							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 3							
授業概要	看護実践の場で教育を担う看護職者が、その教育的機能と役割を果たすために必要な知識や技術を学ぶ。看護教育制度の課題、人材育成制度の課題、現任教育における課題と 展望について探求する。							
到達目標	<ol> <li>わが国の看護教育制度の課題について理解し説明することができる。</li> <li>人材育成における課題について説明することができる。</li> <li>看護職者の特性と学習ニードに応じた現任教育の必要性について理解し考案することができる。</li> <li>現任教育における課題と展望について提案し討議することができる。</li> </ol>							
履修条件	特になし。							
授業計画	回 内容 担当教 1 看護学教育のなかの看護継続教育の位置づけ 大野・休 2 わが国の看護教育制度と諸外国の看護教育制度(1) 大: 3 わが国の看護教育制度と諸外国の看護教育制度(2) 大: 4 事例検討(1):わが国の看護教育制度の課題 大野・休 5 看護継続教育に活用できる学習理論 休 6 看護教育と看護継続教育 休 7 新卒看護師の教育の現状と課題 有 8 中堅看護師の教育の現状と課題 有 9 中・高年看護師の教育の現状と課題 有 10 現任教育における教育の展開(1) 講義(計画・実施・評価プロセス) 安 11 事例検討(2):現任教育における課題と展望 休 12 現任教育における教育の展開:演習(2) 有家・休施設内教育(OJT と Off-JT)に対応した研修案の作成 13 現任教育における教育の展開(3) 発表・討議 有家・休 14 現任教育における教育の展開(4) 発表・討議 有家・休							
事前・事後学習	15 事例検討(3):現任教育における課題と展望							
評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、討議への参加	度(20%)、	課題レポー	ト(40%)				
教科書	なし。							
参考書	舟島なをみ監修(2011). 院内教育プログラ P.ベナー他(2010)/草野 ZITO 真佐子訳(2				学書院			
備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	る。					

相当教員   日本野   日		授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業 形態		
関連するアイプロマボリシー(DP 3、DP 5	<b>看護倫理</b> 1 前期 2 3 30							
投業	担当教員	担当教員  足立智孝、岡本明美、志村千鶴子、中島洋一、那須真弓、吉野妙子						
授業領要		DP 1、DP 3、DP 5						
到達目標       2. 倫理的問題を分析するための倫理理論や様々な方法論について説明できる。 3. 各看護学領域における倫理的問題について説明できる。 4. 臨床における諸問題について倫理的に推論し分析できる。 4. 臨床における諸問題について倫理的に推論し分析できる。	授業概要	それについて関係者間で倫理的調整を行うための基礎的知識を習得する。授業では原 に基づくアプローチ、系統的手順に基づくアプローチ、ナラティヴ・アプローチにつ						
四	到達目標	<ol> <li>倫理的問題を分析するための倫理理論</li> <li>各看護学領域における倫理的問題につ</li> </ol>	や様々な方 いて説明で	きる。	て説明できる	0 0		
日春護倫理総論   足立   2 倫理理論各論: 功利主義、義務論、徳倫理   足立   3 看護倫理の方法論 1:原則論と物語論、手順論   足立   4 看護倫理の方法論 2:まとめ   足立   5 看護倫理の方法論 2:まとめ   足立   5 看護倫理の基本的概念:ケアリングとアドボカシー   足立   6 倫理的意思決定:AD, ACP, SDM   尺立   7 ウィメンズ看護学領域における倫理的問題   古野   8 小児看護学領域における倫理的問題   古野   9 成人看護学領域における倫理的問題   両本   10 老年看護学領域における倫理的問題   那須   11 精神看護学領域における倫理的問題   中島   12 看護実践で遭遇した倫理的問題   中島   12 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 1(事例ライティングとワーク)   足立   14 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 3(事例発表と討議)   足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4(事例免表と討議)   足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4(事例免表と討議)   足立   16 養実践で遭遇した倫理的問題の検討 4(事例発表と討議)   足立   17 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4(事例発表と討議)   足立   18 英学習:講義やディスカッションで得た学びを振り返ること。   事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。   看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと。   事後学習   講義やディスカッションで得た学びを振り返ること。   評価方法・基準   事例検討課題(70%)、授業内発表および討論への参加(30%)により評価する。   教科書   特に指定しない。   1 宮坂道夫(2024)原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院   2 宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第 3 版、医学書院   3 サラ T. フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理 第 3 版、日本看護協会出版会   4 トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理 第 5 版、	履修条件	特になし。						
2 倫理理論各論:功利主義、義務論、徳倫理		回    内容				担当教員		
接業計画								
投業計画								
技業計画			、手順論					
接業計画			アドボカシ					
7 ウィメンズ看護学領域における倫理的問題   吉野			7 1 4.77 2					
8 小児看護学領域における倫理的問題   古野	152 116 7 1 7		問題					
10 老年看護学領域における倫理的問題   那須   11   精神看護学領域における倫理的問題   中島   12   看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 1 (事例ライティングとワーク)   足立   13   看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 2 (事例ライティングとワーク)   足立   14   看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 3 (事例発表と討議)   足立   15   看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4 (事例発表と討議)   足立   15   看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4 (事例発表と討議)   足立   事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。   看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと。   事後学習:講義やディスカッションで得た学びを振り返ること。   事例検討課題(70%)、授業内発表および討論への参加(30%)により評価する。   教科書   特に指定しない。   1   宮坂道夫(2024)原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院   2   宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法   第 3 版、医学書院   3   サラ T. フライ、メガンージェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理   第 3 版、日本看護協会出版会   4   トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理   第 5 版、	授業計画 	8 小児看護学領域における倫理的問題				吉野		
11 精神看護学領域における倫理的問題 中島   12 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 1 (事例ライティングとワーク) 足立   13 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 2 (事例ライティングとワーク) 足立   14 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 3 (事例発表と討議) 足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4 (事例発表と討議) 足立   ま前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。 看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと。 事後学習:講義やディスカッションで得た学びを振り返ること。   評価方法・基準 事例検討課題(70%)、授業内発表および討論への参加(30%)により評価する。   教科書   特に指定しない。		9 成人看護学領域における倫理的問題				岡本		
12 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討1(事例ライティングとワーク) 足立   13 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討2(事例ライティングとワーク) 足立   14 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討3(事例発表と討議) 足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討4(事例発表と討議) 足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討4(事例発表と討議) 足立   事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。 看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと。 事後学習:講義やディスカッションで得た学びを振り返ること。   事例検討課題(70%)、授業内発表および討論への参加(30%)により評価する。   教科書   特に指定しない。   1. 宮坂道夫(2024)原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院   2. 宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第3版、医学書院   3. サラ T. フライ、メガンージェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理 第3版、日本看護協会出版会   4. トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理 第5版、		10 老年看護学領域における倫理的問題				那須		
13 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 2 (事例ライティングとワーク) 足立   14 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 3 (事例発表と討議) 足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討 4 (事例発表と討議) 足立   事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。								
14 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討3(事例発表と討議) 足立   15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討4(事例発表と討議) 足立   事前・事後学習   事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。								
15 看護実践で遭遇した倫理的問題の検討4(事例発表と討議) 足立   事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。					ワーク)			
事前・事後学習 事前学習:課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと。 看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと。 事後学習:講義やディスカッションで得た学びを振り返ること。 評価方法・基準 事例検討課題(70%)、授業内発表および討論への参加(30%)により評価する。 教科書 特に指定しない。  1. 宮坂道夫(2024)原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院 2. 宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第3版、医学書院 3. サラ T. フライ、メガン-ジェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理 第3版、日本看護協会出版会 4. トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理 第5版、			, , , , , , , , ,					
<ul> <li>教科書 特に指定しない。         <ol> <li>1. 宮坂道夫(2024)原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院</li> <li>2. 宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第3版、医学書院</li> <li>3. サラ T. フライ、メガン-ジェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理 第3版、日本看護協会出版会</li> <li>4. トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理 第5版、</li> </ol> </li> </ul>	事前・事後学習	事前学習:課題に関連する文献を熟読し理 看護基礎教育と継続教育におけ	解を深めて る自己の課	おくこと。 題を明確に	して臨むこと			
1. 宮坂道夫(2024)原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院 2. 宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第3版、医学書院 3. サラ T. フライ、メガン-ジェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理 第3版、日本看護協会出版会 4. トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理 第5版、	評価方法・基準	事例検討課題(70%)、授業内発表および討	論への参加	(30%)により	)評価する。			
2. 宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第3版、医学書院 3. サラ T. フライ、メガン-ジェーン・ジョンストン(2010)看護実践の倫理 第3版、 日本看護協会出版会 4. トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス(2009)生命医学倫理 第5版、	教科書	特に指定しない。						
	参考書	<ol> <li>宮坂道夫(2016)医療倫理学の方法 第</li> <li>サラ T. フライ、メガン-ジェーン・シ 日本看護協会出版会</li> <li>トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・</li> </ol>	3版、医学 ジョンストン	書院 (2010)看護				
備考特になし。	備考	特になし。						

授業科目名 開講 開講 単位数						
<b>医療人間学</b> 1 後期 2 講 30時						
担当教員	足立智孝					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 3、DP 4					
授業概要	医療・看護・福祉領域が、総合的で全体的な基本的問題、すなわち人間とは何か、人間る苦悩とは何か、人間らしい医療のあり方答えはあるのか等、具体的な問いへの人間の講義では、文学の立場から「ナラティヴ	はどのよう とは何か、  学的な取り	に理解される 生と死をめく 組みが改めて	るべきか <i>、/</i> / ぐる諸問題へ て求められて	、間の抱え 、の正しい ている。こ	
到達目標	1. 医療ナラティヴについて説明できる。 2. 病者の抱える諸問題について人間学的 3. 人間の生と苦悩の多様なあり様を理解 4. 医療者としての自己を人間学的に省察	できる。	る。			
履修条件	特になし。					
授業計画	回内容1 イントロダクションーなぜ看護で人間学を学ぶのか2 ナラティヴ・アプローチとは何か3 メディカル・ナラティヴとは何か4 病者になるとは1:柳澤桂子の場合5 病者になるとは2:多田富雄の場合6 病者になるとは3:照川貞喜の場合7 中間課題発表―ケース・プレゼンテーション18 中間課題発表―ケース・プレゼンテーション29 苦悩をもつとは1:フランクルの場合10 苦悩をもつとは2:福島智の場合11 死に向かうとは1:トルストイの場合12 死に向かうとは2:キュブラー=ロスの場合13 死に向かうとは3:岸本英夫の場合14 人生ナラティヴの作成とケアへの展開について					
事前・事後学習	事前学習:各回に配布する資料あるいは教 事後学習:授業内容の振り返りをする(60分		するので事前	前に準備する	5 (90分)。	
評価方法・基準	中間課題:ケース・プレゼンテーション(40 討議への参加状況(20%)	)%)、期末課	題(40%)、孝	教科書レポー	-トおよび	
教科書	柳澤桂子『認められぬ病』、多田富雄『寡黙なる巨人』、V. E. フランクル『夜と霧』 トルストイ『イワン・イリイチの死』、岸本英夫『死を見つめる心』					
参考書	アーサー・クラインマン『病いの語り』 ジョイス・トラベルビー『人間対人間の看護』 野口裕二『物語としてのケア』					
備考	特になし。					

	授業科目名 開講 開講 授業 年次 期間 単位数 形態								
	 医療統計学	1	後期	2	講義 30時間				
担当教員	桝本輝樹								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 4								
授業概要	医療における量的研究の内容理解と研究計	画に求められ	れる知識の値	多得をはかる	) 0				
到達目標	<ol> <li>医療における研究デザインを理解する。</li> <li>基本的な統計処理方法を理解する。</li> <li>研究目的に応じた適切な研究デザインを選択できる。</li> <li>研究論文に用いるサンプルサイズ、尺度の信頼性・妥当性、データ分析方法を理解する。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回 内容								
事前・事後学習	既習内容をふまえた講義となるので、講義 習を行うこと。目安として 2 時間程度を想 る研究テーマをふまえた内容を推奨する。			_,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
評価方法・基準	講義における小テストおよび演習成果(60%る。	%)、最終演	習における〕	達成度(40%)	で評価す				
教科書	指定しない。適宜印刷物を配布する。								
参考書	授業中に適宜紹介する。								
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講期間	単位数	授業形態				
フィジカルアセスメント 1 後期 2 講義 30時間									
担当教員	岡本明美、中島洋一、千葉恵子、松本幸枝、路璐、那須真弓								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4								
授業概要	複雑な健康問題を持った対象者の健康状態を包括的に判断するために必要なフィジカル アセスメントの知識と方法を学ぶ。								
到達目標	2. 臨床判断に必要なフィジカルエグザミ	<ol> <li>看護に必要なフィジカルアセスメントの視点について説明できる。</li> <li>臨床判断に必要なフィジカルエグザミネーションが実施できる。</li> <li>複雑な健康問題を有する臨床事例の身体面・精神面で生じている状態の解釈ならびに必要なケアについて判断できる。</li> </ol>							
履修条件	特になし。								
	回内容1 フィジカルアセスメントの理解、フィエグザミネーション、フィジカルアセメントの基本技術(問診、視診、触診、2 呼吸器系のフィジカルイグザミネーシ呼吸器疾患のフィジカルイグザミネー	ジカルアセンスメントと 聴診、打診 ョンとアセン	看護フィジン (3) に関する記 スメント 1	カルアセス 講義	担当教員 岡本 松本				
	3 呼吸器系のフィジカルイグザミネーシ 呼吸系の症状に対応した診察の進め方、	異常所見と	<b>苪態について</b>	の発表・討詞					
	4 循環器系のフィジカルイグザミネーシ 循環器疾患のフィジカルイグザミネー 5 呼吸器系・循環器系のフィジカルイグ	ションに関	する講義・持		松本  松本				
	循環器系の症状に対応した診察の進めた。 6 消化器系のフィジカルイグザミネーシ	ョンとアセ	スメント1		討議 路				
	消化器疾患のフィジカルイグザミネー 7 消化器系のフィジカルイグザミネーシ 消化器系の症状に対応した診察の進めた。	ョンとアセ	スメント2		 路				
授業計画	8 脳・神経系、感覚器系のフィジカルイ 脳・神経系、感覚器系疾患のフィジカルイ	グザミネー	ションとアー	セスメント	松本				
	9 腎臓・泌尿器系のフィジカルイグザミ腎臓・泌尿器系疾患のフィジカルイグザ	ネーション	とアセスメン	ント	松本				
	10 筋・骨格系のフィジカルイグザミネー筋・骨格系疾患のフィジカルイグザミ	ションとアーネーション	セスメント に関する講	l 養・技術演習	千葉				
	11 筋・骨格系のフィジカルイグザミネー 筋・骨格系の症状に対応した診察の進め 筋・骨格系の症状に対応した診察の進め	方、異常所見	と病態につい	ての発表・討	千葉 <sup>†</sup> 議、 寸議				
	12 乳房・腋窩のフィジカルイグザミネー 乳房・腋窩のフィジカルイグザミネー	ションとア <sup>・</sup> ションに関	セスメント する講義・ <b></b>	支術演習	千葉				
	13 代謝・内分泌系のフィジカルイグザミ 腎臓・泌尿器系疾患のフィジカルイグザ				千葉 				
	14 高齢者のフィジカルアセスメント 加齢による身体的・心理的変化をふまえたフィシ	<sup>ブ</sup> カルイグザミネ	ーションに関す	「る講義・技術					
	15 精神状態のアセスメント 精神状態の症状に対応した診察の進め方、特	持に精神疾患と	こ身体状態の語	診察に関する記	中島村議				
事前・事後学習	事前学習:下記の DVD の中から授業内容 山内豊明(2005):山内豊明教授 事後学習:疑問点を整理し、参考書等で調	のフィジカ	ルアセスメ)	ント(全10巻)	°° ()				
評価方法・基準	各授業におけるプレゼンテーション(60%) 価する。	とディスカ	ッションへの	の参加状況(4	40%)で評				
教科書	特になし。								
参考書	Bickley, LS(著)、有岡宏子、井部俊子、山 メディカル・サイエンス・インターナショ 山内豊明(2011):フィジカルアセスメント 医療情報科学研究所(編集)(2019):看護 ディックメディア	ナル ガイドブッ:	ク(第2版)、	医学書院					
備考	基本的なフィジカルイグザミネーションに	ついては自	己学習を行っ	ð.					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
	<b>病態生理学</b> 1 前期 2 講義 30時間							
担当教員	岡本明美、亀田俊明、金子教宏、仲地健一郎、白鳥俊康、桝澤政広、小原まみ子、 細川直登、宮地康僚、関根龍一、安藤哲朗、六反田諒、上原惇、水上暁、髙野海哉							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4							
授業概要	態生理、治療目的・手段を理解することで	主に内科的な疾患を統計的に当該領域の専門医師から学習する。主要な疾患の症状や病態生理、治療目的・手段を理解することで、様々な疾患の病態やその評価に基づく臨床看護判断力、適切な治療介入を選択する能力を養う。						
到達目標	高度な看護実践をおこなうためには対象者の があり、このために必要な比較的頻度の高い 生理を当該疾患の専門医から系統的に学ぶ められる治療目的や治療方法を学習し、臨身	い内科的疾患 。さらに医学	は、病態に焦 と的のみなら	点を当て、病 ず社会的・備	局状や病態 倫理的に求			
履修条件	特になし。							
	回    内容				担当教員			
	1 看護に活かす解剖生理と病態の知識				高野			
	2 呼吸器系疾患の病態生理と診断・治療 3 循環器系疾患の病態生理と診断・治療	•			<u>金子</u> 水上			
	3 個場合系矢思の病患生達ご診断・行療 心不全、不整脈、冠動脈疾患、高血圧				<b>小</b> 上			
	4 消化器系疾患の病態生理と診断・治療				 仲地			
	消化管							
	5 消化器系疾患の病態生理と診断・治療				白鳥			
	肝・胆・膵臓							
授業計画	6 内分泌疾患の病態生理と診断・治療				桝澤			
	7 代謝疾患の病態生理と診断・治療	<b>公房</b>			<u></u> 亀田			
	8 血液・造血器疾患の病態生理と診断・ 9 腎尿路系疾患の病態生理と診断・治療				上原 小原			
	10 神経系疾患の病態生理と診断・治療				安藤			
	11 感染症、寄生虫疾患の病態生理と診断	· 治療			細川			
	12 リウマチ性疾患、アレルギー疾患、免	疫不全の病	態生理と診り	断・治療	六反田			
	13 悪性新生物の病態生理と診断・治療				宮地			
	14 緩和医療				関根			
	15 看護の視点からみた事例検討				岡本			
事前・事後学習	各講師が事前に提示する資料を予習する。 反映させ、必要に応じて自ら文献検索を行	-			ノポートに			
評価方法・基準	事例検討での質疑応答及び課題レポートに	より総合的	に判定する。					
教科書	特になし。							
参考書	福井次矢(監修)(2017):ハリソン内科学第 ショナル 矢崎義男他(編集)(2022):内科学第12版、		ィカル・サイ	イエンス・ィ	インターナ			
備考	特になし。							
-								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	ケアシステム論	1	後期	2	講義 30時間		
担当教員	鶴岡章子、伊藤隆子、本田彰子、大野知代、岡本明美、松丸直美						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 5						
授業概要	ついて分析・考察する。また、実際に必要 シミュレーションしてみる。それらを通し	地域における包括的ケアを実現させるための原理と基本的考え方を学び、既存の事例について分析・考察する。また、実際に必要と考えられる状況について、システム構築をシミュレーションしてみる。それらを通して、その事例の課題と今後の展開について、継続的・実効的な活動になるための検討を行う。					
到達目標	<ul><li>2. 地域におけるケアコーディネーターとし整・統合を行い、組織的にケア提供システ</li><li>3. 地域包括ケアシステムとしての地域資</li></ul>	<ol> <li>地域包括ケアシステム構築に必要な基本的知識・理論を習得する。</li> <li>地域におけるケアコーディネーターとして、保健医療福祉関連職の専門性に基づき、調整・統合を行い、組織的にケア提供システムを機能させる概念や仕組みを理解できる。</li> <li>地域包括ケアシステムとしての地域資源のデザイン・活用・開発ができる。</li> <li>地域包括ケアシステムの質向上に必要な政策等について提言できる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容 1 地域包括ケアシステムの構成要素と基 2 地域包括ケアシステムの構築・評価過 3 地域包括支援センター・地域ケア会議 4 モデル地域にみる地域包括ケアシステ 5 地域包括ケアシステムの展開と課題: 6 地域包括ケアシステムの展開と課題: 7 地域包括ケアシステムの展開と課題: 8 地域包括ケアシステムの展開と課題: 9 地域包括ケアシステムの展開と課題: 9 地域包括ケアシステムの展開:事業所 11 地域包括ケアシステムの展開:事業所 11 地域包括ケアシステムの展開と課題: 12 事例検討:地域包括ケアシステムの展 13 事例検討:地域包括ケアシステムの展 14 課題:地域包括ケアシステムに関する	本理念や概 程 の運営と評 ム齢を関 のと課題 高人体疾 特性疾 特別 で学校養 に で で で で を に は は に に に に た に た に た り に た り に り に た に た に	画 患患者のケア 患患者のケア		担当本本本鶴岡松大大鶴伊伊伊伊田田田岡本丸野野岡藤藤藤藤		
事前・事後学習	15 発表:地域包括ケアシステムに関する 事前学習:事前に提示する課題・資料等を 習を行い意見交換ができるよう 事後学習:授業での学習内容を自己学習に	予習して授しておく。					
評価方法·基準	授業に対する準備状況や授業中の発言内容 各学生の専門領域における地域ケア課題の			責を評価する	5 (60%)		
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、次回授業のテーマに沿って	提示する。					
備考	看護職として5年以上の臨床経験をもつ教	員が担当す	る。				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
	看護管理論	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	休波茂子、栗栖千幸、渡邉八重子				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 4、DP 5				
授業概要	看護管理とその歴史的背景や看護管理に必における組織文化とリーダーシップについマネジメントと医療安全の取り組み、看護福祉施設に携わる多職種と調整について学を深め、看護組織における経営上の問題に	て課題と対 の質保証と びを深める。	策について打 その評価に <sup>*</sup> 。看護管理で	深求する。ま ついて学び、	たリスク 保健医療
到達目標	1. 看護管理と歴史的背景について説明で 2. 看護サービスと質保証及び評価につい 3. リスクマネジメントと医療安全の取り 4. 組織文化と組織理念、組織分析の方法 5. 看護組織におけるリーダーシップの課 6. 保健医療福祉施設に携わる多職種との 7. 看護組織における経営上の課題と対策	て説明できれ 組みについ について説 題と対策に 調整のあり	て説明できる。 明できる。 ついて提案で 方について野	できる。	
履修条件	特になし。				
授業計画	回 内容 1 看護管理とは、看護管理の歴史的背景 2 看護サービスと看護政策、看護制度と 3 リスクマネジメントと医療安全の取り 4 看護の質保証とその評価 5 組織文化とは、組織文化と組織理念 6 組織文化とマネジメント 一組織分析 7 看護組織におけるリーダーシップ 8 事例検討:看護組織におけるチーム医療 10 保健医療福祉施設におけるそーム医療 10 保健医療福祉施設における役割拡大と 11 事例検討(1):自施設における多職種と 12 看護管理と経営:病院経営と財務環境 13 看護管理と経営:財務諸表の見かた、 14 看護管理と経営:原価計算、バランス 15 看護組織における経営上の課題	法 組み の方法一 シップの課 と多職種との の調整の現 指標分析と	の調整 調整 伏と問題 舌用	初	担当 休渡 旅 渡 渡 休 休 休 休 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
事前・事後学習	事前学習:各授業の内容についての関連文 事後学習:終了後に学びを整理しまとめて		議ができる。	ようにして盬	むこと。
評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、討議への参加 評価する。	度(20%)、	課題レポー	ト (40%) から	総合的に
教科書	特になし。必要に応じて提示する。				
参考書	参考文献は随時提示する。				
備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導すん	る。		

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
	臨床薬理学	1	後期	2	講義 30時間			
担当教員	舟越亮寛、千葉恵子、北原加奈之、鈴木正論							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5							
授業概要	判断、作用・副作用の観察を含め投薬後の者の服薬神成能力の向上へ向けた看護援助	対象者の健康問題に応じた薬物治療について、薬物動態を理解したうえで、薬剤使用の 判断、作用・副作用の観察を含め投薬後のモニタリング、生活調整、回復力の促進、対象 者の服薬神成能力の向上へ向けた看護援助等の観点から学び、薬物療法を受ける対象者 への高度な看護実践のための知識と技術を修得する。						
到達目標	<ol> <li>薬物の動態、作用・副作用・相互作用を活かすことができる。</li> <li>薬物治療に伴う生活調整、回復力の促療法を受ける患者への看護援助について</li> <li>服薬管理能力の向上へ向けた看護援助</li> </ol>	進のための  理解を深め	援助など、 <u>/</u> る。	生活の視点な				
履修条件	特になし。							
授業計画	回 内容  1 薬理学総論、薬物の動態、健康問題に副作用、相互作用とモニタリング  2 呼吸器系に作用する薬剤と生活調整の  3 消化器系に作用する薬剤と生活調整の  4 循環器系に作用する薬剤と生活調整の  5 内分泌系に作用する薬剤と生活調整の  6 中枢神経系に作用する薬剤と生活調整の  7 腎・泌尿器に作用する薬剤と生活調整の  8 免疫系・感染症に作用する薬剤と生活調整の  9 抗がん剤と化学療法と生活調整の特徴  10 緊急・応急処置に用いられる薬剤と生活  11 小児期患者と高齢患者への薬物療法と  12 周産期医療の薬物療法と生活調整の  13 精神疾患患者への薬物療法と生活調整  14 【事例検討】薬物療法を受ける対象者・薬物療法における高度実践看護師の役  15 【事例検討】薬物療法を受ける対象者・薬物療法における高度実践看護師の役	応じた薬剤の 特徴 特徴 特徴 の特徴 の物整の特徴 活調整整の 活調整整の は でのの 割のの 割のの 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割のの に 割ののの に 割のの に 割ののの に 割のののの に 割のののののの に 割のののののののの	<b></b>	\$\pmu \text{\$\pmu}\$\$ \$\pm \text{\$\pmu}\$\$ \$\pmu \text{\$\pmu}\$\$ \$\pmu \text{\$\pmu}\$\$ \$\pm \text{\$\pm \text{\$\pm \mu}\$}\$ \$\pm \text{\$\pm \mu}\$\$ \$\pm \mu}\$	担当的			
事前・事後学習	事前に提示する課題・資料を予習して授業 事後学習として、授業での学習内容を自己		、課題レポ <del>-</del>	ートに反映さ	らせる。			
評価方法・基準	授業の参加状況(50%)と課題レポート(事例	列) (50%) で	評価する。					
教科書	なし。							
参考書	丸山敬(2018): FLASH 薬理学、羊土社 高久史麿、矢崎義雄(2020): 治療薬マニュアル2020、医学書院 田中千賀子、加藤隆一(編)(2017): NEW 薬理学(改訂第7版)、南江堂 吉尾隆他(2019): 薬物治療学、南山堂							
備考	特になし。							

看護管理学特論 I (看護組織論)         1         前期         2         講義 30時間           担当教員         休波茂子、足立智等           関連するディブロマボリシー(DP)         DP I、DP 5           養業模要         看護組織を理解するうえで必要な組織マネジメント、組織文化、リーダーシップについて記明できる。           2. 看護組織と記けるマネジメントの概念と関連理論について説明できる。。         4. 看護組織における倫理のあり方について説明できる。           4. 看護組織における倫理のあり方について説明できる。。         4. 看護組織における倫理のあり方について説明できる。           4. 看護組織における倫理のあり方について説明できる。。         4. 看護組織における倫理ののあり方について説明できる。           4. 看護組織における倫理ののあり方について説明できる。。         4. 看護組織における倫理のあり方について説明できる。           4. 看護組織における倫理のあり方について説明できる。         4. 看護組織における倫理のとの表現を記録していてきる。           4. 有護組織における倫理ののおり方について説明できる。。         4. 看護組織における倫理のと理論           2 ドラッカーのマネジメントを理論         1. 組織開発の理論、マネジメントの概念と理論           2 ドラッカーのマネジメント論(2)         体波           4 事例検討(1): 「看護組織におけるマネジメント」についての課題 体波         体波           5 マネジメントとリーダーシップ (内容)         体波           6 看護組織におけるシーダーシップ: リーダーシップ理論(1)         体波           7 看護組織におけるシーダーシップ: リーダーシップ理論(1)         体波           8 リーダーシップに関する研究の動向(2)         足立           1 意思決定このにて、信機では関する研究の動向(2)         足立           1 無機管学習 (3) を選択でしていて、その範囲の関連を確認しまたである。         足立           事前・事後学習 (3) 年間と記述をごといまたまた。         足立           事前・事後学習 (4) 経験に対する。         アレビンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容があるとととまたまたまたまたまたまたである。     <		授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
関連するディブロ マボリシー(DP)	看護	管理学特論 I (看護組織論)	1	前期	2		
	担当教員	休波茂子、足立智孝				•	
		DP 1 DP 5					
型り達目標   2. 看護組織におけるマネジメントの必要性について説明できる。	授業概要						
四 内容 担当教員	到達目標	<ul><li>2. 看護組織におけるマネジメントの必要性について説明できる。</li><li>3. リーダーシップの概念や諸理論について説明できる。</li></ul>					
日 組織とは、組織文化とは	履修条件	特になし。					
組織開発の理論、マネジメントの概念と理論		回	•			担当教員	
接業計画   3 ドラッカーのマネジメント論(2)		- 1217 - 1 12177 13 - 1	と理論			休波	
投業計画		2 ドラッカーのマネジメント論(1)				休波	
授業計画		3 ドラッカーのマネジメント論(2)				休波	
接業計画   6 看護組織におけるリーダーシップ:リーダーシップ理論(1) 休波   7 看護組織におけるとリーダーシップ:リーダーシップ理論(2) 休波   8 リーダーシップに関する研究の動向   休波   9 看護倫理とは何か:その倫理的視座・倫理的問題   足立   10 看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ   足立   11 意思決定について:個人的意思決定プロセスモデル   足立   12 看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル   足立   13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   ま前学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   事後学習   予レゼンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社   StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社   StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社   医学書院		4 事例検討(1):「看護組織におけるマネ	ジメント」に	こついての課	題	休波	
授業計画		5 マネジメントとリーダーシップ				 休波	
8 リーダーシップに関する研究の動向   休波   9 看護倫理とは何か:その倫理的視座・倫理的問題   足立   10 看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ   足立   11 意思決定について:個人的意思決定プロセスモデル   足立   12 看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル   足立   13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   16 事前学習:各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   アレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やロボンテーション(50%)、記載できる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院		6 看護組織におけるリーダーシップ:リ	ーダーシッ	プ理論(1)		休波	
9 看護倫理とは何か:その倫理的視座・倫理的問題   足立   10 看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ   足立   11 意思決定について:個人的意思決定プロセスモデル   足立   12 看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル   足立   13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2): 意思決定プロセスモデルの活用   足立   15 事例検討(2): 意思決定プロセスモデルの活用   足立   15 事が学習:各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。   事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   アレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   クレゼンテーション(50%)、計議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社   StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社   Bpm   Bpm	授業計画	7 看護組織におけるとリーダーシップ:	リーダーシ	ップ理論(2)		休波	
10 看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ   足立   11 意思決定について:個人的意思決定プロセスモデル   足立   12 看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル   足立   13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   東前学習:各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   プレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社   PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). 現代の経営上・中・下、ダイヤモンド社   Stephen P.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社   勝原裕美子(2016).組織で生きる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院		8 リーダーシップに関する研究の動向				休波	
11 意思決定について:個人的意思決定プロセスモデル   足立   12 看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル   足立   13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   ま前学習:各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   プレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   やせです。   やせです。   やする   やする		9 看護倫理とは何か:その倫理的視座・	倫理的問題			足立	
12 看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル   足立   13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   事前・事後学習   各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   プレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社   StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社   勝原裕美子(2016).組織で生きる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院		10 看護管理者の役割と倫理的リーダーシ	ップ			足立	
13 組織倫理に関する研究の動向(1)   足立   14 組織倫理に関する研究の動向(2)   足立   15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用   足立   事前・事後学習   各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。   プレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。   PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社   StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社   勝原裕美子(2016).組織で生きる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院		11 意思決定について:個人的意思決定プ	゜ロセスモデ	ル		足立	
14 組織倫理に関する研究の動向(2)足立15 事例検討(2): 意思決定プロセスモデルの活用足立事前・事後学習事前学習:各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。 事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。評価方法・基準プレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。教科書PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社 StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 現代の経営上・中・下、ダイヤモンド社 StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社 勝原裕美子(2016).組織で生きる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院		12 看護管理者の倫理的意思決定プロセス	モデル			足立	
15 事例検討(2):意思決定プロセスモデルの活用 足立		13 組織倫理に関する研究の動向(1)				足立	
事前・事後学習         事前学習:各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。 事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。           評価方法・基準         プレゼンテーション(50%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(30%)の内容から総合的に評価する。           教科書         PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社           参考書         PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). 現代の経営上・中・下、ダイヤモンド社StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社勝原裕美子(2016).組織で生きる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院		14 組織倫理に関する研究の動向(2)				足立	
事制・事後学習 事後学習:各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。		15 事例検討(2):意思決定プロセスモデル	の活用			足立	
評価方法・基準合的に評価する。教科書PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). エッセンシャル版マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社参考書PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). 現代の経営上・中・下、ダイヤモンド社 StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社 勝原裕美子(2016).組織で生きる: 意志決定プロセスモデルの活用、医学書院	事前・事後学習				こと。		
教科書イヤモンド社PeterF.Drucker / 上田惇生訳(2006). 現代の経営上・中・下、ダイヤモンド社参考書StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社勝原裕美子(2016).組織で生きる: 意志決定プロセスモデルの活用、医学書院	評価方法·基準		度(20%)、	課題レポー	ト(30%)の戸	内容から総	
参考書 StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004). 組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社 勝原裕美子(2016).組織で生きる:意志決定プロセスモデルの活用、医学書院	教科書		ッセンシャル	ル版マネジ	メント基本と	ニ原則、ダ	
	参考書	StephenP.Robbins / 高木晴夫訳(2004).	組織行動の	マネジメン	ト、ダイヤー		
	備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	 る。			

	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
看護管	理学特論 Ⅱ (人材育成と活用)	1	後期	2	講義 30時間			
担当教員	休波茂子、有家香、鵜沢淳子		I	1				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 3、DP 5	DP 2、DP 3、DP 5						
授業概要	看護組織におけるキャリア特性、人材の育成と活用、継続教育について学び、看護組織 における人材育成と活用の現状と課題について考察し、さらに、人材育成計画のあり方 を探求する。							
到達目標	<ol> <li>キャリア特性やキャリア開発について説明できる。</li> <li>キャリア理論に関する諸理論から人材育成について説明できる。</li> <li>人材育成の方法として継続教育のあり方について説明できる。</li> <li>人材育成に関連する研究の動向について説明できる。</li> <li>人材の育成と活用、その現状と課題について説明できる。</li> </ol>							
履修条件	特になし。							
授業計画	回内容1 事前課題発表看護専門職とは専門職としてのキャリアとは3 キャリア理論(1)4 キャリア理論から捉えるキャリアに関する研究疑の対象における研究の動向6 人材育成と継続教育:Work Engager 7 継続教育における研究の動向8 人材育成と人間関係に関する理論9 人材育成とモチベーション、自己効力10 人材育成とストレスマネジメント11 人材育成と自己効力感、モチベーショ12 人材育成に必要な概念の探求(1)興味・関心ある人材育成に関連する概13 人材育成に必要な概念の探求(1)興味・関心ある人材育成に関連する概14 人材育成に関する研究の動向15 事例検討(3):我が国における人材育成に関する研究疑	キャリア支 問 nent に焦点 感 ン、ストレ 念を選択 たおける課	をあてて		担当 休休 休休 有有休鵜鵜鵜休 休 有鵜買波波 波波波 家家波沢沢沢波 波 家沢			
事前・事後学習	事前学習:各単元の事前学習を行い討議が 事後学習:各単元の終了後に学びを整理し	できるよう		-				
評価方法·基準	プレゼンテーション(40%)、討議への参加 合的に評価する。	度(20%)、	課題レポー	ト (40%)の[	内容から総			
教科書	特になし。							
参考書	・E.H.Schein /三善勝代ほか監訳(1991). ・渡辺三枝子編(2018). キャリアの心理学				:			
備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導すん	る。					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
看護	管理学特論Ⅲ(安全管理学)	1	後期	2	講義 30時間	
担当教員	休波茂子、中川泰弥、渡邉八重子					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 、DP 4、DP 5					
授業概要	医療における安全管理に関わる基礎的理解 故の問題と課題を明確にし、看護における いて追求する。医療安全教育の問題と課題	セーフティ	マネジメン	トと医療事故		
到達目標	1. 看護技術のもつ特殊性から事故のリスクについて説明できる。 2. 安全管理における国の資源、取り組み、また法規の実際の影響について分析し、説明できる。 3. 事故発生のメカニズムについて説明できる。 4. 事故の予防及び再発防止に必要な分析手法や戦略について説明できる。 5. 事故発生の背景・要因について分析し、改善策を提案できる。					
履修条件	特になし。					
授業計画	回 内容 1 安全管理に関する社会の注目と拡大 2 安全マネジメント 3 看護技術のもつ特殊性と事故(1) 4 看護技術のもつ特殊性と事故(2) 5 事故発生メカニズム、事故分析法 6 事故分析方法の使い方や特徴(1) 7 事故分析方法の使い方や特徴(2) 発表 8 技術事故・ヒューマンエラー・組織事 9 技術事故・ヒューマンエラー・組織事 10 組織の安全文化と安全文化の醸成 11 国の安全管理における取り組みと法規 12 米国看護大学の質と安全教育(QSEN) 13 事例検討:自施設の医療安全に関する 14 医療安全に関する研究の動向(1) 15 医療安全に関する研究の動向(2) 発表	故は		<b>д</b> <b>д</b>	担当教体渡休休休休休休休 旗渡渡 族休休休休休休休休休 旅渡 渡 渡 休休休休休 旅 渡 渡 渡 休休休休休 大	
事前・事後学習	事前学習:各単元に必要な文献を入手し事 臨むこと。 事後学習:各単元の終了後に学びを整理し					
評価方法・基準	プレゼンテーション(20%)、事例分析(20 (30%)の内容から総合的に評価する。	)%)、討議^	への参加度(	30%)、課題	 [レポート	
教科書	特になし。					
参考書	J.Reason / 塩見弘監訳(1999). 組織事故、日科技連 IOM(1999). 人は誰でも間違える(IOM 医療の質シリーズ各報告書) AHRQ(2005). Team STEPPS					
備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	 る。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
	看護管理学演習	2	前期	2	演習 60時間
担当教員	休波茂子、足立智孝		I		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 5				
授業概要	学習した理論や概念を用いて組織と看護管 の能力を養う。	理の課題を	分析すること	とにより管理	理者として
到達目標	<ol> <li>保健、医療、福祉における看護管理に関するテーマを選択し、組織の課題を分析し、説明することができる。</li> <li>看護管理の文献から現状や課題を分析的・批判的に考察することにより、説明することができる。</li> <li>看護管理に関する課題を明らかにしたうえで、各自の研究疑問から研究課題を明確にすることができる。</li> </ol>				
履修条件	看護管理論、看護管理学特論Ⅰ・Ⅱを履修	しているこ	٤		
授業計画	回	か分析(1) か分析(2) 発表) リティーク プなどに関す リティーク 電	題の分析、	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	担当上上<
事前・事後学習	事前学習:フィールドワークに臨むために課題を明確にする。事前に関心のある看護管理に関する文献のクリティークを行い演習に臨む。 事後学習:演習での学びを研究的視点でまとめ、各自の研究的課題を見出すための資料とする。				
評価方法・基準	文献検討:20%、フィールドワークプレゼンテーション:40%、研究計画(研究疑問、研究の動機、文献検討など)のプレゼンテーション:40% 以上の内容から総合的に評価する。				
教科書	特になし。				
参考書	特になし。				
備考	フィールドワークは、これまで特論 I ~Ⅲ 策を提案し実施・評価する。自施設(所属語 看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	8署)でのフ	ィルードワー		対して対

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
看護管理学特別研究	1 • 2	後期・通年	8	演習 240時間

(関連するディプロマポリシー(DP))

DP 1

# (授業概要)

看護管理学の特論・演習で学習した知識の活用や文献検討を踏まえて研究課題を設定し、修士論文を作成す

# (休波茂子)

看護管理と安全管理に関する研究指導を行う。

# (足立智孝)

看護組織における倫理に関する研究指導を行う。

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
実践	践看護学特論 I (成人看護)	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	岡本明美、千葉恵子、松本幸枝						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 3, DP 4						
授業概要	問題の予防、発症期、安定期、終末期におり	慢性的な健康問題のある青年期~高齢期にある人とその家族の看護の対象と捉え、健康問題の予防、発症期、安定期、終末期における身体的、心理社会的側面を理解し、慢性看護を支える理論と慢性看護で用いられる研究方法やその視点について修得する。					
到達目標	<ol> <li>慢性的な健康問題をもつ人と家族をとりまく社会状況と問題の多様性を説明できる。</li> <li>慢性的健康問題の発症から終末期に至るまでの看護に関する理論を修得し実践への適用について議論できる。</li> <li>慢性的健康問題のある人と家族への看護に関する研究の方法や視点について説明できる。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容 1 慢性疾患を持つ人と家族を取り巻く社 2 ストレス・コーピング理論の理解と活 3 ストレス・コーピング理論の理解と活 4 セルフケア理論の理解と活用 5 セルフケア理論の理解と活用 6 自己効力感の理解と活用 7 自己効力感の理解と活用 8 慢性疾患を持つ人と家族への看護 9 慢性疾患を持つ人と家族への看護 10 慢性疾患を持つ人と家族への看護 11 終末期にある人と家族への看護 12 終末期にある人と家族への看護 13 慢性疾患が急性増悪した人と家族への 14 慢性疾患が急性増悪した人と家族への 15 慢性疾患が急性増悪した人と家族への	会情勢と問題 用 用 看護 看護			担当		
事前・事後学習	事前学習:毎回の授業で、次回授業の事前 各自課題に取り組み、プレゼン 事後学習:疑問点を整理し、参考書等で調 また、看護実践への適用につい	学習課題を持 テーション! べることに。	用資料を作品 より理解を注				
評価方法・基準	プレゼンテーション(60%)、討議の参加状	況(40%)で記	評価する。				
教科書	特になし。						
参考書	野川道子:看護実践に活かす中範囲理論第	3版、メジ	カルフレン	ド社、2023.			
備考	特になし。						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
実践看	f護学特論Ⅱ(精神保健看護)	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	田中美惠子、中島洋一、志村千鶴子、松丸直美、松谷典洋						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 4、DP 5						
授業概要	精神健康に問題を抱える人々と家族を包括 よび看護実践の質向上に向けた看護援助に 修得をはかる。						
到達目標	<ol> <li>世界および日本における精神保健問題</li> <li>精神疾患の体系と精神保健問題の概要</li> <li>精神健康に問題をもつ人の評価・アセ4.援助関係の形成技法を説明できる。</li> <li>精神科薬物療法の基本を理解できる。</li> <li>様々な精神保健問題について理解できる。</li> </ol>	について理 スメント方	解できる。				
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容 1 世界および日本における精神保健問題 2 精神疾患の疾患体系と精神保健問題 3 主要精神疾患の理解 4 精神機能の評価とアセスメント(MSE) 5 援助関係の形成技法 (観察と面接、面接者の態度と感性、表現である。) 6 援助関係の形成技法(精神分析療法、表現である。) 7 精神科薬物療法 8 精神科リハビリテーション、訪問看護 9 せん妄 10 物質依存 11 自殺防止 12 周産期メンタルヘルス 13 子どものメンタルヘルス 14 災害とメンタルヘルス 15 精神障害者のための地域包括ケアと多	と施策の動門 ) 来談者中心療 認知行動療法 、当事者活動	· 逐法) 云、集団精神	療法)	担中     日       1日     日       1日 </td		
事前・事後学習	事前学習:自分の専門分野における精神保修事後学習:講義での学びを、実践に活かす	建問題を明確		ておく(1ほ	持間程度)。		
評価方法・基準	課題レポート(60%)と口頭発表(40%)に基験した精神保健問題について、事例分析をできているかによって評価する。						
教科書	特になし。						
参考書	授業時に紹介。						
備考	特になし。						

	開講年次	開講期間	単位数	授業形態		
実践		1	前期	2	講義 30時間	
担当教員	大野知代				00114	
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 、DP 4 、DP 5					
授業概要	乳幼児期から思春期までの子どもと家族を スアセスメントと看護実践に求められる知				舌的なヘル	
到達目標	<ol> <li>子どもの看護に求められる諸理論を理解し説明することができる。</li> <li>子どもと家族を包括的に捉えるヘルスアセスメントのための方法と理論を理解し修得することができる。</li> <li>保健・医療・福祉・教育の側面での小児看護のあり方を関連する研究法を用いて討議することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。					
	回    内容				担当教員	
	1 小児をとりまく社会状況と健康課題に 2 発達理論における基本的概念と方法 ①フロイトによる自我発達論 ②エリクソンによる漸成的発達理論 ③ピアジェによる思考発達理論	関する研究の	の動向		大野 大野	
	3 発達理論における基本的概念と方法 ①フロイトによる自我発達論 ②エリクソンによる漸成的発達理論 ③ピアジェによる思考発達理論				大野	
₩=1 <del>=</del>	4 家族に関する諸理論と方法				 大野	
授業計画	5 乳幼児期の発達とヘルスアセスメント		去		大野	
	6 学童期の発達とヘルスアセスメントの 7 思春期の発達とヘルスアセスメントの				大野	
	7 思春期の発達とヘルスアセスメントの 8 急性的健康問題をもつ子どもと家族へ		<u> </u>		大野  大野	
	9 慢性的健康問題をもつ子どもと家族へ				大野	
	10 子どもの喪失と家族の悲嘆に関する研	究			大野	
	11 子どもの虐待(発達障害含む)および家				大野	
	12 終末期にある子どもと家族への看護と   13 地域社会における子どもの実態と地域	–			大野 	
	13 地域社会における子どもの実態と地域   14 小児看護学の実践に伴う教育と指導に		<u> </u>		大野 大野	
	15 討議: これからの小児看護と研究の方				大野	
事前・事後学習	事前学修:事前に提示する課題および資料提示された課題については準備をして発表事後学修:各回の学習内容を次の授業およを深めること。	すること。				
評価方法·基準	課題レポート(50%)、討議の参加状況、課	題発表(50%	5)			
教科書	特になし。					
参考書	各回の授業に沿って資料の配布および文献	の紹介を行	う。			
備考	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導すん	る。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
実践	<b>桟看護学特論Ⅳ(在宅看護)</b>	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	伊藤隆子、本田彰子、東森由香、鈴木玲子	、佐々木真	弓、吉野有	美子	
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 4、DP 5				
授業概要	健康問題のある在宅療養者と家族に対する 族の在宅生活を支援する医療・福祉・教育 護の質向上にむけた方策を、知識と関連す	機関と事業	新における	看護に関す <i>る</i>	
到達目標	1. 地域の様々な場で展開される看護実践を、主要概念・理論・モデルを用いて説明できる。 2. 在宅療養者と家族を支える看護の質向上に向けた方策を討議できる。 3. 地域看護学および在宅看護学に関する研究の動向を探求できる。				
履修条件					
授業計画	回     内容       1 在宅療養者をとりまく社会状況       2 在宅療養を支える法・制度       3 在宅療養者と家族の包括的アセスメンクの護保険制度におけるケアマネージメラスを支える専門職連携を支える専門職連携を支える看護実践を支える看護実践を支える看護実践を支える看護実践を支える看護実践を支える看護と家族を支える看護と変換である。       7 長期透析患者の将来治療選択       8 誤嚥性肺炎予防に焦点を当てた訪問看を主定を養者の権利擁護       10 在宅看取りへの訪問看護       11 医療機関における退院支援の実際を支える看護管理を主定を支える看護管理を主定を表表を支える看護管理を主要が表する。       13 事例検討:在宅療養者と家族に関する研究を表表:在宅療養者と家族に関する研究を表表。       15 発表:在宅療養者と家族に関する研究を表する	トの方法 ント 護実践 支援への課題	題	伊藤・東伊藤・東	担当日本伊東伊伊鈴鈴伊本吉東鈴鈴鈴村本伊東伊伊鈴鈴伊本吉東鈴鈴鈴鈴
事前・事後学習	事前に提示する課題・資料を予習して授業 事後学習として、授業での学習内容を自己		、課題レポ <sup>、</sup>	ートに反映さ	ぜる。
評価方法·基準	討議への参加状況(30%)、課題レポート(5	0%)、口頭	発表(20%)		
教科書	なし。				
参考書	授業内容に応じて、資料の配布又は文献の	紹介を行う。	)		
備考	特になし。				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
	実践看護学演習	1	後期	2	演習 60時間
担当教員	伊藤隆子、本田彰子、東森由香、大野知代	、田中美惠	子、岡本明美	<b>美、中島洋</b> 一	_
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 5				
授業概要	健康問題をもつ人と家族への看護実践の質習者(職員)または看護教育機関にての学習スメントし、教育・研修計画を立案・実施	者(学生)の	教育・研修さ		
到達目標	1. 医療・福祉機関又は看護教育機関にお 2. 学習ニーズに応じた教育・研修計画を 3. 看護支援の質向上に向けた教育・研修	立案・実施	・評価する。		0 0
履修条件	特になし。				
	回				担当教員
	1 講義:医療・福祉・教育機関の学習ニ	ーズ			伊藤
	2 講義:教育・研修形態、技法、教材				伊藤
	3 講義:教育・研修の評価 4 演習:教育・研修準備の補助			`	伊藤
	5 演習:教育・研修実施の見学				
	6-9 演習:学習ニーズの把握・分析				
	10-11 演習:教育・研修計画立案				
授業計画	12-13 演習:教育・研修実施準備(教材作	成など)			
汉朱田固	14-15 演習:教育・研修の模擬実施			伊藤・本	
	16-17 演習:教育・研修の模擬実施の評価	-		岡本・田	中・中島
	18-19 演習:教育・研修計画の修正と準備	莆		東森	
	20-21 演習:教育・研修の実施			/ 学生の過 において	選択領域 \
	22-23 演習:教育・研修の評価24-25 発表準備			1 \	音領域の が実施する/
	26-28 発表: 医療・福祉・教育機関におり	ナる教育・研	 F修		
	29-30 討議:健康問題をもつ人と家族への				
	むけた教育・研修			,	
事前・事後学習	事前に、実践看護学特論で修得した知識を における対象者を相談しておく。	復習し、担	当教員と演習	習を行う機関	・事業所
評価方法·基準	学習ニーズ把握・分析(30%)、教育・研修記取り組み状況(20%)で評価する。	計画立案・実	逐施・評価(50	0%)、発表・	討議への
教科書	なし。				
参考書	演習内容に応じ、文献・資料を紹介する。				
備考	特になし。				

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
実践看護学特別研究	1 • 2	後期・通年	8	演習 240時間

## (関連するディプロマポリシー(DP))

DP 1

#### (授業概要)

自己の興味・関心のある健康問題に関する研究課題を見出し、主体的に文献検討、研究計画書および倫理審 査申請書類作成に取組み、研究を実施し、修士論文を作成する。

### (田中美惠子)

精神的な健康に関連した問題を抱え、医療・福祉機関において保健医療福祉的なサービスを受けている人、 または精神的な問題を抱えながら適切な支援・サービスを受けていない人への看護的援助に関連する研究 への取り組みについて指導を行う。

#### (中島洋一)

精神的な健康に関連した問題を抱え、医療・福祉機関において保健医療福祉的なサービスを受けている人、 または精神的な問題を抱えながら適切な支援・サービスを受けていない人への看護的援助に関連する研究 への取り組みについて指導を行う。

#### (岡本明美)

がん患者とその家族への援助、がん看護に関わる看護師の実践能力の向上など、がん看護領域における看護 の質向上に寄与する研究指導を行う。

## (大野知代)

子どものライフスタイルや健康を取り巻く環境(家庭、地域、学校等)の特性および実態に基づき、子どもの 生涯を通じてのよりきめ細やかな健康課題と健康教育の看護的支援に関する研究指導を行う。

## (鶴岡章子)

在宅療養者とその家族の QOL 維持・向上を目ざす看護援助に関する研究指導を行う。

#### (伊藤隆子)

在宅療養者とその家族に対して提供される看護実践の他、在宅療養移行支援や在宅ケアマネジメントにお ける看護の役割に関する研究指導を行う。

### (本田彰子)

地域で在宅ケアに携わる看護専門職の実践能力向上を目指し、経験からの学習を主体的に取り組む教育学 習に関する研究指導を行う。

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態
がん看	護学特論 I(がん病態治療学)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	岡本明美、宮地康僚、草薙洋、立花由梨、	関来未、庄	司一寅、関村	艮龍一、大上	上俊彦
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4				
授業概要	腫瘍の発生・進展、がんの診断に必要な種症状管理など、高度な臨床判断とがん看護				
到達目標	<ol> <li>がんの羅患の動向やわが国のがん対策</li> <li>がんの病態と診断、最新の治療法につ</li> <li>がん治療における手術療法・薬物療法メントについて説明できる。</li> <li>がん・がん治療に伴う心理社会的症状いて説明できる。</li> </ol>	いて説明できた。かければ	きる。 法の治療戦闘		
履修条件	特になし。				
	回 内容      がん看護における腫瘍学知識の活用がん医療の動向と対策がんの疫学、がん対策基本法、がかるの変学、がん対策基本法、がからの発生、がんの発生、がん遺伝子、がん細胞浸潤・転移、病理学的診断				世当教員岡本立花・関
授業計画	4-5       手術療法における最新の知見         6-7       がん薬物療法における最新の知見         8-9       放射線療法における最新の知見         10-11       がん・がん治療に伴う身体症状に関する効果判定	* / - 12*****		療戦略、	草薙   宮地   庄司   関根
	12-13 がん・がん治療に伴う心理社会的はサイコオンコロジーとは、患者・約不安・抑うつ等のアセスメントと対 14-15 腫瘍の病態生理とがん治療に関する各自の興味関心に合わせて、消化・ 泌尿器がん・婦人科がん・骨軟部によるの癌腫を選択し学習する。	家族の一般的 治療的介入 る発表・討議 器がん・乳が	な反応、	腫瘍・肺が	
事前・事後学習	事前学習:授業概要を参考に、それぞれの課題 事後学習:学習内容のがん看護実践への選			 論文による学	 習を行う。
評価方法・基準	授業での討論内容(60%)、作成資料(20%)、	プレゼンテー	ション(20%	)を総合して	評価する。
教科書	特になし。				
参考書	佐藤隆美他編集:がん治療エッセンシャル	⁄ガイド、第 <sup>4</sup>	4版、南山堂	2019.	
備考	特になし。				

担当教員		授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
関連するディプロ マポリシー(DP) DP 4  授業概要 がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論について理解をめ、実践への活用について探求する。  1. がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できる。 2. がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて看護実践について検討できる。  履修条件 特になし。  回 内容 担当教  1 ストレス・コーピング理論の理解と活用  2 ストレス・コーピング理論の理解と活用  3 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論  4 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論  5 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル 同 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル 同 危機理論の理解と活用 千 1 1 2 世級の理解と活用  1 3 自己効力感の理解と活用  1 5 1 2 世級・喪失の概念の理解と活用  1 5 1 2 世級・喪失の概念の理解と活用  1 5 1 2 世級・喪失の概念の理解と活用	がん看	賃護学特論Ⅱ(がん看護理論)	1	前期	2	講義 30時間			
マポリシー(DP)	担当教員	岡本明美、千葉恵子							
投業機要   め、実践への活用について探求する。		DP 4							
到達目標       2. がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて看護実践について検討できる。         履修条件       特になし。         回       内容         1 ストレス・コーピング理論の理解と活用       岡         2 ストレス・コーピング理論の理解と活用       岡         3 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論       岡         4 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         6 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         7 セルフケア理論の理解と活用       千         8 セルフケア理論の理解と活用       千         9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       千	授業概要		がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論について理解を済め、実践への活用について探求する。						
四 内容 担当教	到達目標	2. がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて、							
1 ストレス・コーピング理論の理解と活用       岡         2 ストレス・コーピング理論の理解と活用       岡         3 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論       岡         4 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         6 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         7 セルフケア理論の理解と活用       千         8 セルフケア理論の理解と活用       千         9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       所	履修条件	特になし。							
2 ストレス・コーピング理論の理解と活用       岡         3 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論       岡         4 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         6 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         7 セルフケア理論の理解と活用       千         8 セルフケア理論の理解と活用       千         9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       所		回内容	:			担当教員			
3 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論   日本   1		1 ストレス・コーピング理論の理解と活	用			岡本			
4 危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論       岡         5 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         6 危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル       岡         7 セルフケア理論の理解と活用       千         8 セルフケア理論の理解と活用       千         9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       所		2 ストレス・コーピング理論の理解と活	Ħ			岡本			
5 危機理論の理解と活用-アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル   一		3 危機理論の理解と活用ーフィンクの危	機理論			岡本			
6 危機理論の理解と活用-アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル 7 セルフケア理論の理解と活用 千 8 セルフケア理論の理解と活用 千 9 自己概念の理解と活用 千 10 自己概念の理解と活用 千 11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用 千 12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用 千 13 自己効力感の理解と活用		4 危機理論の理解と活用ーフィンクの危	機理論			岡本			
7 セルフケア理論の理解と活用       千         8 セルフケア理論の理解と活用       千         9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       両						岡本			
授業計画       8 セルフケア理論の理解と活用       千         9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       両			メジックのク	危機の問題的	解決モデル	岡本			
9 自己概念の理解と活用       千         10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       両	[ VIII I					千葉			
10 自己概念の理解と活用       千         11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       岡	授業計画 					千葉			
11 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用       千         13 自己効力感の理解と活用       岡						千葉			
12 悲嘆・喪失の概念の理解と活用     千       13 自己効力感の理解と活用     岡						千葉			
13 自己効力感の理解と活用 岡						千葉			
						千葉			
14 日 日 3 月 2 日 月 3 日 日 3 日 日 5 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日						岡本 			
15 がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践へ 岡 の適用する上での課題		15 がん患者とその家族の個別の問題解決	を図るための	の概念・理	論の実践へ				
事前学習:授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学事前・事後学習 を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習:学習内容のがん看護実践への適用について検討する。	事前・事後学習	を行い、資料を作成し、発表・	討議に臨む。	•	び研究論文に	よる学習			
評価方法・基準 授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評する。	評価方法·基準	3 7777 3 7	、プレゼン	テーション	(40%)を総合	うして評価			
教科書なし。	教科書	なし。							
野川道子:看護実践に活かす中範囲理論、第3版、メヂカルフレンド社、2023. 参考書 小島操子:看護における危機理論・危機介入フィンク/コーン/アグィレラ/ムース 家族の危機モデルから学ぶ、第5版、金芳堂、2024.	参考書	小島操子:看護における危機理論・危機介	入フィンク	/コーン/	•				
備考特になし。	備考	特になし。							

授業科目名 開講 開講 単位数 授業 年次 期間 単位数 形態								
がん看		1	前期	2	講義 30時間			
担当教員	岡本明美、千葉恵子、宮津珠恵、黒田宏美、伊藤淳子							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 4、DP 5							
授業概要	がん診断期、治療期、再発期、終末期における患者とその家族の体験を理解し、高度な倫理観及び包括的アセスメントに基づいた看護介入について探求する。							
到達目標	<ol> <li>診断期・治療期・再発期・終末期においてがん患者が抱えるトータルペインについて説明できる。</li> <li>がん治療を受ける患者とその家族の特徴と包括的アセスメント、看護実践について説明できる。</li> <li>がんサバイバーの特徴とアセスメント、支援について説明できる。</li> <li>がん看護における倫理的課題について理解し、がん患者への看護実践について検討できる。</li> <li>がん看護専門看護師の役割および機能について理解し、事故の課題を明確にできる。</li> </ol>							
履修条件	特になし。							
	回内容				担当教員			
	1-2 がん患者が抱えるトータルペイン				岡本			
	3 がん患者の家族の特徴とアセスメン			> 1	岡本			
	4-5 がん手術療法を受ける患者の特徴と 看護介入、評価				宮津			
	6 がん放射線療法を受ける患者の特徴 看護介入、評価	散と治療前・	中・後のア	セスメント	、  岡本			
	7 がん放射線療法を受ける患者の特徴 および評価	散と有害事象	えへのセルフ	ケア支援	岡本			
授業計画	8 がん薬物療法を受ける患者の特徴と治療前・中・後のアセスメント、 看護介入、評価							
7文未可凹	9 がん薬物療法を受ける患者の特徴と および評価	と有害事象^	のセルフケ	ア支援	伊藤			
	10 がん患者と家族に対する意思決定。	支援			千葉			
	11 がん患者に対する療養支援・療養の 退院調整と社会資源、地域医療連携		退院支援		千葉			
	12 がん看護実践における倫理的課題と				千葉			
	13-14 がんサバイバーの特徴とアセスメン 基づく看護介入	ント、がんサ	トバイバーシ	ップに	岡本			
	15 がん看護専門看護師の役割および構造の場合である。 東盟系護師制度の見始 医中的				黒田			
	・専門看護師制度の目的、歴史的3 ・がんチーム医療におけるがん看記		5の役割およ	び機能				
事前・事後学習	・かんデーム医療におりるかん有護専門有護師の役割わよい機能 事前学習:授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習:学習内容のがん看護実践への適用について検討する。							
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、	プレゼンテー	-ション(40%	)を総合して	 評価する。			
教科書	なし。							
参考書	大西和子他編集:がん看護学―臨床に活か ワ、2018. 一般社団法人日本がん看護学会 キンググループ:がん看護コアカリキュラ 緩和ケア、医学書院、2017.	教育・研究	活動委員会	コアカリキュ	ラムワー			
備考	宮津の講義は遠隔で実施する。							

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
がん看護学	益特論Ⅳ(がん薬物治療法看護論)	1	後期	2	講義 30時間				
担当教員	岡本明美、荻津佳奈江、吉岡多美子、濱道彩、深山直実、安室修、伊勢崎竜也								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5								
授業概要	がん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法について探求する。 また、がん薬物療法を継続することを支える援助方法について探求する。								
到達目標	<ol> <li>がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメントおよび援助方法について説明できる。</li> <li>がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象について説明できる。</li> <li>がん薬物療法を受ける患者の療養生活を支援するための臨床判断ができる。</li> <li>がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響、ガイドライン、支持療法を理解し、有害事象に対する臨床診断方法や治療中の生活の質を高めるためのセルフケア能力を高めるための援助方法について討議する。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
	回内	容			担当教員				
	1-2 がん薬物療法を受ける患者の特別 看護実践と評価	改、アセスメン	/ 卜、看護目	標、	岡本				
	3 がん薬物療法で用いる薬剤の特性				<u>安室</u> 安室				
	4 がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序:分子標的薬								
	5 がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序:内分泌療法薬								
松米計画	6 がん薬物療法で用いる薬剤の特性 阻害薬	まと作用機序:	免疫チェッ	クポイント	安室				
授業計画	7 外来通院しながらがん薬物療法を	と受ける患者の	)特徴と看護		吉岡				
	8 がん薬物療法を受ける肺がん患者	音の看護 ニュー			岡本				
	9 がん薬物療法を受ける大腸がん原	君の看護			岡本				
	10 がん薬物療法を受ける乳がん患者				岡本				
	11 がん薬物療法を受ける造血器腫瘍	夢思者の看護			荻津				
	12-13 がん薬物療法における有害事象		で援:骨髄抑	制、	深山				
	消化器症状、末梢神経障害、皮质								
	14-15 がん薬物療法を受ける患者の治療	§継続を支える	支援		濵道				
事前・事後学習	事前学習:授業概要を参考に、それぞれ を行い、資料を作成し、発表 事後学習:学習内容のがん看護実践への	・討議に臨む	0	び研究論文は	こよる学習				
評価方法·基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(409 する。	6)、プレゼン	テーション(	(40%)を総合	合して評価				
教科書	なし。								
参考書	日本臨床腫瘍学会編集:新臨床腫瘍学-	がん薬物療法	専門医のため	 めに、第6版	克、2021.				
備考	吉岡、荻津、深山、濵道の講義は遠隔で	実施する。							

授業科目名							
がん看	護学特論 V (がん緩和ケア論)	1	後期	2	講義 30時間		
担当教員	岡本明美、千葉恵子、田中優子、濱道彩						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 DP 4						
授業概要	がん患者に生じやすい身体的苦痛の発生機序・病態を理解し、臨床判断に基づいた症状マネジメントについて探究する。また、緩和ケアを必要とするがん患者とその家族が抱える心理・社会的・霊的苦痛を理解し、それらを緩和するための包括的な看護介入について探究する。						
到達目標	<ol> <li>がん患者に見られる苦痛症状の発生機序、治療法について説明できる。</li> <li>がん患者の抱える苦痛症状を緩和するための援助方法について説明できる。</li> <li>緩和ケアにおけるコミュニケーションの問題の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。</li> <li>複雑な心理・社会・霊的問題を抱えるがん患者の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。</li> <li>がん患者の代替療法・補完療法について説明できる。</li> <li>緩和ケアの臨床で利用可能なリソースの活用方法について説明できる。</li> <li>がん患者のエンドオブライフケアおよび家族のグリーフケアについて説明できる。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回内容担当者1 緩和ケアの概念と歴史的変遷「2 がんの症状マネジメント:がん性疼痛三3 がんの症状マネジメント:消化器症状三4 がんの症状マネジメント:呼吸器症状、呼吸困難等三5 がんの症状マネジメント:皮膚障害三7 がんの症状マネジメント: 倦怠感※8 がんの症状マネジメント:症状緩和と鎮静※9 がんの代替療法・補完療法と看護三10 緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション三11 緩和ケアにおける心理社会的支援[12 緩和ケアにおけるリソース活用方法[14 緩和ケアにおけるリソース活用方法[15 がん患者のエンドオブライフケア・家族のグリーフケア						
事前・事後学習	事前学習:授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習						
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。						
教科書	なし。						
参考書	適宜紹介する。						
備考	田中、濵道の講義は遠隔で実施する。						

授業科目名 開講 開講 単位数 授 年次 期間 単位数 形										
	がん看護学演習Ⅰ	1	後期	2	演習 60時間					
担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、荻津佳奈江									
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4									
授業概要	がん薬物療法看護における様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が 実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。がん薬物療法を受ける患者 に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を習得すると共に、がん看護専門 看護師の役割・機能について学修する。また、がんサバイバーへの支援方法を探究する。									
到達目標	<ol> <li>がん薬物療法看護における最新の知見や課題について説明できる。</li> <li>がん薬物療法を受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。</li> <li>文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。</li> <li>がん薬物療法を受ける患者に対する患者教育を計画・実施・評価できる。</li> <li>がん薬物療法をサブスペシャリティに活動しているがん看護専門看護師の役割および役割開発を理解する。</li> <li>がんサバイバーに対するグループサポートにおける看護の役割と今後の展望について考察する。</li> </ol>									
履修条件	特になし。									
回 内容										
	1-3 がん薬物療法看護における最新の知				岡本					
	4-6 がん薬物療法を受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 岡本 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか 討議する。									
	7-10 がん薬物療法のうち、内分泌療法を受けている患者が抱えている問題を整理し、発表・討議を行う。				岡本					
授業計画	11-15 がん薬物療法を受ける患者の事例の 各自の体験事例を用いて検討する。		護援助方法の	検討	千葉					
	16-17 がん看護専門看護師の役割				荻津					
	がん薬物療法をサブスペシャリティ	ィにしている	がん看護 C	ENS の						
	活動の実際 18-24 がん薬物療法を受ける患者のセルス 通院してがん薬物療法を受ける患者 スメントし、学習計画を立案し、原	者を受け持ち	、学習ニー	ズをアセ	田黒					
	25-30 乳がんサバイバーのサポートグルー対する支援に関する看護の役割と				岡本					
事前・事後学習	事前学習:授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習 を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習:学習内容のがん看護実践への適用について検討する。									
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、演習内容の分析(4	0%)、課題レ	ポート(40%)	)を総合して言	平価する。					
教科書	なし。									
参考書	適宜紹介する。									
備考	*高度実践看護師コース(がん看護学)の学 別途説明する。 *荻津の講義は遠隔で実施する。	生のみ履修	可。18~30回	回の具体的な	方法は、					

	授業科目名 開講 開講 単位数 授業 年次 期間 単位数 形態								
	がん看護学演習Ⅱ	1	後期	2	演習 60時間				
担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、吉岡多美子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4								
授業概要	緩和ケアを受けるがん患者に対する様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。また、緩和ケアを受ける終末期がん患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を習得すると共に、がん看護専門看護師の役割・機能について学修する。								
到達目標	<ol> <li>緩和ケアにおける最新の知見や課題について説明できる。</li> <li>緩和ケアを受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。</li> <li>文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。</li> <li>がん患者の抱える症状を緩和するための看護技術を実践できる。</li> <li>緩和ケアをサブスペシャリティに活動しているがん看護専門看護師の役割および役割開発を理解する。</li> <li>がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する相談技術について、分析・評価できる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	4-6 緩和ケアを受けるがん患者に対する   文献をクリティークした結果をどの   7-10 緩和ケアを受けている終末期がん見   援助技術)の探究   がん性疼痛など終末期がん患者が打   看護介入について、文献を整理し、   11-15 緩和ケアを受ける患者の事例の分析   各自の体験事例を用いて検討する。   16-17 がん看護専門看護師の役割   緩和ケアをサブスペシャリティにし   18-24 症状緩和のための看護介入   アロマテラピー、複合的理学療法を   25-30 がん看護専門看護師が行うがん患者   25-30 がん看護専門看護師が行うがん患者	1-3緩和ケアにおける最新の知見や課題岡本4-6緩和ケアを受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。岡本7-10緩和ケアを受けている終末期がん患者に対する看護介入(症状管理・ 援助技術)の探究 がん性疼痛など終末期がん患者が抱える全人的苦痛を軽減するための 看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。田11-15緩和ケアを受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する。千事 緩和ケアをサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の活動の実際18-24症状緩和のための看護介入 アロマテラピー、複合的理学療法を習得するための演習を行う。千事 アロマテラピー、複合的理学療法を習得するための演習を行う。							
事前・事後学習	を行い、資料を作成し、発表・	事前学習:授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習 を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習:学習内容のがん看護実践への適用について検討する。							
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、演習内容の分析 する。	(40%)、課	題レポート(	(40%)を総合	合して評価				
教科書	なし。								
参考書	適宜紹介する。								
備考	*高度実践看護師コース(がん看護学)の学 別途説明する。 *吉岡の講義は遠隔で実施する。	生のみ履修	 可。25~30[	回の具体的な	方法は、				

開講   開講   単位数   授業									
がん看		2	前期	2	実習 90時間				
担当教員	岡本明美、千葉恵子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 DP 3 DP 5								
授業概要	がん看護専門看護師の役割(実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整)をがん看護専門看護師と共に実践することで、がん看護専門看護師の役割理解を深めるとともに、自身ががん看護専門看護師としての役割機能を発揮する能力を習得する上での課題と方法を明確にする。								
到達目標	<ol> <li>がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な実践の目的や内容について述べることができる。</li> <li>がん看護専門看護師が行っている教育活動の目的や内容について述べることができる。</li> <li>がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や具体的方法を述べることができる。</li> <li>がん看護専門看護師が行う多職種との調整を必要とする問題や調整上の留意点、具体的方法について述べることができる。</li> <li>がん看護専門看護師が携わる倫理的問題とその対応について述べることができる。</li> <li>がん看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的や内容について述べることができる。</li> <li>見学したがん看護専門看護師の行う看護実践、教育、相談、連携・調整等を分析し、専門看護師として活動する上での自己の課題について述べることができる。</li> </ol>								
履修条件	がん看護学特論Ⅰ~Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。								
授業計画	1 実習内容がん看護専門看護師が勤務する施設で、CNS活動のシャドーイングを通して以下の専門看護師の6つの役割機能について理解を深める。 ①実践、②コンサルテーション、③調整、④倫理調整、⑤教育、⑥研究・社会貢献 2 実習方法 ・がん看護専門看護師に必要とされる6つの能力を効果的に理解できるように、実置指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・がん看護専門看護師が看護師を含むケア提供者に行うコンサルテーション、調整教育、研究、倫理調整の場に参加する。 ・がん看護専門看護師の実践状況の見学や講義を受ける。 ・日々の実習での学びをフィールドノートに記載する。 ・カンファレンスや事例検討を通して、専門看護師の6つの役割や機能について理解する。 ・がん看護専門看護師として活躍するうえでの自己の課題等について考察し、レポートを作成する。 ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを計画し実施する。 3 実習施設 亀田総合病院、千葉県がんセンター他 4 実習時期と期間 2 年次前期2週間								
事前・事後学習	事前学習:今までの学修内容を確認し、実 事後学習:実習記録およびレポートを作成		課題を明確に	こする。					
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護 ス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合			(10%)、カン	ノファレン				
教科書	なし。								
参考書	がん看護学特論 I ~ V およびがん看護学演習 I ・ II で使用した文献 Hamric,A.B., Hanson,C.H.,Tracy,M.F.et.al 中村美鈴、江川幸二監訳:高度実践看護統合的アプローチ(第二版)、へるす出版、2020. 専門看護師の倫理調整の役割と実践、日本看護倫理学会誌、1(1)、12-16、2008.								
備考	がん看護学特論I~Vおよびがん看護学演	i習Ⅰ・Ⅱを	習得している	ること。					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
がん看	f護学実習 Ⅱ (診断治療実習)	2	前期	2	実習 90時間			
担当教員	岡本明美、千葉恵子							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5							
授業概要	関心領域のがん患者のフィジカルアセスメントに基づく診断・治療に関して、医師の診察・治療場面に同席し、患者に必要な医療を判断し提供する能力を養う。また、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、診療内容と臨床判断プロセスを修得する。さらに変化する保健医療制度の中で、より質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。							
到達目標	<ol> <li>関心領域のがん診療の場で医師と共にがん患者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明できる。</li> <li>様々な診療技術やがんの病態生理学的知識及び臨床薬理学的知識を活用して、がん患者の徴候や症候をアセスメントできる。</li> <li>医学アセスメントをもとに、がんやがん治療ががん患者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントし、多職種と協働しながら問題解決への方略を検討できる。</li> <li>在宅療養をしているがん患者の状態を臨床的に判断し、身体管理方針について述べることができる。</li> <li>がん患者の診断・治療に必要な実践・連携等を通して、がん看護専門看護師として活躍する上での自己の課題を明確にできる。</li> </ol>							
履修条件	がん看護学特論Ⅰ~Vおよびがん看護学演	i習Ⅰ・Ⅱを	修得している	ること。				
授業計画	1 実習内容 関心のがん患者の診療場面に同席しの実施はのがん患者の診療場面に対療に基づく検症を関心では、それらに基づら治療にを要されらに領域のがん患者でのは、治療題をとれるとして、終れているという。 2 実習指導を受けながら見れるのがの方法・関心の下さりでは、では、のががいるとはながらられるでは、のの方は、は、のががいるでは、では、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	療処実る医 を断受ルけにと担その臨職なす。 を断受ルけにと担その臨職ない。 と 案治るセがわそし過床種する。 スられの、程判期	方の選択に 防機 で で で で で で で で で で で で で	関が 内 し いうレる尊戦物察しが 容 、 らうア多の種、しぐ者 臨 ィ 基 ス種に携査しぐ者 臨 ィ 基 ス種に携査レポ く ン携ィ学処・	評問看護師 別断プロセセス を そぶル 選 に そうがい 選 に で			
事前・事後学習	事前学習:実習計画書を作成する。今まで確にする。 確にする。 事後学習:実習記録およびレポートを作成		を確認し、領	実習における	課題を明			
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護 ス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合			[10%]、カン	/ファレン			
教科書	なし。							
参考書	がん看護学特論 I ~V およびがん看護学演 その他、適宜紹介する。	i習Ⅰ・Ⅱで作	使用した文献	武				
備考	がん看護学特論Ⅰ~Ⅴおよびがん看護学演	  習 [ ・	習得している	ること。				

授業科目名 開講 年次 期間 単位数 形態									
がん看	看護学実習Ⅲ(療養支援実習)	2	前期	2	実習 90時間				
担当教員	岡本明美、千葉恵子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5								
授業概要	がんの急性期病院から在宅へ療養の場を移行する時期、ならびに在宅療養に移行したが ん患者・家族へのシームレスな医療・看護を実践するために必要なヘルスケアシステム について学ぶ。また、在宅療養、施設療養をしているがん患者の症状マネジメントや緩 和ケアを経験豊富な訪問看護師、施設看護師と共に実践することで、包括的がん医療に おけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。								
到達目標	<ol> <li>在宅療養にかかわる多職種の連携・協働において、がん看護専門看護師の果たす役割を理解する。</li> <li>地域医療連携におけるがん治療の連携、相談支援の実際を理解する。</li> <li>治療期、在宅療養への移行期、在宅・施設療養期、在宅・施設終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題を理解する。</li> <li>治療期、在宅療養への移行期、在宅・施設療養期、在宅・施設終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題を解決するために必要な専門的知識・技術、臨床判断に基づいた支援の実際を理解する。</li> <li>がん患者とその家族の在宅・施設療養を支えるうえでのがん看護専門看護師の役割と課題を探究する。</li> </ol>								
履修条件	がん看護学特論Ⅰ~Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。								
授業計画	1 実習内容がんの急性期病院で行われている地域医療連携および退院支援、がん患者と家族が在宅療養を継続する上で必要な支援について理解を深める。がん患者の在宅ケア、施設ケアについて豊富な経験を持つ訪問看護師、施設看護師、がん看護専門看護師、指導教員のスーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての役割と実践上の課題を探究する。 2 実習方法 ・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・主治医、在宅医、受け持ち看護師、訪問看護師、保健師等との退院支援カンファレンスに参加し、連携を目指した視点から、がん患者と家族が在宅療養を続けるうえで必要な支援と調整について考察する。 ・訪問看護師の訪問に同行し、在宅療養におけるがん患者の症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶ。 ・がん患者やその家族の健康問題が在宅療養に及ぼす影響についてアセスメントし、よりよい療養生活を送るための多職種連携や協働に関する計画を立案し、訪問看護師と共に実施、評価する。 3 実習施設 亀田総合病院在宅診療部、訪問看護ステーション有限会社小規模多機能施設フローラ 4 実習時期と期間 2年次前期~後期2週間								
事前・事後学習	事前学習:目標達成のためにふさわしい実習 書を作成する。今までの学修内容 事後学習:実習記録およびレポートを作成	を確認し、実							
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護 ス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合			(10%)、カン	ノファレン				
教科書	なし。								
参考書	がん看護学特論I~Vおよびがん看護学演 その他、適宜紹介する。	習 I ・II で	使用した文庫	献					
備考	がん看護学特論I~Vおよびがん看護学演	習Ⅰ・Ⅱを	修得してい	ること。					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態			
がん	元看護学実習Ⅳ(統合実習)	2	前期	4	実習 180時間			
担当教員	岡本明美、千葉恵子							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5							
授業概要	がん看護学特論 I ~ Vおよびがん看護学演習 I ・ II で学んだこととがん看護学実習 I ~ II を統合し、複雑で対応困難な問題を持つがん患者の医学アセスメントおよび患者とその家族の包括的アセスメント、直接的支援、多職種との連携、病棟看護師へのコンサルテーションや教育活動などを実践し、専門看護師として活動するための実践力を養う。また、実施した活動を内省し、がん看護専門看護師として活躍する上での課題を探究する。							
到達目標	<ol> <li>複雑で対応困難な問題を持つがん患者</li> <li>複雑で対応困難な問題を持つがん患者ができる。</li> <li>問題を解決するための具体的な援助計</li> <li>立案した援助計画を実施し、専門看護に評価することができる。</li> <li>がん患者とその家族が抱える問題を解決</li> <li>病棟看護師に対するコンサルテーショ</li> <li>患者・家族が直面する倫理的課題を調</li> <li>病棟の看護の質向上に寄与する教育を</li> </ol>	とその家族 画を立案す。 師の役割・ せするために、 ンがさる。 整すること;	を包括的にこることができることができる。	アセスメント きる。 し合わせなか 携することか	ぶら科学的			
履修条件	がん看護学特論I~Vおよびがん看護学演	習Ⅰ・Ⅱを	修得している	ること。				
授業計画	1 実習内容 1)複雑で対応困難な問題を持つがん患者と・医学的アセスメント・包括計画画文字・実施・評価 2)がん看護専門にのの役割実践(・病棟看護するる倫理導・・海球のの連携を一を出するので指導・・事職を書きるのでは、多職様のででは、多職様のででは、多職様のででは、多職様のででは、多職様のでは、多職様のででは、多職様のででは、多職様のででは、多職様のででは、多職様のでは、多職様のでは、多事様では、一次の	1 週間) ・ なつででは、 ・ は担めでは、 ・ は担めでは、 ・ は担めでは、 ・ は当りでする。 ・ はもいるできる。 ・ はもい。 ・ はもいる。 ・ はもいる。 ・ はもいる。 ・ はもいる。 ・ はもいる。 ・ はもいる。 ・ はもい。 ・ はもい	施など 受医事に 対対 受医側対 での 計動 での 課題 に での での での での での での での に に に に に に に に	アアを提供する。 を定期看護 的に関います。 をでは、 でででででででする。 では、 ででできる。 では、 できる。 できる。 できる。 できる。	利催する。 こしての役 ン、コンサ			
事前・事後学習	事前学習:目標達成のためにふさわしい実習 書を作成する。今までの学修内容 事後学習:実習記録およびレポートを作成	ぶを確認し、 身						
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護 ス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合			[10%]、カン	 /ファレン			
教科書	なし。							
参考書	がん看護学特論 $I \sim V$ およびがん看護学演その他、適宜紹介する。	習 I ・Ⅱ で(	使用した文献	就				
備考	がん看護学特論Ⅰ~Ⅴおよびがん看護学演	習 I ・ II をf	修得している	ること。				

授業科目名 開講 開講 単位数						
<b>がん看護学課題研究</b> 2 通年 2						
担当教員	岡本明美、千葉恵子					
授業概要	がん看護学特論 $I\sim V$ およびがん看護学演習 $I\cdot II$ で学んだ内容を踏まえて、自身の専門領域に関わる看護実践の中からがん患者とその家族の抱えている問題を取り上げ、文献的に研究を行う能力を養う。					
到達目標	<ol> <li>自身の専門領域に関わる看護実践の中からがん患者とその家族の抱えている問題を取り上げ、系統的な文献の検討を行い、研究動向を把握する。</li> <li>自身の専門領域に関わる看護実践の中からがん患者とその家族の抱えている問題について、文献的に実証し、論文にまとめる。</li> </ol>					
履修条件	がん看護学特論I~Vおよびがん看護学演	習Ⅰ・Ⅱを	修得している	ること。		
授業計画	回 内容 1-15 文献検討と個別面談				担当教員  本・千葉	
事前・事後学習	特になし					
評価方法·基準	研究プロセス(20%)、完成した論文(80%)、発表(10%)					
教科書	なし					
参考書	適宜紹介する。		·	·	·	
備考	特になし					

授業科目名 開講 年次 期間 単位数 形態							
精神看	護学特論 I (歴史・法制度論)	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	田中美惠子						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 、DP 2、DP 4						
授業概要	精神保健医療・看護の歴史、法制度の変遷、国際的な動向などを、文献を通して踏まえ、現行の精神保健医療制度を批判的観点から把握するとともに、わが国における精神保健問題の現況を把握し、今後の精神保健医療において看護職が果たすべき役割について展望する。						
到達目標	<ol> <li>近代精神医学の成立から現代の精神医学に至る精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。</li> <li>古代から現代に至るまでの日本の精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。</li> <li>現代日本の精神医療保険福祉制度について学び、今後に求められる制度と看護の役割についての見解を持つ。</li> <li>世界の精神保健医療福祉制度の動向について学び、日本の諸制度の向かうべき方向性についての展望を獲得する。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容  1-2 近代精神医学史:精神医学の成り立ちについて文献を通して理解する。 3-4 病院精神医学の成立:病院精神医学の成立について文献を通して理解する。 5-6 大学精神病院の成立:大学精神病院と精神医学の成立について文献を通して理解する。 7-8 戦争と精神医学:戦争と精神医学の関りについて文献を通して理解する。 9-10 古代日本精神医療史:古代の日本の精神医療について文献を通して理解する。 11-12 近代日本精神医療史:近代日本の精神医療について文献を通して理解する。 13-14 精神保健医療福祉制度:日本の精神保健医療福祉制度について文献等を通して理解する。 15 世界の精神保健福祉:世界の精神保健福祉制度について、文献等を通して理解する。 15 世界の精神保健福祉:世界の精神保健福祉制度について、文献等を通して調べ、日本の精神保健医療看護の課題を整理する。						
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること(1時間和事後には疑問点を整理し、さらに関連した		べ、理解を済	深める(2時)	間程度)。		
評価方法・基準	プレゼンテーション準備度20%、講義およ 総合的に評価する。	び討議への	参加度10%	、レポート	70%とし、		
教科書	小俣和一郎:近代精神医学の成立、人文書 八木剛平・田辺英:日本精神病治療史、金		)2				
参考書	岡田靖雄:日本精神科医療史、医学書院、2002 立岩真也:造反有理、精神医療現代史へ、青土社、2013 他、適宜紹介。						
備考	特になし。						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
精神看	f護学特論Ⅱ(精神看護理論)	1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4								
授業概要	精神分析理論、精神病理学理論、対象関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をメタサイコロジカルな観点および病理学的な観点からアセスメントし、介入するための理論的基盤を養う。								
到達目標	<ol> <li>精神分析の基礎理論について学び、重要概念を理解する。</li> <li>対象関係論について学び、重要概念を学ぶ。</li> <li>力動的精神医学について学び、DSM と精神分析概念を併用したアセスメント・介入技術のための理論的基盤を養う。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回 内容   1-2 精神分析理論:局在論について文献を通して理解する。   3-4 精神分析理論:構造論について文献を通して理解する。   5-6 精神分析理論:精神性的発達について文献を通して理解する。   7-8 精神分析理論:防衛機制について文献と自らの体験に照らし理解する。   9-10 対象関係論:対象関係論の主要理論について文献を通して理解する。   11-12 力動精神医学:理論編として、基本原則(無意識。心的決定論・転移・逆転移・抵抗等)、について文献を通して理解する。   13-14 力動精神医学:臨床編として、統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、摂食障害等への力動精神医学的アプローチについて文献を通して理解する。   15 事例検討:文献を通して、事例を取り上げ、精神分析的治療アプローチの実際について理解する。								
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること(1時間和事後には疑問点を整理し、さらに関連文献	,	解を深める	(2時間程度	)。				
評価方法·基準	プレゼンテーション準備度20%、講義およ 総合的に評価する。	よび討議への	参加度10%	。 レポート	70%とし、				
教科書	土居健郎:精神分析と精神病理、第2版、 G.O.ギャバード:精神力動的精神医学①			1998					
参考書	G.O.ギャバード:精神力動的精神医学②臨床編: I 軸障害、岩崎学術出版、1998 G.O.ギャバード:精神力動的精神医学③臨床編: II 軸障害、岩崎学術出版、1998 小此木啓吾他編:精神分析セミナー I ~ V、岩崎学術出版、1981~1988 小此木啓吾:精神分析の成り立ちと発展、弘文堂、1985 小此木啓吾:精神分析の基礎理論、弘文堂、1985 前田重治:図説臨床精神分析学誠信書房、1985								
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
精神看護学	特論Ⅲ(精神看護倫理・当事者論)	1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子、畠山卓也								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 、DP 2 、DP 5								
授業概要	を保護し、当事者のリカバリーを支援する	精神看護理論の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。 さらに当事者が求める精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレン グスモデルを基盤に洞察する。							
到達目標	<ol> <li>精神看護倫理の基礎理論を学び、実践を倫理的観点からみるための基礎を養う。原則論、臨床倫理(手順論)、ナラティヴ倫理を扱うとともに、隔離拘束に伴う倫理について学ぶ。</li> <li>手順論、ナラティヴ倫理をもとにして、倫理的事例検討を行う。</li> <li>リカバリーモデル・ストレングスモデルなど、当事者中心のモデルについて理解する。</li> <li>当事者の手記、当事者の視点に焦点を当てた研究等を読み、当事者体験を理解する。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回 内容 1-2 倫理理論の基礎:原則論等、基礎的 3-4 臨床倫理・ナラティヴ倫理:臨床係 学ぶ。 5-6 隔離拘束に伴う倫理:隔離拘束に関 7-8 事例検討:手順論を使って、倫理的 9-10 事例検討:ナラティヴ倫理を使って 11-12 当事者論:リカバリーモデルの思想 13-14 当事者論:ストレングスモデルの思想 13-14 当事者論:ストレングスモデルの思想 3 当事者論:当事者の手記・体験記述 意義について洞察する。	内倫理理論に 倫理とナラテ 関わる倫理に 内事例検討を て、倫理的事 朝、概念につ 理論と応用に	イヴ倫理の ついて事例 :行う。 ・例検討を行 いて学ぶ。 こついて学ぶ	理論につい を通して学 う。	ぶ。 畠山 畠山 田中 田中 田中				
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること(1時間程 事後には、学んだことをもとに、臨床での 点から考えてみる(1時間程度)。	,	て、当事者の	の視点およて	が倫理の視				
評価方法・基準	プレゼンテーション準備度20%、講義およ 総合的に評価する。	てが討議への	参加度10%	、レポート′	70%とし、				
教科書	特に指定せず。								
参考書	鶴若麻理、麻原きよみ:ナラティヴでみる マーク・レーガン著、前田ケイ監訳:ビレ 2005.	宮坂道夫:医療倫理学の方法原則・手順・ナラティヴ、第2版、医学書院、2011. 鶴若麻理、麻原きよみ:ナラティヴでみる看護倫理、南江堂、2013. マーク・レーガン著、前田ケイ監訳:ビレッジから学ぶリカバリーへの道、金剛出版、2005. チャールズ・A・ラップ他、田中英樹監訳:ストレングスモデル精神障害者のためのケー							
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
精神看護	護学特論Ⅳ(リエゾン精神看護)	1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子、嵐弘美、山内典子、飯塚あつ子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 4、DP 5								
授業概要	いて、理論的に学習するとともに、実践レ	リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実際などについて、理論的に学習するとともに、実践レベルに応用できる力を養う。 ☆サブスペシャリティに応じて、特論ⅣかⅤのどちらかを選択。両方取ることも可能とする。							
到達目標	1. 精神看護学の一専門理領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能を理解する。 2. 身体疾患をもつ患者の精神状態の特徴およびアセスメントの方法について理解する。 3. せん妄、抑うつ、怒り、不安の4つの精神状態について説明できる。 4. 直接ケアの技法、およびコンサルテーションのプロセスや方法について理解する。 5. 看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について理解する。 6. 組織変革者としてのリエゾン精神看護師の役割・機能について理解する。								
履修条件	特になし。								
授業計画	回 内容	立の歴史、定 リラクセーシ 安のアセスメ コンサルテー についてメンタ 的コンサルテ	/ョンの技法 /ントと援助 -ションとコ 別を通して学 /ルヘルス支	について、 コについて学コンサルティ さぶ。 接の方法と の方法につい	嵐				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと(1時 事後には、疑問点を整理し、さらに文献等		解を深める	(2時間程度	)。				
評価方法·基準	プレゼンテーションの準備度20%、講義お 総合的に評価する。	よび討議への	の参加度109	%、レポート	70%とし、				
教科書	野末聖香編著:リエゾン精神看護-患者ケ	アをナース	支援のため	に、医歯薬出	出版				
参考書	適宜紹介。								
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
精神看	f護学特論 V (地域精神看護)	1	後期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松丸直美								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5								
授業概要	早期退院、退院促進、地域連携を強化することをねらいとした地域精神看護に必要な知識と技術、地域連携の実際を学び、高度実践看護師として卓越した看護実践ができる能力を養う。 ☆サブスペシャリティに応じて、特論ⅣかⅤのどちらかを選択。両方取ることも可能とする。								
到達目標	<ol> <li>救急・急性期患者の受け入れから、スムーズな地域移行までの一連の流れに着目し、病院内ケアと地域連携について学ぶ。</li> <li>慢性期患者のストレングスに着目し、QOLを高めるセルフケア支援を実践する能力を養い、退院促進のための方略を習得する。</li> <li>ACT(重症精神障害者の地域支援)の方法について学び、実践に応用できる能力を養う。</li> <li>地域精神保健福祉の現状と課題、および地域包括ケアシステムについて理解する。</li> <li>訪問看護の実際について学び、地域支援と連携強化に向けた実践について探求する。</li> <li>セルフヘルプの理論、当事者活動の実際について理解し、当事者のリカバリーを支える看護について探求する。</li> <li>安房地区の地域移行支援事業協議会の実際を把握し、この地区の地域移行の課題について把握する。</li> </ol>								
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みのこ	と。							
授業計画	□ 内容 1-2 急性期患者の入院から地域移行まったついて文献と事例を通して学ぶ。 3-4 慢性期患者へのセルフケア支援と過支援と退院促進について、文献と要 支援と退院促進・地域連携:ACC 実際について文献を通して学ぶ。 7-8 地域包括ケアシステム:地域精神保障害者のための地域包括ケアシスラー 訪問看護:訪問看護の実際を、事任11-12 セルフヘルプと当事者のリカバリー現状について調べ、当事者のリカノリー現状について調べ、当事者のリカノリーでは、当事者のリカノリーでは、またの地域移行支援事業の表別では、またの地域移行支援事業の表別では、またの地域移行支援事業の表別では、またの地域を行支援事業の表別では、またの地域を行った。またいて調べ、この地区の課題は、またいて調べ、この地区の課題は、またいて調べ、この地区の課題は、またいで表表し、ディスカッションを通り	での、 との	性期患者の学ぶ。 学ぶ。 状と課題、学ぶ。 があっための課題 での地域移行とでいる。 との地域移行とでいる。 との地域を行いための課題 というにある。 というにある。	セルフケア u域連携の および精神 フヘルプの を把握する。 E 支援事業の ことをもと	日中・松丸				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおく(1時間程度事後には、実践や講義で学んだことを応用	- /	時間程度)。						
評価方法・基準	講義および討議への参加度30%、レポート	70%とし、	総合的に評価	 重する。					
教科書	特に指定せず。								
参考書	適宜紹介。								
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
精神看護	学演習 I (対象理解と自己理解)	1	前期	2	演習 60時間		
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松丸直美、柚山香	世子			7. 7. 7		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4						
授業概要	団における関係について、実践的な演習を	あらゆる年代を対象として、精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、 看護の介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係的技術を習得する。					
到達目標	<ol> <li>精神状態のアセスメントのための理論を学び、実践への応用のための技術を習得する。</li> <li>子どもの精神状態をアセスメントし、関係を展開するための理論と技術を習得する。</li> <li>認知症のアセスメントについて学び、認知症を併発した精神疾患患者とその家族へのケアについて学ぶ。</li> <li>治療的な対人関係を形成するための理論と技術、ならびに看護場面の再構成の方法を学び、実践に応用する技術を習得する。</li> <li>集団力動理論を理解し、集団特有の心理を理解し、集団の中の自己を省察することを通して、自己理解と他社理解を深める。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
	回内容1-3精神状態のアセスメント: MSE を 理論を学ぶ。		状態のアセス	スメントの	担当教員 田中		
	4-6 精神状態のアセスメント:診断面接通して学ぶ。	接の技術につ	いて理論と	演習を	田中		
	7-9 子どもの精神障害:子どもの精神障 アセスメントするための基礎理論を		四握し、精神	状態を	柚山		
	10-12 子どもの精神障害:子どもの精神障 方法を、演習を通して学ぶ。		ベメントする	ための	柚山		
授業計画	13-15 認知症のアセスメント:特に精神を	. –			松丸		
	アセスメントするための理論と技術 16-18 対人関係の技法:コミュニケーショ について学び、関係を展開しながら について演習を通して修得する。	ョン技法、た	1ウンセリン	グ技法	<u>か。</u> 松丸		
	19-21 看護場面の再構成:看護場面の再構22-24 看護場面の再構成:演習を通して、			·// 1	中島中島		
	他者理解と自己理解の方法を修得す	する。					
	25-27 集団力動理論:集団力動理論を理解 28-30 グループワーク:グループワークを自己理解と他者理解を深める。						
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと(1時間事後には講義で学んだ技術を日常に応用し		(2時間程度	:)。			
評価方法・基準	講義および討議への参加度30%、レポート	70%とし、	総合的に評価	西する。			
教科書	特に指定せず。						
参考書	武藤教志:他科に誇れる精神科看護の専門神看護出版、2017. 神田橋條治:追補精神科診断面接のコツ、 宮本眞巳:改訂版看護場面の再構成、日本	岩崎学術出	版、1990.	グザミネーシ	ョン、精		
備考	特になし。						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
精神看	護学演習Ⅱ(精神科治療技法)	1	後期	2	演習 60時間		
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松谷典洋、小石川比良来、岡田佳詠、横山惠子、小山達也、 田中友康、藤原雅司						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5						
授業概要	精神科薬物治療について学び、精神科薬物療法の効果をアセスメントし、看護援助につなげる能力を養う。さらに精神療法、心理教育・家庭心理教育、認知行動療法など精神看護における教育治療的介入技法について演習を通して学習する。加えて、アディクション看護、自殺予防、精神科ターミナル、トラウマインフォームドケア、オープンダイアローグなど、精神看護の多様な実践技法を学び、専門看護師の役割・機能に統合する方法について探求する。						
到達目標	<ol> <li>精神科薬物治療の基礎理論について学る</li> <li>外来診断面接見学とディスカッション拠を理解する。</li> <li>心理教育、家族心理教育、認知行動療を培う。</li> <li>アディクション看護、自殺予防、精神オープンダイアローグ、精神看護の多様</li> </ol>	を通して、E 法の理論を 科ターミナル	医師による記 学び、実践 <i>い</i> 、トラウマ	診断と処方の こ応用するた インフォー	)理論的根 こめの基礎 ムドケア、		
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと。						
授業計画	回 内容 1-2 精神科薬物治療論概論:精神科薬物薬の種類、主要な薬の機序、作用 3-6 外来診断面接見学実習:医師の外表処方の実際、その理論的根拠について。 個人精神療法・集団精神療法:個実際について、演習を通して学ぶ。 9-10 身体疾患治療薬と精神症状:身体をで学ぶ。 11-12 服薬心理教育:服薬心理教育の理話 13-15 家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と家族ケア:家族心理教育と表情では、アディクションを表情である。 25-26 精神科ターミナル:精神科におけるアについて学ぶ。 27-28 トラウマインフォームドケアの理話探求する。 29-30 オープンダイアローグの理論と技術のいて探求する。	か・まっく ちょう 一条 にん ちょう にん ちょう とり はい	ついて学ぶ 見学参加し 集団精神療精神症状の と技法、家いたと実際、 ためのの基本 たったへの応用	。 、診断と 法の理論と 関係につい 族ケアの 治療的法につい でがしていて	担当教員       小石       田       松       〇		
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおく(1時間程度事後には疑問点を整理し、文献を通してさ		深める(2時	間程度)。			
評価方法・基準	講義および討議への参加度30%、レポート	70%とし、糸	総合的に評価	西する。			
教科書	特に指定せず。						
参考書	適宜紹介。						
備考	特になし。						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
精神看證	———————————————— 隻学演習Ⅲ(精神看護援助方法)	1	後期	2	演習 60時間				
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松丸直美			1	1				
関連するディプロマポリシー(DP)	DP 1, DP 3, DP 4, DP 5	DP 1、DP 3、DP 4、DP 5							
授業概要	専門的知識と技術に基づいた高度な看護実践を提供できるようになるために、オレム・アンダーウッドセルケアモデルを理論的ベースにして、精神力動理論やこれまで学習してきた理論・技法を用いながら、さまざまな精神疾患に対する看護援助の実際について学習する。また、多職種連携に基づく看護実践を学ぶ。加えて、各疾患の看護援助について、各自で文献学習を行い、高度実践看護師としてエビデンスに基づいた直接ケア・間接ケアが提供できる能力を養う。								
到達目標	<ol> <li>専門的知識と技術に基づいた高度な看護実践を提供できるようになるために、オレム・アンダーウッドセルフケアモデルを用いて、各精神疾患患者に対する看護援助について学習する。</li> <li>安房地区地域移行支援事業協議会の事例検討会に参加し、地域における多職種連携の実際と看護実践を学ぶ。</li> <li>上記の学習を踏まえ、高度実践看護師として精神看護援助で課題となる問題を見定め、文献学習を行い、各課題へのエビデンスに基づいた対応について検討する。</li> </ol>								
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みのこ	と。							
	回				担当教員				
授業計画	1-2 オレム・アンダーウッド・セルフター: SC モデルについて学習する。  3-5 統合失調症への看護援助: SC モデーター11 双極性障害患者への看護援助: SC 12-14 不安障害患者・強迫性障害患者への事例検討(2例程度)   15-17 心的外傷および解離性障害患者への事例検討(2例程度)   18-20 身体症状症および摂食障害患者への事例検討(2例程度)   21-22 物質関連障害患者への看護援助: SC (2例程度)   23-24 パーソナリティ障害患者への看護援助: SC (2例程度)   25-26 ひきこもり、虐待への地域支援: でについて、文献等を通して学習する (2 例程度)   25-26 地域の多職種連携と看護実践: 安原の事例検討会に参加し、多職種連携を引き、 では、多職種連携をできる。 これまでの学習を踏まえ、精神看護文献学習を行い、その課題へのエモ	<ul><li>ルモデルを ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</li></ul>	た事例検討 用した事例 用した事例 SC モデル SC モデル SC モデル 活用した事 デルを活用 虐待に対す る行実際に関 るのとなる問題	(2 例程度) 検討(2 例程度) 検討(2 例程 を活用した を活用 した を活用 財 事 域 会学定い で見つい	度)田中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中				
事前・事後学習	検討し報告する。  各疾患の援助について事前学習しておくこ事後にはさらに文献学習を進めること。(2		建度)。	ЩТ	コ島・松丸				
評価方法・基準	事例検討への参加度30%、レポート70%と	し、総合的	に評価する。	1					
教科書	特に指定せず。								
参考書	適宜紹介。								
備考	特になし。								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態
精神看護学到	<b>ミ習Ⅰ(高度実践看護役割·機能の実習)</b>	1	後期	2	実習 90時間
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松丸直美、松谷典	· 洋			
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5				
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ~Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ~Ⅲの学習をもとに、実				
到達目標	1. 精神科医療施設における CNS の役割 2. 各自の関心テーマに基づいて、独自に 参加観察を行う。			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、	Ⅲを履修済	みのこと。		
授業計画	<ol> <li>CNSの役割と機能について、病院 CNSからオリエンテーションを受け、CNSの活動に同行し、相談・調整・教育などの CNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。</li> <li>1日の終わりに、CNSとカンファレンスを実施し、その活動の意図について検討する。</li> <li>最終カンファレンスにおいて、CNSの役割と機能について学習したところを発表し、ディスカッションを通して、学びを共有する。その際、学生は交代で司会を実施する。その他、各自の実習の焦点に合わせ、学びを発表し、実習全体の学びを相互に共有する。</li> <li>*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。</li> </ol>				
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておく について明確にしておくこと。 事後は実習の振り返りを行うこと(2時間程		]程度)。自ī	己の実習にお	ける課題
評価方法·基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レ	ポート70%	によって、糸	総合的に評価	iする。
教科書	特に指定せず。				
参考書	Hamric,A.B.,Hanson,C.H.,Tracy,M.F.et.al 中村美鈴、江川幸二監訳:高度実践看護統合的アプローチ、ヘルス出版、2017. 野末聖香編:リエゾン精神看護患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版、2004. 宇佐美しおり、野末聖香編:精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.				
備考	授業場所:井之頭病院 実習場所:公益財団法人井之頭病院 実習期間:原則として2月~3月の2週間(4日/週×2週間:8日間)1限~4限 *但し、火・水・木・金とする。				

	授業科目名	開講 年次	開講期間	単位数	授業形態	
精神看	看護学実習Ⅱ(直接ケア実習)	2	前期	4	実習 180時間	
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松丸直美、松谷典	· 洋		l		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 4、DP 5					
授業概要	基礎分野、ならびに精神看護学特論 I ~ V、精神看護学演習 I ~ Ⅲの学習をもとに、CNS の役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。 実習 Ⅱ では、特に直接ケアの能力の向上に焦点を当てる。精神科診断・治療実習の内容も含めるものとする。					
到達目標	精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、 到達目標 ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。					
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、	Ⅲ、実習Ⅰ	を履修済みの	のこと。		
授業計画	1. 患者を2名程度受け持ち、精神症状のりを通して、直接的看護介入を実施する 2. 病棟において定期的にカンファレンス価を得るとともに、看護チーム、医療チーライマリーナース等へコンサルテーショ 3. 提供した看護介入に対し、教員またはけ、看護介入の意味を精神療法的な観点ファレンス等の場を通して伝え、継続看2アレンス等の場を通して病棟内力動5. 学内において、事例のケースプレゼンディスカッションを通して、評価を行う検討の進行について体験的に学習する。*詳細は後日、オリエンテーション時に説	。を生みない。をよるを指まつい入りのでは、そのでは、そのでは、そのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、	病棟スタップ ・連携を行 CNS)からご 察する。まする 東内力動を3 を行い、教』	フからケアに う。必要にル スーパーピミ た実施した看 る。 査定しながら 員および他の	<ul><li>対する評 芯じて、プ</li><li>ジョンを受 請護をカン</li><li>、病棟カ</li><li>)学生との</li></ul>	
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておく 自己の課題について明確にしておくこと。 事後は実習の振り返りを行い、今後に向け	,		ること(2時	間程度)。	
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レ	ポート70%	こよって、糸	総合的に評価	<b>ずる</b> 。	
教科書	特に指定せず。					
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編:精神看護スペ 会出版会、2009.	シャリスト	こ必要な理	論と技法、日	本看護協	
備考	授業場所:東京都立松沢病院 実習場所:東京都立松沢病院 実習期間:原則として、4月~5月の間の	4週間(4日)	/週×4週間	引:16日間)1	限~4限	

	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
精神看護学	2	実習 90時間					
担当教員	田中美惠子、中島洋一、松谷典洋、木村充						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5						
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論 I ~ V 門看護師としての実践能力の基礎を養う。 実習Ⅲ-Aは、リエゾン精神看護に焦点を		学演習Ⅰ~Ⅰ	Ⅱの学習をも	とに、専		
到達目標	リエゾン精神看護の対象および場の特徴を理解し、患者 1 名程度を通して、コンサルテーション、調整、倫理調整等を実施する。 ☆学生はサブスペシャリティに応じて、実習Ⅲ-A か実習Ⅲ-B のどちらかを選択する。						
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、演習Ⅰ、	Ⅱ、Ⅲ、実	習Ⅰ、Ⅱを原	夏修済みのこ	と。		
授業計画	1.精神科リエゾンチームの活動に同行し、参加観察を通して、リエゾン精神看護における対象および場の特徴を学習する。実践・コンサルテーション・調整・倫理調整・教育などの役割と機能について参加観察を通して学習する。1日の終わりに、臨床指導者および担当教員とカンファレンスを実施し、それぞれの活動の意図や方法について検討する。  2. 患者の同意を得て、心身両面の問題を有する患者1名程度を受け持ち、患者にかかわるプライマリーナース、病棟スタッフ、看護管理者等にコンサルテーションを実施する。その際、患者に対して、専門的知識を用いてケース理解を深めるとともに、対応を必要とする課題・課題へのアプローチ方法等について検討する。併せてコンサルテーションの実施に際し、臨床指導者および担当教員からスーパービジョンを受ける。必要に応じて、調整、倫理調整を行う。  *詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。						
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくにしておくこと。事後は実習の振り返りをと(2時間程度)。	,					
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レ	ポート70%	によって、糸	総合的に評価	する。		
教科書	特に指定せず。						
参考書	野末聖香編:リエゾン精神看護患者ケアと	ナース支援	のために、日	医歯薬出版、	2004.		
備考	授業場所:亀田総合病院 実習場所:亀田総合病院 実習期間:原則として、9月の2週間(4E	∃/週×2週	間:8日間)	1限~4限			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
精神看護学実習Ⅲ-B(地域精神看護実習) 2 前期 2 9								
担当教員								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5							
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論 I ~ V、精神看護学演習 I ~ Ⅲの学習をもとに、 CNS の役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。実習Ⅲ-B は、 地域精神看護に焦点を当てる。 ☆学生は、サブスペシャリティに応じて、実習Ⅲ-A か実習Ⅲ-B のどちらかを選択する。							
到達目標	安定した地域生活を目指し、患者のセルフケアやストレングスを査定して直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、実施した看護介入を評価する。さらに受け持ちケースを中心に、コンサルテーション、調整(多職種連携)、倫理調整等を実施し、より専門的な高度看護実践能力を習得する。							
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ、演習Ⅰ、	Ⅱ、Ⅲ、実	習Ⅰ、Ⅱを原	夏修済みのこ	と。			
授業計画	1. 三芳野会を利用し、三芳病院へ通院す 支援を目指して、患者のセルフケア能力 介入を展開するとともに、多職種連携を 2. カンファレンスを実施し、多職種チー 健・医療・福祉チームの調整・連携を行 3. 提供した看護介入に対し、教員または 護介入の効果を評価し、課題を明らかに 4. 実習期間内に、訪問看護への同行訪問 などを行い、病院と地域との連携の実際 明らかにする。 5. 学内において、事例のケースプレゼン ディスカッションを通して、評価を行う 検討の進行について体験的に学習する。 *詳細は後日、オリエンテーション時に説	や実ムう臨す、にテストすら、よるデートをデータをある。よいでは、アインののでは、アインののでは、アインののでは、アインのではないのでは、アインのではない。アインのではないのではない。アインのではないのではない。アインのではないのではない。アインのではないのではないのではない。アインのではないのではない。アインのではないのではない。アインのではないのではない。アインのではないのではない。アインのではないではない。アインのではないではないではない。アインのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	グスを査定 に対する評( からスーパー 見学参加、 ぶとともに、 を行い、教	しながら、直	直接的看護 こもに、保 こ受け、看 で外来実習 成の課題を			
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくにしておくこと。事後は実習の振り返りをと(2時間程度)。							
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レ	ポート70%	によって、糸	総合的に評価	話する。			
教科書	特に指定せず。							
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編:精神看護スペ 会出版会、2009.	シャリスト	に必要な理語	倫と技法、日	 日本看護協			
備考	授業場所:三芳病院 三芳野会 実習場所:三芳病院 三芳野会(安房地域生活支援センター・グループホームみよしの・ 三芳ワークセンター・まほろば) 実習期間:原則として、9月の2週間(4日/週×2週間:8日間)1限~4限							

	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
精神看	看護学実習Ⅳ(間接ケア実習)	2	後期	2	実習 90時間
担当教員	田中美惠子、畠山卓也、松谷典洋				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5				
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論 I ~ V 設内において相談・調整・倫理調整などの の間接ケア能力を養う。				
到達目標	1. 医療施設において、CNSの実施している相談・調整・倫理調整などの場面に同行し、 その実際について学習する。 2. 医療施設において、患者1名程度を受け持ち、病棟内力動を査定するとともに、相 談・調整・倫理調整などをCNSの指導を受けながら実施する。				
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、	Ⅲ、実習Ⅰ、	、Ⅱを履修浴	斉みのこと。	
授業計画	1. 受け持ち患者を1名程度持ち、病棟「CNSの指導を受けながら、相談・調整・よび臨床指導者(CNS)よりスーパービジについては、2例程度を目標とする。 2. 学内カンファレンスにおいて、自分が他の学生とのディスカッションを通して*詳細は後日、オリエンテーション時に説	倫理調整を ジョンを受い 行った間接 、評価を行	実際に実施 <sup>*</sup> ける。相談( ケアについ <sup>*</sup>	する。その際 コンサルテ・	E、教員お ーション)
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておく にしておくこと。事後は実習の振り返りを かにすること(2時間程度)。	,		****	
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レ	ポート70%	によって、糸	総合的に評価	iする。
教科書	特に指定せず。				
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編:精神看護スペ 会出版会、2009.	シャリスト	に必要な理言	<b>侖と技法、</b> 日	本看護協
備考	授業場所:井之頭病院 実習場所:財団法人井之頭病院 実習期間:原則として、11月の間の2週間	(4日/週×	2 週間)		

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
	精神看護学課題研究	2	通年	2	講義 30時間	
担当教員	田中美惠子、中島洋一					
授業概要	精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。					
到達目標	1. 各自のテーマを発見し、系統的な文献検討を行い、テーマに関する研究動向を把握する。 2. 関心テーマにおける研究的なエビデンスを把握し、総説論文としてまとめる。					
履修条件	看護研究、精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演	習Ⅰ、Ⅱを	覆修済みのこ	こと		
授業計画	回 内容 1-15 文献検討と個別面談				担当教員 日中・中島	
事前・事後学習	事前学習:2時間程度 事後学習:2時間程度					
評価方法·基準	課題研究の達成度によって評価する。					
教科書	指定せず					
参考書	指定せず					
備考	特になし					

授業科目名 開講 開講 単位数 授業 年次 期間						
クリティカル	クリティカルケア看護学特論 <b>I (危機とストレス)</b> 1 前期 2					
担当教員	松本幸枝			1		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4					
授業概要	突然の出来事や衝撃的な体験により、ストレスや危機的状況に陥る対象者やその家族の 反応や立ち直っていくプロセスを理解し、援助の方法を探索する。					
到達目標	<ol> <li>危機的状況にある対象者及びその家族について、理論を用いて説明することができる。</li> <li>危機的状況にある対象者やその家族に必要な諸理論を理解し、理論を用いて援助することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。					
授業計画	回内容担当1-2 自尊感情/ストレス理論/レジリエンス3-4 危機理論5-6 悲嘆/グリーフワーク7-8 病みの軌跡9-10 自己概念とボディイメージ11-12 自己効力感13 クリティカルケア状況下にある患者とその家族へ理論を活用した事例14-15 課題:第1-13回で学んだ知識を活用し、危機的状況の中にいる対象者及びその家族への介入事例を用い、自己の看護について考察する					
事前・事後学習	事前学習:事前に提示された資料を読んで 事後学習:疑問点を整理し、関連した文献		理解を深める	ること。		
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的は	こ評価する。			
教科書	特に指定しない。					
参考書	<ul> <li>・小島操子(2018):看護における危機理論・危機介入改正4版フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ、金芳堂</li> <li>・J.W.Worden/山本力監訳(2015):A Handbook for Mental Health Practitioner.4th/ 臨床実践ハンドブック悲嘆カウンセリング、誠信書房</li> <li>・Barbara Resnick/任和子翻訳(2020):Practice of Geriatric Nursing to Enhance Self-Efficacy and Resilience/自己効力感とレジリエンスを高める看護の実践、学研・Ilene Morof Lubkin/黒江ゆり子監訳(2007): Chonic Illness Impact and Interventions、クロニックイルネス 人と病いの新たなかかわり、医学書院・Pierre Woog/黒江ゆり子監訳(1995): THE CHRONIC ILLNESS TRAJECTORY FRAMEWORK/慢性疾患の病みの奇跡、医学書院</li> </ul>					
備考	特になし					

授業科目名			開講 期間	単位数	授業 形態		
クリティカルケア看護学特論 II (フィジカルアセスメント) 1 前期 2					講義 30時間		
担当教員	松本幸枝、中島洋一、植島大輔、水上暁、 吉田明人	松本幸枝、中島洋一、植島大輔、水上暁、中路聡、安藤哲朗、小原まみ子、村上楽、 吉田明人					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4						
授業概要		クリティカルケア領域におけるフィジカルアセスメントや臨床推論について学び、臓器 機能不全がある対象者の看護者の看護実践や、回復過程にある対象者の支援に活かす。					
到達目標	<ol> <li>クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメントとイグザミネーションを習得し、看護実践に応用できる。</li> <li>クリティカルケア領域での臨床推論・臨床判断について説明できる。</li> <li>クリティカルケア領域での子どものフィジカルアセスメントするための知識と技術を習得する。</li> <li>クリティカルケア領域での高齢者のフィジカルアセスメントをするための知識と技術を習得する。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回       内容         1       臨床推論と臨床判断・フィジカルフェジカルケア領域でのフィジラン・ACS・急性心不全         4-5       クリティカルケア領域でのフィジラクリティカルケア領域でのフィジラクリティカルケア領域でのフィジラクリティカルケア領域でのフィジラクリティカルケア領域でのフィジラロクリティカルケア領域でのフィジラロクリティカルケア領域でのフィジラン・救急外来受診時の精神症状         13-15       課題:第1-12回で学んだ知識を活としたフィジカルアセスメントのプレゼンテーション	アセスメントカルルアセセススメッカルルアアセセスススメッカルルアアセセスススメッカルルアセセスススメッカルルアセセススメッカルアセセススメッカルアセセススメッカルア・一人計画を対し、画を対し、一般では、	スント スント: 不整 スント: 消呼 脳 スント: 呼脳 急 小 高 で る スント で る で る で る て な た る た る た る た る た る た る た る た る た る た	器系疾患 不全 管障害 腎機能障害 者	担当 教 植 水 中 松 安 小 村 吉 中 松 人 本 藤 原 上 田 島 本		
事前・事後学習	事前学習:事前に提示された資料を読んで 事後学習:疑問点を整理し、関連した文献		理解を深める	ること。			
評価方法·基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的	に評価する。				
教科書	特に指定しない。						
参考書	<ul> <li>・Bickly, LS(著)、福井次矢(監訳)(2015):ベイツ診療法(第3版)、メデイカル・サイエンスインターナショナル</li> <li>・酒井健雄編集(2017):人体の正常構造と機能、日本医事新報社</li> <li>・その他、適宜紹介</li> </ul>						
備考	特になし						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態		
クリティブ	カルケア看護学特論Ⅲ(治療管理)	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	松本幸枝、不動寺純明、田中美千裕、林淑 鵜澤吉宏	朗、草薙洋、	、田邉大明、	水上暁、関			
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4						
授業概要		クリティカル状況下にある対象者の生体侵襲を理解し、必要な治療や検査について学 することで、科学的根拠に基づいた高度な看護実践について修得できる。					
到達目標	る対象者と、必要な治療について理解し 2. クリティカル領域特有の、外傷や熱傷 対象者とその治療について理解し、説明 3. 高度侵襲手術、生命維持装置やデバイ 治療について理解し、説明できる。	4. 身体侵襲を伴う対象者の回復過程を理解し、予防行動の看護実践につなげることが					
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容 1 侵襲と治療 2 診察と治療 外傷 3 診察と治療 急性薬物中毒 4 診察と治療 急性脳血管障害 5 診察と治療 急性脳血管障害 6 診察と治療 急性脳血管障害 7 診察と治療 ショック 8 診察と治療 せん妄 9 開腹術/術前・術中・術後の管理 10 開腹術/術前・術中・術後の管理 11 心疾患の治療と管理/デバイス 12 人工呼吸器および補助循環の治療と管 13 感染管理と人工呼吸器離脱に向けたケ 14 ICU-AW のアセスメントと予防的リニ 15 課題:第1-14回で学んだ知識を活用し事例を看護展開しプレゼンテーションを考察する。	理 アと管理 ハビリテーシ ン、クリティ	カルケアを		担		
事前・事後学習	事前学習:事前に提示された資料を読んで 事後学習:疑問点を整理し、関連した文献		理解を深める	ること。			
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的	に評価する。				
教科書	特に指定しない。						
参考書	・清水敬樹(2019): 改正版 ICU 実践ハン・市川幾恵(2014): ICU 版意味づけ経験知他、適宜紹介			過程、日総研	开		
備考	特になし						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
クリティカル	レケア看護学特論Ⅳ(ケアの専門性)	1	後期	2	講義 30時間				
担当教員	松本幸枝、奥脇和男、比田井理恵、赤池麻	奈美、原田原	恵美子、前日	田浩					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 、DP 4 、DP 5	DP 1, DP 4, DP 5							
授業概要	救急看護のサブスペシャリティ、並びに看護ケアの専門的実践力を養う。								
到達目標	<ol> <li>クリティカル状況下にある対象者やその家族対して専門性の高い看護実践について学修し、専門的看護実践について探求できる。</li> <li>クリティカル状況下にある対象者やその家族対して、他職種との調整やチーム医療の促進など、高度実践看護師の役割を述べることができる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回 クリティカルケア領域における看記 2 救命救急治療を受ける対象者とその	<ul><li>りでは、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><l>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><l>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><l>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、<ul><li>では、</li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></l></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></l></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></l></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul>	度実践看護護度実践看護護度実践看護護度実践看護護度実践看護護度実践看護を表して、	el など ボ・トリアージ ボ・熱傷患者 ボ・薬物中毒 ボ・外傷 ボ・意識障害 ボケーの高度実践 ボーの高度実践	奥奥田田田田 赤原 前       山北北 井 井 池 田 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田				
事前・事後学習	事前学習:事前に提示された資料を読んで 事後学習:疑問点を整理し、関連した文献		理解を深めん	ること。					
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的に	こ評価する。						
教科書	指定なし。								
参考書	適宜紹介。								
備考	特になし								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
クリティカル・	ケア看護学演習Ⅰ(意思決定と倫理)	1	前期	2	演習 60時間				
担当教員	松本幸枝、足立智孝、中島洋一、遠藤美代子、小島朗、比田井理恵								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 、DP 5	DP 1、DP 5							
授業概要		クリティカル状況下でおきる治療の選択や中止など、意思決定を含む倫理的問題につい て熟考し、解決するための実践力を身につける。							
到達目標	<ol> <li>クリティカルな状況にある対象者及びその家族への、倫理的調整の役割について説明することができる。</li> <li>対象者の権利を擁護し、自己決定を支援する方略を検討し、説明することができる。</li> <li>自己決定できない対象者とその家族を含む看護の支援について説明することができる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
	回内容	<u> </u>			担当教員				
		象者に生じや	すい倫理的	問題	松本				
	3-4 クリティカルケア領域における家族	族に生じやす	い倫理的問	題	松本				
	5-6 クリティカルケア領域における終す	末期の倫理的	]問題		松本				
	7-8 クリティカルケア領域における権利				松本				
	対象としたアドボカシー/シェアー								
	9-10 クリティカルケア領域における倫理				松本				
	11-12 クリティカルケア領域における倫理		師の倫理的原	感受性	松本				
授業計画	13-14 インフォーム・ド・コンセントの5		- <del> </del>		松本				
	15-16 クリティカル領域における道徳的野		]埋誦		足立				
	17-18 脳死判定・臓器提供における倫理的 10-20 お特医療に満出しる際は美の企理				松本				
	19-20 移植医療と補助人心臓装着の倫理的 21-22 クリティカルケア領域における倫理		3,33,0	中欧	遠藤				
	21-22 クリティカルケア領域における倫理 23-24 クリティカルケア領域における倫理				  小島				
	25-24 / フリティカルケア領域における倫理   25-26 / クリティカルケア領域における倫理								
	27-28 倫理的課題に対するフィールドワー		V 3 V V	大桥					
	29-30 課題:第1-28回で学んだ知識を活		的問題が生	じた事例に	松本				
	ついて分析し、考察する。	/    O (	1) H) AZ   II.	07C 41/11C	IA/T*				
电架 电冰深超	事前学習:事前に提示された資料を読んで	くること。							
事前・事後学習	事後学習:疑問点を整理し、関連した文献	等を調べ、	理解を深める	ること。					
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的に	に評価する。						
教科書	特に指定しない。								
参考書	<ul> <li>・臨床倫理臨床死生学テキスト編集委員会(2014): テキスト臨床死生学 日常生活における「生と死」の向き合い方、勁草書房</li> <li>・Albert R. Jonsen /赤林朗監訳(2006) CLINICAL ETHICS Fifth Edition/臨床倫理学第5版、新興医学出版社</li> <li>・AnneJ. Davis/小西恵美子監訳(2008): Essential of Teaching and Learing in Nursing Ethics/看護倫理を教える・学ぶ</li> </ul>								
備考	特になし								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
クリティカ	コルケア看護学演習Ⅱ(疼痛緩和)	1	後期	2	演習 60時間		
担当教員	松本幸枝、舟越亮寛、渕本雅昭、千葉恵子	、小島朗、	松谷典洋				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5	DP 4、DP 5					
授業概要		クリティカルの状況下にある対象者やその家族を含む苦痛や苦悩を理解し、エビデンス に基づいた疼痛緩和や軽減する方法を学修する。					
到達目標	<ol> <li>クリティカルの状況下にある対象者やその家族にもたらす全人的な苦痛・苦悩ついて学び、説明できる。</li> <li>苦痛を軽減、または緩和するための方法、処置を学び、効果判定についての実践力を養う。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
	回	:			担当教員		
	1-2 クリティカル状況下にある患者の症	対の体験/苦゚	悩について		松本		
	3-4 疼痛のアセスメントと疼痛尺度				松本		
	5-6 苦痛緩和・症状マネジメントに関す	する理論			松本		
	7-8 安楽の評価とコンフォートケア				松本		
	9-10 薬剤師による鎮痛管理/急性疼痛 11-12 看護師による鎮痛管理/急性疼痛						
	13-14 看護師による鎮痛管理/慢性疼痛						
	15-16 クリティカル状況下における対象者		痛とコント	ロール			
	の実際/呼吸困難感	1 -> >111 +3 E	1/111 = 7 1	,,	124		
授業計画	17-18 クリティカル状況下における対象者 の実際/倦怠感、浮腫	<b>皆の身体的</b> 苦	痛とコント	ロール	小島		
	19-20 クリティカル状況下における対象者 の実際/抑うつ	<b>巻の精神的</b> き	痛とコント	ロール	松谷		
	21-24 クリティカル状況下にある患者とそ (文献学習)	その家族の苦	「痛と苦悩の	理解	松本		
	25 周手術期の看護技術③				松本		
	26-28 クリティカル状況下における対象者	■ 皆の苦痛緩和	]のフィール	ドワーク	松本		
	29-30 課題:第1-28回で学んだ知識を活 家族への介入事例をプレゼンテージ						
事前・事後学習	事前学習:事前に提示された資料を読んで 事後学習:疑問点を整理し、関連した文献		理解を深める	ること。			
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的	に評価する。				
教科書	特に指定しない。						
参考書	<ul> <li>・Arther W. Frank/鈴木智之翻訳(2002): THEWOUNDEDSTORYTELLER/傷ついた物語の語り手、ゆみる出版</li> <li>・Arthur Kleinman/江口重幸訳(2015): THEILLESSNARRATIVES/病の語り、誠信書房・下地恒毅(2018): 痛みを和らげる科学、サイエンス・アイ新書・田口敏彦監修(2020): 疼痛医学、医学書院・Jenny Strong/熊澤孝郎監訳(2010): 痛み学、名古屋大学出版会・適宜紹介</li> </ul>						
備考	特になし						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
クリティカルケア看護学演習Ⅲ(ケアとキュアの統合) 1 後期 2 演60時								
担当教員	松本幸枝、細萱順一、春名寛香、小島朗、古賀雄二、飯塚裕美							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5							
授業概要	クリティカル状況下にある対象者の回復に 族に対する援助的介入を学び、実践力を養		アとキュアフ	が融合した介	↑入及び家			
到達目標	きる。	2. 高度実践看護師としての役割について理解し、今後の高度実践看護師としての自己						
履修条件	特になし。							
授業計画	回 内容 1-2 クリティカルケア領域における高度 3-4 クリティカルな状況下にある対象を高度実践看護:援助関係論、家族を高度実践看護:援助関係論、家族を高度実践看護:呼吸不全 7-8 クリティカルな状況下にある対象を高度実践看護:伸枢神経障害 11-12 クリティカルな状況下にある対象を高度実践看護:中枢神経障害 11-12 クリティカルな状況下にある対象を高度実践看護:侵襲・重症感染症・13-14 クリティカルな状況下にある対象を高度実践看護:PICS/ICU-AWの15-16 クリティカルな状況下にある対象を高度実践看護:せん妄 17-18 クリティカルケア領域における医療に対して、クリティカルケア領域における医療に対して、クリティカルケア領域におけると対して、クリティカルケア領域におけるチャーシーク(チーム及び組織を対して、クリティカルケア領域におけるチャークので、クリティカルケア領域におけるスターク・フィールドワーク(チーム及び組織を対して、クリティカルケア領域におけるスターク・フィールドワーク(教育計画)とプログラースので、自己で学んだことから、自己では、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	度 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	'セスメント	と と と と と	担当教松       松       松       小       田当教松       松       小       田       日			
事前・事後学習	事前学習:事前に提示された資料を読んで 事後学習:疑問点を整理し、関連した文献		理解を深める	ること。				
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的	に評価する。	1				
教科書	特に指定しない。							
参考書	<ul> <li>AnnB. Hamric/中村美鈴ほか監修(2017):高度実践看護統合的アプローチ、ヘルス出版</li> <li>EdgarH. Schein/稲葉元吉訳(2018): Process Consultation Revisited Buiding the Helping Relationship/プロセスコンサルテーション第16版、白桃書房</li> <li>Avedis Donabedian/東尚弘訳(2007): 医療の質の定義と評価方法、認定 NPO 法人健康医療評価機構</li> <li>PaulL. Marino/稲田英一監修(2015): theICUBook 第4班、メディカル・サイエンスインターナショナル</li> <li>清水敬樹(2019): 改正版 ICU 実践ハンドブック病態ごとの治療・管理の進め方、羊土社他、適宜紹介</li> </ul>							
備考	特になし							

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
クリティカルク	ケア看護学実習 I (役割機能の実習)	1	後期	2	実習 90時間	
担当教員	松本幸枝					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5					
授業概要	クリティカルケア看護学特論 I ~ IV、クリティカル看護演習 I ~ IIIの学習を基に、急性・ 重症患者看護専門看護師の役割と機能について学修し、急性・重症患者看護専門看護師 として実践能力の基礎を養う。					
到達目標	急性・重症患者看護専門看護師の役割(実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、 倫理調整)について急性・重症患者看護専門看護師に同行し、指導のもとで実践すること で、急性・重症患者看護専門看護師の役割理解を深めるとともに、急性・重症患者看護専 門看護師としての役割を探究する。					
履修条件	クリティカルケア看護学特論 $I \sim \mathbb{N}$ ・クリること。	ティカルケ	ア看護学演習	習Ⅰ~Ⅲを修	§得してい	
授業計画	1. 急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能について、急性・重症患者看護専門看護師からオリエンテーションを受け、急性・重症患者看護専門看護師の活動に同行し、実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の役割と機能について、シャドーイングを通して見識を深める。  2. 実習終了時、急性・重症患者看護専門看護師とカンファレンスを実施し、急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能について、ディスカッションを通して学びを共有する。  3. 最終カンファレンスにおいて、CNS の役割と機能について学修した内容を発表し、ディスカッションを通して、学びを共有する。					
事前・事後学習	事前学習:実習前に提示された資料を読ん 事後学習:実習の後関連した文献等を含め		り返り考察す	する。		
評価方法・基準	討議への参加度(20%)、レポート(80%)と	し、総合的に	こ評価する。			
教科書	特に指定しない。					
参考書	・AnnB. Hamric/中村美鈴ほか監修(2017) ・EdgarH. Schein/稲葉元吉訳(2018):Pr Helping Relationship/プロセスコンサル	ocess Con	sultation R	evisited Bu		
備考	実習場所:亀田総合病院・千葉県救急医療センター・聖路加国際病院・ 東邦大学医療センター大森病院 実習期間:2026年2月から2週間(5日/週×2週間) 実習指導者:飯塚裕美、比田井理恵、田村富美子、渕本雅昭					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
クリティカルケ	ア看護学実習Ⅱ(診断・治療学実習)	2	前期	3	実習 135時間			
担当教員	松本幸枝			I				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5							
授業概要		クリティカルケア看護学特論 $\mathbb{I} \sim \mathbb{IV}$ 、クリティカルケア看護学演習 $\mathbb{I} \sim \mathbb{II}$ の学修をもとに、専門的な病態判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。						
到達目標	ICU、ER、および手術室など、クリティカル状況下にある対象者の臨床推論やフィジカルアセスメントによる臨床診断・治療について、医師の診察・治療場面に同席し、専門的な病態判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。また、質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。							
履修条件	クリティカルケア看護学特論 I ~Ⅳ・クリティカルケア看護学演習 I ~Ⅲを修得していること。							
授業計画	<ol> <li>関心領域のクリティカル状況下にある対象者を診察する場(ICU・ER 手術室及びカテーテル室・HCU・総合診療、関連病棟)で医師と共に対象者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明し、医師からのコメントをもらう。</li> <li>様々な診断技術や病態生理学の知識の知識及び臨床薬理学の知識を活用して、クリティカル状況下にある対象者の重症度や回復の状態についてアセスメントする。</li> <li>医学アセスメントをもとに、対象者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントする。</li> <li>多職種と協働し、必要に応じてカンファレンスを行いながら問題解決への方策を検討する。</li> <li>診断・治療に必要な実践・連携等を通して、高度実践看護師として活躍する上での課題を明確にできる。</li> <li>実習終了時、教員とカンファレンスを実施し、ディスカッションを通してクリティカル状況下にある対象者の治療や処置、診断プロセスについて理解し、医療チームに</li> </ol>							
事前・事後学習	事前学習:実習前に提示された資料を読ん 事後学習:実習の後関連した文献等を含め		り返り考察す	する。				
評価方法・基準	討議への参加度(20%)、レポート(80%)と	し、総合的に	に評価する。					
教科書	特に指定しない。							
参考書	適宜紹介。							
備考	実習場所:亀田総合病院 実習期間:2025年5月~6月の間の3週間(5 実習指導者:飯塚裕美、不動寺純明、林淑			田中美千裕				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
クリ	Jティカルケア看護学実習Ⅲ (地域連携に関する実習)	2	前期	1	実習 45時間	
担当教員	松本幸枝					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5					
授業概要	クリティカルケア看護学特論 I ~ IV、クリティカルケア看護学演習 I ~ III の学習をもとに、クリティカルケアからシームレスな地域、在宅への移行と連携について、また対象者を中心とした地域連携における急性・重症患者専門看護師の役割と機能について考察する。					
到達目標	プレホスピタル、また退院後にクリティカルケア看護を必要とする対象者へ直接的看護 目標 介入を実施する。医師または看護師にスーパービジョンを受けることで、患者理解とと もに、クリティカルケアにおける地域連携について考察する。					
履修条件	クリティカルケア看護学特論 I ~Ⅳ・クリティカルケア看護学演習 I ~Ⅲを修得していること。					
授業計画	1. 救急自動車に同行し、救命救急士の指導のもと、対象者に救急蘇生法を行う。 2. 突然の出来事によって緊急搬送を要請した、心理的危機的状況にある家族への看護介入を行う。 3. プレホスピタルの役割と地域連携について考察する。 4. 在宅でクリティカルケア看護が必要な対象者に、看護師の指導のもと在宅酸素療法への看護介入、人工呼吸器を装着した患者の看護介入、気道クリアランスに関連した看護介入を行う。 5. 在宅でクリティカルケアが必要な患者とその家族の生活環境を考察し、コンフォートケアについて提案できる。 *詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。					
事前・事後学習	事前学習:実習前に提示された資料を読ん 事後学習:実習の後関連した文献等を含め		り返り考察す	する。		
評価方法・基準	討議への参加度(20%)、レポート(80%)と	し、総合的	に評価する。			
教科書	指定なし。					
参考書	適宜紹介。					
備考	実習場所:館山消防署・亀田訪問ステーション 実習期間:2025年5月から6月の1週間(5日/週×1週間) 実習指導者:出口和彦、飯塚裕美、土屋忠則					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態	
クリティオ	カルケア看護学実習Ⅳ(統合実習)	2	前期	4	実習 135時間	
担当教員	松本幸枝		ı	1		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5					
授業概要	クリティカルケア看護学特論 $I \sim IV$ 、クリティカルケア看護学演習 $I \sim III$ の学修をもとに、急性・重症患者専門看護師の役割と機能を学習し、高度実践専門看護師としての役割を理解し、実践する。					
到達目標	関心領域において複雑で対応困難な問題を持つクリティカル状況下にある対象者とその 家族の包括的アセスメント、直接的支援、他職種との連携、病棟看護師へのコンサルテー ションおよび教育活動、臨床看護師への研究指導などを実践し、高度実践看護師として 活動するための実践力を育成する。また、実施した活動を内省し、急性・重症患者看護 専門看護師として活躍する上での課題を探求する。					
履修条件	クリティカルケア看護学特論 I ~Ⅳ・クリ ること。	ティカルケ	ア看護学演習	習Ⅰ~Ⅲを修	得してい	
授業計画	1.複雑で対応困難な問題を持つクリティカル状況下にある対象者とその家族への直接的支援2事例(2週間) 2.急性・重症患者看護専門看護師としての役割実践(2週間) 1)病棟看護師に対するコンサルテーション 2)対象者と家族が抱える倫理的課題の調整 3)臨床看護師への研究指導 4)他職種との連携や調整 5)病棟の看護の質向上を目指した学習会の企画と実施 6)チーム医療を推進するためのコーディネーション 3.実習終了時、急性・重症患者看護専門看護師とカンファレンスを実施し、ディスカッションの中で急性・重症患者看護専門看護師として活躍する上での課題を探求する。					
事前・事後学習	事前学習:実習前に提示された資料を読ん 事後学習:実習の後関連した文献等を含め		り返り考察す	する。		
評価方法・基準	討議への参加度(20%)、レポート(80%)と	し、総合的	に評価する。			
教科書	特に指定しない。					
参考書	・AnnB. Hamric/中村美鈴ほか監修(2017) ・EdgarH. Schein/稲葉元吉訳(2018):Pr Helping Relationship/プロセスコンサ	rocess Con	sultation R	evisited Bu		
備考	実習場所:聖路加国際病院 実習期間:2025年6月~7月の間の4週間 実習指導者:田村富美子	(5日/週×	4週間)			

	授業科目名			単位数	授業 形態		
クリラ	ティカルケア看護学課題研究	2	通年	2	講義 30時間		
担当教員	松本幸枝						
授業概要	クリティカルケア看護学特論およびクリティカルケア看護学演習の学びをもとに、各自 が関心を有するテーマを定め、系統的な文献検討を行う。先行研究のエビデンスをもと に、クリティカルケア看護学の実践に役立つ論文としてまとめる。						
到達目標	1. 関心があるテーマについて系統的な文献検察を行い、研究の動向を把握する。 2. 先行研究のエビデンスをもとに、クリティカルケア看護学の実践に役立つ論文としてまとめる。						
履修条件	クリティカルケア看護学特論 I ~IV・クリ ること。	ティカルケ	ア看護学演習	習Ⅰ~Ⅲを修	そ得してい		
授業計画	回 内容 1-15回 文献検討と個別面談。				担当教員 松本		
事前・事後学習	特になし						
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)と	し、総合的	に評価する。				
教科書	特に指定しない。	特に指定しない。					
参考書	適宜紹介する。						
備考	特になし						

	授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態				
エ(プライマリへ	ンドオブライフケア学特論 I ・ルスケアにおける NP のコンピテンシー)	1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	長江弘子、千葉恵子、飯塚裕美、土屋忠則、吉田有美子、林愛								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5								
授業概要	わが国のプライマリケア看護を発展させていくために地域における医療・保健・福祉の現状と特徴を理解する。地域の生活文化に即したエンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーに必要な能力と役割、専門性について学修する。また、高度実践看護師の活動に必要な根拠ある介入方法、連携と協働の理論と応用、地域特性に応じた高度な看護実践の基盤となる能力や教育について学修する。								
到達目標	<ol> <li>プライマリヘルスケアにおけるエンドオブライフケア高度実践看護師の育成の必要性を理解できる。</li> <li>プライマリヘルスケアとプライマリケア、エンドオブライフケアの概念定義とその関連性について説明できる。</li> <li>プライマリヘルスケアにおけるエンドオブライフケア高度実践看護師の定義とコアコンピランシーとその育成について説明できる。</li> <li>プライマリヘルスケアにおいて有効と考えられる理論を説明できる。</li> <li>わが国の生活文化にあったエンドオブライフケアの在り方と高度実践看護師の役割や専門について説明できる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
	回				担当教員				
	1 高度実践看護師制度の変遷と現状 オリエンテーション:本コースのねらい、。	課題と評価方	法について		長江				
	2 プライマリ・ヘルス・ケアとプライマリ・ケア、 エンドオブライフケアを基盤にしたナースプラ			まえ、 について	長江				
	3 高度実践看護師に必要な実践能力(コアコン : 亀田総合病院における高度実践看護師の	/ピテンシー)			飯塚				
	4 高度実践看護師に必要な実践能力(コアコンとのプライマリケア NP の実践からプライマリケア				林				
	5 高度実践看護師に必要な実践能力(コアコンと るプライマリケア NP の実践からプライマリケフ	プテンシー)と行 アナースプラク	ひ割:病棟に勤 ティショナーの	助務す の役割を考える	吉田				
Ice Mic - I	6 高度実践看護師に必要な実践能力(コアコンと外来での診療看護師の実践からプライマリケン			寮や救急	土屋				
授業計画	7 制度化に向けた日本型 NP の基盤カリキュ				長江				
	8 米国、カナダ、台湾、韓国等のナースプラー わが国での課題と展望	クティショナ	ーの現状と課	題、	千葉				
	9 米国、カナダ、台湾、韓国等のナースプラわが国での課題と展望	クティショナ	ーの現状と課	題、	千葉				
	10 プライマリヘルスケアとチームアプローチ専門職連携教育と必要とされる実践能力	(連携と協働)	の理論、		長江				
	11 ナースプラクティショナーに必要とされる リヘルスケアにおけるナースプラクティシ		におけるプラ	イマ	長江				
	12-13 高度実践看護師の実践概念と、自分の集 や目指す APN に向けて自分に必要なコ			題	長江				
	14-15 わが国のエンドオブライフケアの達成に ショナーの職域における課題を取り上げ				長江				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講	義で学んだ理	論や概念を実	習で応用して	みること。				
評価方法·基準	事前準備とプレゼンテーション(50%)、討論のP評価する。	内容(50%)で	総合的に査定	し、到達目標	の達成度で				
教科書	AnnB.Hamric 他(著):高度実践看護—統合的プロインのでは、 日本プライマりケア連合学会編集、プライマリ	アプローチ、 <i>^</i> ・ケア看護学	へるす出版(2 、南山(2016)	017)					
参考書	・アラン・ケラハー 竹之内裕文・堀田聡子監訳、コ ・西智弘、社会的処方、学芸出版会(2023) ・三井さよ(2004):ケアの社会学、勁草書房、 ・三井さよ、鈴木智之編著(2012):ケアのリアリテ・メイヤロフ(1993):ケアの本質、ゆみる出版、 ・山本多喜司/S・ワップナー(2002)人生移行の・長江弘子(2016):生きるを考える、日本看護・長江弘子(2014):看護実践に生かすエンドオ	ティー境界を問発達心理学, 協会出版会、	い直す-, 法 北大路書房、	政大学出版局					
備考	オンラインの受講も可能である								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
	ィドオブライフケア学特論 Ⅱ (EOL 実践と理論的基盤)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	長江弘子、足立智孝				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1. DP 4				
授業概要	住み慣れた地域で最期まで「自分らしく生いて、医学、看護学だけでなく、倫理学、書きる意味や Quality of Life について考察域の文化や規範と地域文化、社会規範の中ンドオブライフケア実践の理論的基盤となプローチ、意思決定理論などを適用し地域フケアを基盤にしたナースプラクティショ	哲学、法学、 し、人間の「 で生きる人 る成人学習」 に特有な文	文学、歴史 尊厳や本質り マの「生労病 理論、臨床す 化的視座に	などを学びれ こついて学覧 「死」についっ 哲学、エント 基づくエント	ながら、生 ぎする。 せ で考え、・ ティ・ア
到達目標	1. 非がん患者のエンドオブライフケアの 2. 疾患別・療養場所・年齢の違いにみる ることができる。 3. エンドオブライフケアの臨床的課題に セスメントと介入、評価について説明で 4. わが国の生活文化に即したエンドオ 哲学)を適用した対象理解の重要性を説明 5. 公共政策的視座から生活行動や心理に 地域とのつながりの歴史の影響について 6. エンドオブライフケアに関連する諸制 アンドオブライフケアを基盤にしたナースプ	エ 対きブで響い、	ライフケア( 論的アプロ・ アの諸理論( る地域環境 <sup>(</sup> る。 」り、政策的	の臨床的課題 ーチについて (人間学、死空 等の人的・物 課題について	重を整理す ご学び、ア 主学、臨床 理的環境、 て検討しエ
履修条件	特になし。				
授業計画	□	ドイ 寮ケ 犬 の はこ学 リス去 人を イラク ブドイ 寮ケ 犬 の はこ学 リス去 人を イラク ブドオフ やア 緩家実 何お修 一プを 々支 フイテ ラとラア アラ ・ケに 、るる ケク修 価る アリシ フしの のっ 疼アつ 実チ。 アテす 値コ のケヨ ケアカ エン、痛、い 選一 、、~~~ 働ぎ、本アヨ ケアカ	「	いいいっ。 をチーアし び意 基ブ考 アやえ学 おチー確 ケア 域を にイす 口療 けに アセーの探 つフる 一制家す るつ し 、ス 課求 いケ。 チ度	長江 長江 長江 足立 足立 足立 足立 足立 足立 足立 足立
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用し	てみること。	o		
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション(50%)、討の達成度で評価する。	論の内容(50	0%)で総合的	的に査定し、	到達目標
教科書					
参考書	・平原佐斗司監修(2016): 非がん患者のエ・長江弘子(2014): 看護実践に生かすエン・アラン・ケラハー著、竹之内裕之、堀田耶出版会、2023. その他、必要に応じて紹介する。	ドオブライ	フケア、日ネ	<b>本看護協会H</b>	出版会. 重義塾大学
備考	オンラインでの受講も可能である				

	授業科目名 開講 開講 単位数								
エンドオフ	ブライフケア学特論Ⅲ(小児看護)	1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	大野知代、吉野妙子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4、DP 5								
授業概要	乳幼児期、学童期、青年期とその家族を発達学的視点でとらえ、プライマリケアニーズを予測した健康教育と小児期に罹患しやすい疾病に関する高度な看護実践と生まれ育つ環境と成長発達における依存と自律の概念に基づく子どもと家族の健康増進を行う知識・技術を学修する。さらに小児の健康問題に関して病院施設と地域とをつなげ生活を基盤とした持続的なケアシステムの構築やその評価方法を学修する。								
到達目標	<ol> <li>国内外を対象に子どもと家族の健康問ることができる。</li> <li>子どもの医療・福祉・教育に関する法ことができる。</li> <li>子どもの疾病予防と健康増進のためのすることができる。</li> <li>子ども発達、障害に関する諸理論を用対処方法とその家族を含めた看護援助等</li> <li>多職種連携による育児支援、発達支援理解し説明することができる。</li> </ol>	や制度、政 活動、育児 いて、子供 について説	策の歴史と野 支援の現状。 によくみられ 明することが	現状を理解し と課題等につ れる疾病や症 ができる。	説明するのいて説明				
履修条件	特になし。								
授業計画	回 内容 1 授業概要/オリエンテーション 2 国内外の小児医療・福祉・教育、お歴史的変遷と課題 3-4 ・小児に関する法律および小児保備の権利の現状と課題 ・子どもの発達、家族に関する諸理 ・子どもの発達、家族に関する諸理 5-6 ・子どもの成長・発達及び健康障害 7-8 ・子どもによくみられる疾病の特徴・アレルギー・感染症・ネフロ・・子どもによくみられる症状の特徴けいれん・嘔吐/下痢・不機嫌) 9-11 ・地域で生活する子どもと家族を関よる子どもの発達支援・疾病予防課題・病気・虐待・発達障害等の 12-14 子どもに関わる多様な対象のヘルス実際(企画・運営・評価方法につい 15 発表・討議:地域で生活する子ども今後の課題	および、「大学」では、「大学」が、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「大学」では、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	は・教育制 健・看護への ントと評価 は糖尿病・気 川血病・脱力 は発熱・脱力 環境康エン健康 を関いたと健康	度の子どもの応用の可能で表情を表情を表情を表情を表情を表がなり、は・呼吸困難を表がって表情を表がって表情を表する。	大野 吉野 ・ 大野 大野 伏と ケア				
事前・事後学習	事前学修:事前に示した資料をよく読んで 事後学修:講義で学んだ知識・技術等を実								
評価方法・基準	事前準備および授業中のプレゼンテーショ	ン(40%)、	課題レポー	ト (60%)					
教科書	看護師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	る。						
参考書	適宜必要に応じて紹介。								

開講   開講   授業   授業     日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本								
エン(成)	ィドオブライフケア学特論Ⅳ 人の看護とウィメンズヘルス)	1	前期	2	講義 30時間			
担当教員	岡本明美、志村千鶴子、千葉恵子、松本幸枝							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4							
授業概要	成人期にある人とその家族を発達段階の視点でとらえ、がん、慢性疾患、生活習慣病や成人および女性の生涯にわたる健康支援等を含めた成人期に特有で多様な健康課題の予防および治療に関する高度な看護実践に必要な知識と技術を学修する。特に、特有の健康課題を急性期から慢性期と変化を予測的に対応するためのエビデンスに基づいた介入方法およびその評価について探求する。							
到達目標	<ol> <li>成人期にある人とその家族の発達課題とその特徴について、発達理論や家族理論を用いて説明できる。</li> <li>成人期の健康支援システムとして成人保健、生活習慣病予防及び重症化予防について説明できる。</li> <li>成人期の健康課題を解決するための看護理論やモデルをもちいて、エビデンスに基づく高度な看護実践とその評価方法について説明できる。</li> <li>成人期に生じるがん、慢性疾患など代表的な健康課題とアセスメントおよび看護援助について説明できる。</li> <li>女性の生涯にわたる健康課題に関して、ウーマンズヘルスの観点から健康増進、及び重症化予防について法制度を踏まえ説明できる。</li> </ol>							
履修条件	特になし。							
授業計画	回	かのでは、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	を、生活習慣 の展理メクンン、質口春踏は では、まながいでは、また、は、また、は、また、は、また、は、また、は、また、は、また、は、また	病と 看護理論 。 意の護り護が といい。 を接り ではいいでは では では では では では では では では では では では では で	松本 千葉 ブ 千葉 修する。 で 志村 。 志村			
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用し	てみること。	)					
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション(50%)、討論の内容(50%)で総合的に査定し、到達目標 の達成度で評価する。							
教科書								
参考書	その他、必要に応じて紹介する。							

	授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
エンドオブラ	・イフケア学特論V(高	齢者の看護)	1	前期	2	講義 30時間			
担当教員	長江弘子、吉田明人、那須真弓、酒井武志								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 4								
授業概要	高齢者とその家族の特徴を影響や変化を踏まえた疾病課題を解決するための高度生活ニーズに関するアセビた支援(自立支援・リハビ持する方略とその評価方法	の予防と治療、 な看護実践の方 メントと看護実 リテーション等)	そして人生の略については践により生	の最終段階の 学修する。で 活機能維持と	の治療やケア さらに高齢者 と生活の質向	プにおける 骨の健康と T上に向け			
到達目標	1. 高齢者とその家族の特 2. 高齢者のコモンディショ 3. 高齢者の健康課題と 4. 高齢者のケアズに沿って 者の生活ニとその家族を支 6. 高齢者とその家族の健 イフケアの実践について	゚ーズの症状アセ タ症化予防につい ント及メトラび継続そ ごえるサポートト シネま課題を解決し	スメントときて説明さいます。 で記事でできる。 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	看護援助にてる。 とい理論と 変実践につい いて説明でき	と方法を理解 いて説明でき きる。	罪し、高齢 る。			
履修条件	特になし。								
		内容		Transl fate 1		担当教員			
	1 我が国における高 保健医療福祉政策	齢者の特徴と健康 こついてプライマ	東課題、高齢 マリケアの観	者政策なら 見点から整理	びに する。	長江			
	2-3 高齢者のエンドオフ 看護実践モデルを	ブライフケアに。 学び、実践に適月	必要な理論や 月し理解を深	支援概念、 そめる。		長江			
	4 高齢者のコモンデ <i>ュ</i> 基づいた臨床推論	ィジーズの問診ス	みびフィジカ	1ルアセスメ	ントに	吉田			
	5-6 高齢者のコモンディン : 老化と老年症候		アセスメント	・と看護援助		那須			
	7-8 高齢者のコモンディング : 骨・関節系、皮膚	ィジーズの症状で 膏・感覚器系、倉	アセスメント 対傷管理	・と看護援助		那須			
授業計画	9-10 高齢者のコモンディ : 高齢者の内服管理	ィジーズの症状で 理、呼吸器、消化	アセスメント と器系、循環	・と看護援助 最器系など		那須			
	11 高齢者の健康増進。 予防に関する支援	 と重症化予防、均	 対域における			長江			
	12 高齢者の生活ニーン の連続性、に基づる 方法について事例	ズ把握の方法とできたアの継続性 と	アセスメント こ時間軸で見	・:臨床推論 L据えるケア	、ICF、健原 計画の展開	東 酒井			
	13 高齢者と家族のサス 質の高い効果的な過			アシステム	における	酒井			
	14 高齢者の健康課題。 継続看護マネジメン		こ関するケー に関するケー 具的な介入と		ント及び ついて探求 <sup>*</sup>	——— 長江 する。			
	15 日本における高齢 <sup>2</sup> NP としての役割を	者政策やケアシス				長江			
事前・事後学習	事前に示した資料を読んで 事後には講義で学んだ技術	おくこと。 を実習で応用し	てみること。						
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーシ の達成度で評価する。	/ョン(50%)、討	論の内容(50	0%)で総合的	りに査定し、	到達目標			
	<ul><li>・高齢者診療で身体診察を 2020.</li></ul>	き強力な武器にす	るためのエ	.ビデンス、	上田剛士、	シーニュ、			
教科書	- 2020. ・本当に使える症候群の話 ・ジェネラリストのための 医学書院、2021.				≿城紀与史 <b>、</b> )	岸田直樹、			
参考書	開講時に紹介する。								
備考	オンラインで受講可能であ	る							

	開講   開講   投業   接業   1								
エンドオブラ	·イフケア学特論Ⅵ(メンタルヘルス)	1	前期	2	講義 30時間				
担当教員	田中美惠子、中島洋一、志村千鶴子、松丸	直美、松谷	 典洋						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1. DP 4	DP 1 、 DP 4							
授業概要	あらゆる発達段階にある人々の精神的健康問題について理解し、代表的な疾患の病態、 治療について学び、精神障害とともに生きる人々と家族が地域で安心して生活し続ける ための看護援助、ならびに地域における精神保健活動について学修する。								
到達目標	<ol> <li>精神保健問題の現状と課題、精神保健医療福祉施策体制について理解できる。</li> <li>精神保健の概念および精神疾患の体系を理解し、代表的な精神疾患の病態、精神保健問題の特徴について理解できる。</li> <li>精神機能の評価とアセスメント方法について理解できる。</li> <li>援助関係の形成技法を理解するとともに、精神看護で用いられる主要な理論・モデル、治療技法について理解できる。</li> <li>精神科リハビリテーション訪問看護、当事者活動、家族支援について理解できる。</li> <li>せん妄、物質依存、子どものメンタルヘルス、周産期のメンタルヘルス、災害時のメンタルヘルスなど、地域のメンタルヘルス支援について理解できる。</li> <li>精神障害者のための地域包括ケアシステムの実際について理解できる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回 内容 1 精神保健問題の現状と課題、精神保健 2 精神保健の概念、精神疾患の疾患体系保健問題(ひきこもり、虐待、自傷行為 3 主要精神疾患の理解 (統合失調症・うつ病、アルコール依否 4 精神機能の評価とアセスメント(MSE) 5 援助関係の形成技法(対人関係論的アラ 6 主要な理論・モデル(ストレス一脆弱性治療技法(精神療法・認知行動療法) 7 精神科薬物療法と心理教育 8 精神科リハビリテーション(SST 就労当事者活動(ピアカウンセリング)、家 9 せん妄と高齢者のメンタルヘルス 10 物質依存とセルフヘルプグループ 11 自殺予防(学校・地域・職域における 12 子どものメンタルヘルス(発達障害・会 13 周産期メンタルヘルス(マタニティース 災害時のメンタルヘルス(PTSD、グリ 15 精神障害者のための地域包括ケアと多	医療福祉施 (ICD/DSM 為等) 字症、薬物位 ) プローデル、リ 支援支援 支援 (基別では、 (国のでは、)))) (()) (()) (()) (()) (()) (()) (()	(1)と今日の米 (水存症、摂食) (カバリーモ 看護、	情神 障害等) デル)	田田田田田田田田田田田松志田松 日田田田田中松 松中田松志田松 中 中 中 中 中 中 中 九村中 九 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと(1時間 事後には講義で学んだ技術を実習で応用し		(2時間程度	·)。					
評価方法·基準	事前学習(20%)、プレゼンテーション(409 価する。	%)、討論の	内容(30%)、	レポート(	10%)で評				
教科書	特になし。								
参考書	その他、必要に応じて紹介する。								

授業科目名 開講 開講 単位数 授 形									
ヘル	レスプロモーション学特論	1	後期	2	講義 30時間				
担当教員	長江弘子、鶴岡章子、上田修代、野村浩子、田中和代、志村千鶴子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 3、DP 4、DP 5								
授業概要	地域社会における生活習慣病等の疾病予防管理、および次世代の社会を支える健康づくりと QOL の向上、ケアの必要性を踏まえ地域アセスメント、保健医療計画立案までのプロセスを進めるうえでの知識基盤を学修する。そのうえで、高度実践看護師として必要な健康増進、健康教育とヘルスプロモーションの方法論を学修する。								
到達目標	<ol> <li>健康教育とヘルスプロモーションの歴史的、理論的背景を理解できる。</li> <li>健康教育とヘルスプロモーションに適用できる理論や概念、モデルについて理解できる。</li> <li>プライマリケア NP の活動に活用できるヘルスプロモーションと健康増進能力向上に向けたアセスメントと介入計画とその評価方法を説明できる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
回 内容 担当 1-2 オリエンテーションヘルスプロモーションと健康教育の歴史的、 理論的背景、理論の適用(健康信念モデル、変化のステージモデル、 社会的認知理論など)、理論と実践(プリシード・プロシードモデルなど)、 ヘルスプロモーションと健康行動の理論の基礎と国内外の動向を学ぶ。									
授業計画	3-4 多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロ モーションのためのコミュニティアセスメントの理論と実践 一行政・学校・住民・関係者協働の健康増進計画立案と健康教育の展開、評価   5-6 多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロ 電モーションの理論と実践 一生涯の健康を見据えた小児からの健康教育の展開(骨粗鬆症予防、足の健康等)   7-8 多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロ 上モーションの理論と実践 一職域におけるメンタルヘルス対策を中心とした健康教育の展開   9-10 多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロ モーションの理論と実践 ーフレイル予防のための健康教育の展開   11-12 ウィメンズヘルスに関わる多様な対象のヘルスプロモーションと健康 教育の理論と実践(産後うつ、虐待予防(子育て支援)、尿失禁、更年期、骨粗しょう症等)   13-14 鴨川市における健康教育とヘルスプロモーションの取り組み。 野村・田   15 地域特性を踏まえた健康づくりと QOL の向上を目指し、エンドオブ 長								
事前・事後学習	ライフケアを基盤としたナースプライフロモーション・健康教育の展開に事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用す	こ関する今後							
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション(50%)、討の達成度で評価する。	- 論の内容(50	0%)で総合的	的に査定し、	到達目標				
教科書	適宜提示する。								
参考書	日本健康教育士養成機構:新しい健康教育 日本健康教育学会編、健康教育ヘルスプロ その他、必要に応じて紹介する。			建同人社、20	005.				
備考	オンラインでの受講も可能である								

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態			
プライマリヘルスケア技術特論 2 通年 2								
担当教員	長江弘子、伊藤隆子、松本幸枝、岡田唯男 佐々木真弓、吉野有美子、田坂真哉、山田		鈴木崇浩、	北浦幸一、	鈴木早苗、			
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4							
授業概要	プライマリケア看護におけるあらゆる発達段階にある人々を対象とした典型的にみられる疾病(common disease)およびその症状についてそのメカニズムを踏まえたうえで、問診、視診、触診等を通して、臨床所見と主訴から臨床推論、鑑別診断、臨床検査、臨床判断の手法を活用し、症状に関する包括的アセスメントや症状マネジメントの方略(薬理・非薬理学的療法を含む)について学修する。また疾病治療のための薬物・非薬物療法に関する知識や既習の包括的アセスメント技法を活用し疾病予防から疾病管理までの方略を学修する。							
到達目標	1. プライマリケアとは何か、臨床推論、することができる。 2. 地域のプライマリケア外来でよくみら断、検査、治療(薬理・非薬理学的療法を3. 地域のプライマリケア外来における急状や慢性疾患を持つ様々な訴えに対してい、症状マネジメントの方略について事4. 地域特性、文化的特徴を踏まえプライの家族の治療や生活管理に関する意思まできる。	れる疾病(co を含む)につい 性疾患への て看護学の初 例を用いて マリケア外	ommon dis いて説明でき 初期対応、な 見点から包括 説明できる。 来・クリニン	ease)の症物 きる。 ならびに比較 らかアセスメ ックにおける	犬の臨床判 交的軽い症 ベントを行 る本人とそ			
履修条件	特になし。							
授業計画	回	プログライン では、	対応認知症 腹部・関節: 型的ネ所ぶ システンマスででででである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ケア、 疾患など)の を通して トした在宅療 トなく トないる	北浦伊藤養			
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用し	てみること。	)					
評価方法·基準	事前学習(20%)、プレゼンテーション(209 価する。	%)、討論の	内容(20%)、	レポート(	40%)で評			
教科書	日本プライマリケア連合学会監修:プライ	マリケア看	護学					
参考書	コモンディジーズブック、日常外来での鑑本内科学会、専門部会編集、2016.新・総その他、必要に応じて紹介する。							

授業科目名 開講 開講 単位数 授 年次 期間 単位数 形									
エント	ボオブライフケア管理学特論	2	前期	2	講義 30時間				
担当教員	休波茂子、足立智孝、高橋静子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5								
授業概要	EOLケアを提供するナースプラクティショナーが、専門的視点に基づきリスクを予測し対象及びその家族や関わる医療従事者の外的内的環境を整えることができるような体系的な取り組みや理論と対策を学修する。対象およびその家族や医療従事者が身体的にも精神的にも脅かされたり消耗したりすることのない状態を保証するために医療倫理、安全管理とリスクマネジメントに関する高度な実践方法について学修する。そのうえで、対象にとって最適で最善なケアを効果的、効率的に提供するための提供体制を構築しケアの質向上に向けた方略的な実践活動について学修する。								
到達目標	<ol> <li>高度実践看護師の活動の基盤となる組織論、組織行動学について理解する。</li> <li>医療理論、安全管理とリスクマネジメントに関する高度な実践方法について理解することができる。</li> <li>エンドオブライフケアのプロセスにおける本人とその家族のケアの質向上に向けた組織的課題と多職種との連携・協働について評価方法を説明できる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回       内容         1-2       組織とマネジメント         3-4       組織文化と医療文化、組織開発の理論と実際 高度実践看護活動における組織開発の理論と実際 組織論、リーダーシップの理論         5-6       医療安全とリスクマネジメント 組織における安全文化の醸成と看護ケアの実践         7-8       エンドオブライフケアのプロセスにおける本人とその家族のケアの組織的課題 エンドオブライフケアのプロセスにおける多職種との連携・協働における評価と実際         9-10       医療倫理:看護師の倫理的課題 看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ         11-12       エンドオブライフケアに関する意思決定看護管理者の意思決定プロセスモデル         13-14       エンドオブライフケアに関する組織倫理の研究動向								
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用し	てみること。	)						
評価方法・基準	事前学習(20%)、プレゼンテーション(409 価する。	%)、討論の	内容(30%)、	レポート(	10%)で評				
教科書	特になし。								
参考書	・リチャード・L.ダフト: (高木晴夫訳)組 ・武村雪絵編集:看護管理に活かすコンピ ・吉武久美子:看護者のための倫理的合意 ・勝原裕美子:組織で生きる、医学書院、 その他、必要に応じて紹介する。	テンシー、 形成の考え	メジカルフロ	レンド社、20	014.				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態				
プライマリ	ヘルスケア技術演習Ⅰ(臨床推論)	2	通年	2	演習 60時間				
担当教員	長江弘子、千葉恵子、関根龍一、大川薫、土屋忠則、髙梨弥生、大髙理生、北浦寿子、 小倉美輪、佐藤理子、川又幸子、野木真将、吉田明人、飯塚裕美								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4								
授業概要	プライマリケア看護実践におけるあらゆる発達段階にある人々を対象とした典型的にみられる疾病(common disease)およびその症状について、問診、視診、触診等を通して、臨床所見と主訴から臨床推論に基づく包括的アセスメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づく治療やケアの選択について病院や診療所などの外来患者を通して学修する。事例を用いた演習により、診断治療に関する一連の高度な実践力を身につける。								
到達目標	<ol> <li>4. 典型的にみられる疾病として、主に慢性疾患のアセスメント、治療・処置、服薬指導・管理、必要なプロトコールの作成、看護援助が実施できる。</li> <li>2. 病院外来や診療所での臨床推論を活用した初期症状の対応、必要な検査の選択、必要な専門職への照会ができる。</li> <li>3. 地域の健康問題について、急性期医療機関においてエビデンスベースドプラクティスの概念に基づいた包括的アセスメントのもとに高度な看護実践と地職種との調整・連携活動について事例展開をもとに説明できる。</li> <li>4. 継続した症状管理と自己管理能力育成のためのフォローアップに必要なシステムについて考え、活用できる。</li> </ol>								
履修条件	特になし。								
授業計画	回	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	で 東際 ネジメント 一 京を学ぶ) (外 大 の実際 (外 大 の 大 の 大 の 大 の 大 の は り 実 の ま の に 。 に の に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に の に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	·て学ぶ iして学ぶ 位	担当   対				
	27-28 在宅診療における必要な治療とケン 29-30 演習を通じて、EBPの概念に基づ高度な看護実践と他職種との調整学習内容を発表し議論する。	いた包括的プ	アセスメント	へのもとに	大川 長江				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んで参加する。事後	には講義で	学んだ技術	を演習で応用	する。				
評価方法・基準	外来演習では病院の外来もしくは在宅医療部において高度実践看護師の実践に同伴し外来指導に参画する。各診療科の講義を踏まえ講師とのカンファレンス等の質疑応答で理解を深める。各診療科の外来でそれぞれの典型的な事例についてケースレポートとしてまとめる。各診療科の外来での糖尿病、高血圧、腎不全、遺伝看護、ストマ外来、がん化学療法、在宅医療(小児と高齢者)の各1例のケースレポートを作成する。事前学習(10%)、プレゼンテーション(20%)、演習への参加度(40%)、レポート(30%)により総合的に評価する。日本プライマリケア連合学会のプライマリケア看護師の評価基準を参考とする。								
教科書	特になし。								
参考書	適宜紹介する。日本プライマリケア連合学 事例のまとめ方を参考とする。	会のプライ	マリケア看	護師認定申請	情に用いる				

	授業科目名	開講年次	開講 期間	単位数	授業形態				
	イマリヘルスケア技術演習Ⅱ イマリケア/コミュニティケア)	2	通年	2	演習 60時間				
担当教員	長江弘子、岡田唯男、岩間秀幸、鈴木早苗、野村浩子、田中和代、佐々木真弓、吉野有美子								
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 2、DP 3、DP 4、DP 5								
授業概要	プライマリケア看護において求められる一般的な症状や健康増進に関する対象のヘルスリテラシーをアセスメントし、患者及び家族のセルフケア能力を高め、健康管理能力の向上への働きかけを学修する。また地域包括ケアにおける福祉制度や病院と地域をつなぐ医療・ケア提供のための関連法規や制度について理解するとともに地区組織活動や住民活動、ボランティアなど、公助、自助、互助、共助の在り方について考え、人々の生活と健康を支えるヘルスケアシステムについて事例を通して学ぶ。								
到達目標	<ul> <li>1. 地域のアセスメントモデルを用いて地域の健康課題について説明できる。</li> <li>2. 地域住民の健康課題を見出すための疫学的データの収集・分析をし、包括的な課題を見出す。</li> <li>3. 地域の保健・医療・看護の課題解決に必要な計画を立案することができる。</li> <li>4. 患者及び家族の健康増進のための症状アセスメントと健康課題を見出すとともに、ヘルスリテラシーのアセスメントのもとに、個人あるいは集団のセルフケア能力を高め、健康管理能力の向上への働きかけの計画を立案する。</li> <li>5. 地域で必要なエンドオブライフケア看護活動が説明できる。</li> </ul>								
履修条件	特になし。								
	回    内容				担当教員				
	1-2 疾病予防と疾病管理に必要な理論と実践、 健康教育立案に向けての計画	への適用			長江				
	3-4 地域のアセスメントモデル理論と実際 館山市の地区診断に向けて計画立案				長江				
	4-5 以下、2日間の外来フィールドワークを 1)プライマリケア外来での臨床推論を活 な検査の選択、必要な専門職への照会 2)当該地域の特性及び課題を踏まえ、診 のもとに高度な看護実践と他職種との	用した初期症状 について学修す 療に訪れた患者	<sup>-</sup> る。 fの包括的アセ	スメント	岩間・鈴木				
	7-9 EBP に基づいた地域におけるプライマリ 健康課題に関する方略や疾病予防に関す。 典型的な事例を提示し、臨床推論に基づく (予防、治療、ケア)、多職種との共同(住民 ついて、小児から成人、高齢者の事例を基に	ケア看護活動に 6健康教育計画 回括的なアセスス 含む)等を想定し 展開する。	おける を立案する。 ペント、EBP に た看護援助や(		岩間・鈴木				
	10-13 館山市のフィールドワークで地区診断を 1)地域のアセスメントモデルに基づき保 高齢者の視点で収集する。 2)選定した地域の疫学データ(人口動態 解釈及び図表の作成を行う。包括的な 少ない中での住民を含めたケア調整・	健・医療・福祉 統計、人口静態 当初のアセスメ	統計など)の収 ントを行うこ	集、分析方法 とで、マンパ	長江				
授業計画	14-17 以下、フィールドワークで実施する。 1)第1~4回で概要を把握した地域の訪 2)当該地域の地区踏査を実施する。 3)2)にて既存資料の照合及びデータを決 高齢者のライフステージで整理し、地	自加し当該地域の	の特性及び課品	夏を小児、成人 する。	長江				
	18-19 地域の多様な健康問題のある事例を EBP 連携・調整を踏まえた解決策及び評価に	に基づいた看護	実践と多職種	との	長江				
	20-21 高度実践看護師の行う臨床推論②訪問看記 (1例のケースレポートを作成する)	護実践の同行訪!	問演習		佐々木				
	22-23 高度実践看護師の行う臨床推論②入退院3 (1例のケースレポートを作成する)	支援室の同行訪!	問演習		吉野				
	24-25 鴨川市の保健医療政策と保健事業(講義・保健・医療・看護の課題とその解決に向ける保健師活動:必要とされる援助技術・多職種連携・情報処理・専門職間のコン・	ナた実践地域包̄ コンサルテーシ	恬ケアシステ♪ ∕ョン技術・ネ	<b>ふにお</b>	野村・田中				
	26-28 EBP に基づいた地域における保健看護活 (講義・フィールドワーク)介護予防・リル 運動機能保持増進:EBP とケーススタデ ための技術・肺炎予防のための口腔ケアの	ヽビリテーショ ィ例)高齢者の情	ン:栄養摂取/	嚥下障害、 の運動機能向	野村・田中上の				
	29-30 地域の多様な健康問題のある事例を EBP 連携・調整を踏まえた解決策及び評価に				長江				
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講	義で学んだ技術	<b>デを実習で応用</b>	すること。					
評価方法・基準	亀田ファミリークリニック館山の見学(4-5日)、は健康増進に向けた計画を立案する。外来における 関川市総合福祉会館(ふれあいセンター)における保修 動の理解、保健活動に必要な援助技術を学び、優 (10%)、プレゼンテーション(30%)、演習への参加版	者トリアージ、 事業を理解し、 康教育に関する	緊急対応のケー 市民福祉部健児 るケースレポー	スレポートを付 東推進課におけ - トを作成する	作成する。鴨 ける保健師活 っ。事前学習				
参考書	適宜紹介する。								

	授業科目名	開講 年次	開講期間	単位数	授業 形態	
エンドオブライフケア学実習 I (NursingCaseManagement: 継続看護マネジメント/TransitionalCare の実践) 2 後期 4 180時						
担当教員	長江弘子、那須真弓、酒井武志				20074174	
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5					
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として二次予防いや病状変化期、治療の変化期、療養の場の変更来診療、病棟、社会支援部など退院支援部門によのアウトカム評価を行う。さらに、移行後の継地域の多職種と連携しながら症状のアセスメンさせ、看護実践を行う。病院から地域へ療養のよン等とが一体となりヘルスケアシステムを有機	見を必要とする おける相談支持 続的支援を行 トと対応、医 場が移行して	る移行期にあ 爰による意思 らい相談支援の連携 を も在宅診療部	る個人と家族 表明支援技術 対果や改善 を様々な実習 門、訪問看護	を対象に外 の実践とそ 点を把握し 施設を関連	
到達目標	1. 病院から地域への療養環境の移行に際し、 題の全体像を述べることができる。 2. コモンディジーズを基盤としたあらゆる健にある小児から高齢者へのエンドオブライフ割を把握し、その特徴について述べることが3. 様々な健康レベルにある小児から高齢者をプラクティショナーの役割(連携・調整・相談を当てた看護援助が実践できる。	康レベル(予防 ケアを基盤と できる。 対象にエント	ち、急性期、[i こしたナース] 「オブライフ?	回復期、慢性類 プラクティシ ケアを基盤と	朗、終末期) ョナーの役 したナース	
履修条件	特論・演習をすべて合格した者					
授業計画	事前準備(1) 学生が各自の関心や目的に応向された。実習施設の特別では、実習を担握する。(2) 実習を理解する。(3) 実習施設の特別では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなの地では、大きなのが、大きなのが、大きないが、、はいはないが、ないが、、はいいが、、はいが、、はいが、、はいいが、、はいいが、、はいが、、は	のデース・自の男子 で終も人引 と題師方 習(到 護間人看一 踏めの 全にア 展末と・1 の・に し達 いまり はま さい から は さい でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま から は でいま	は体 習全め 握獲し ある各責 き看去地 つう 獲フび制 目のる し師た 環移。事護 や護等域 いう 師ァ療診 に 魚多工 器に を一 ル画栄、 はと 入ン科療 応看   桝職ド 患点 事の ア実士ン 日す 院の科 し看   期種ド 患点 事の ア実士ン 日す 院	医等 た で	習握 とる 病しア さら、マよう等ケー 訪指し 作課 棟、看 ま高 看え る。とア で 問導、 す題 、 患護 ざ齢 護ジ 臨 のを 整 診者実 る先 入者実 ま者 援メ 床 調意 理 療と習 。先 退の践 なへ 助ン 推 整識 す 医	
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には	講義で学んだ	技術を実習で	応用してみる	らこと。	
評価方法・基準	実習への参加度(60%)、レポート(40%)により	総合的に評価	する。			
教科書	特になし。					
参考書	適宜紹介する。					
備考	【実習場所】亀田総合病院:総合内科、総合内科 訪問看護ステーション等 【実習指導者】野木真将(医師)、吉田明人(医師) 吉野有美子(入退院調整看護師)、 土屋忠則(NP)	)、江口(医師	)、大川薫(医	師)、	ター師長)、	

	授業科目名	開講年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
エンドオブライフケア学実習 II 2 後期 4							
担当教員	長江弘子、那須真弓、酒井武志			1	1		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5						
授業概要	症状・相談に対して問診、視診、触診等を通して スメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づ する。患者の生活背景や人生に対する価値観・自 中心の医療を提供する一連のプロセスを学修する で暮らす患者とその家族、また病気の有無にかか	プライマリケア看護の実践能力として地域の一次医療を担う家庭医診療科における一般的な病気・症状・相談に対して問診、視診、触診等を通して、臨床所見と主訴から臨床推論に基づく包括的アセスメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づく治療やケアの選択について外来患者を通して学修する。患者の生活背景や人生に対する価値観・自律性・主体性を考慮し、継続的な関係に基づき患者中心の医療を提供する一連のプロセスを学修する。また患者と共に生きる家族の健康にも留意し地域で暮らす患者とその家族、また病気の有無にかかわらず一人ひとりが自分自身の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康に関心をはいる。					
到達目標	1. 地域におけるプライマリ・ヘルス・ケアの2 能について述べることができる。 2. 地域で生活する患者を対象に、Care と Cu 調照・相談役割を意識して実践できる。 3. 地域の特色や文化を理解し地域の健康課題	ıre を融合し7	た高度な看護	実践、専門職			
履修条件	特論・演習すべて合格した者						
	内容						
授業計画	1)実習概要と実習場 ①地域に存在する家庭医、および各専門の看学リル域に存在する家庭医、およエッセンののを設定したアのスペセントのの表別を変に、およエッリンのでで、おってのというでのようで、おってのというでは、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	びに・セレ 化計地 「あ間ご事年 ・し 計違 い ス、つ相スて 、資域 をふ秀ス例、 相て 画目 多 大エいだい之学 専料包 基小宅々の受神 話と をに 種 内と学対トす 職分括 盤か医ップけに 動め 作に 種 内 はいがい から という しら前と持関 に 、 成 ご 、 会 おぶし、る と析ケーしら前と持関 に 、 成 ご 、 会 、	プ。て必。 の行マ / た高、とちす 関か し) 実 領域 ア で	ア 、選、 ・Dは は護護る ・Bと 等工人、活題習 ・位接援護る ・佐援護者 ・Curan ・のは ・なでを ・工人、活題習 ・体師、融上。 ・しる ・は、 ・このは ・はででででででである。 ・では、 ・では	の じン、 学地設 予な し受 践 る・ プ てス精 ぶ性役 ・の 高持 評 終れて 臨基を や割 増も 度ち に か か か か か か か か か か か か か か か か か か		
事前・事後学習	事前に示した資料を読んで学修する。事後には	講義で学んだ	技術を実習で	応用する。			
評価方法・基準	実習最終日に臨床指導者・担当教員とともに、 主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、 できない場合は実習期間を延長する。事前学習 に評価する。	指導の下に計i	画、実施する.	。但し、到達	目標を達成		
参考書	適宜紹介する。						
備考	【実習場所】 亀田ファミリークリニック館山(KFCT)の外来、 ンター、歯科センター等で実習する。 【臨床指導者】 岡田唯男(医師)、岩間秀幸(医師)、田坂真哉(医						

授業科目名 開講 開講 単位数 授						
エンドオブライフケア学実習Ⅲ 2 後期 2 実習 (地域包括ケアの実践) 2 後期 2 90時						
担当教員	長江弘子、那須真弓、酒井武志					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1. DP 2. DP 3. DP 4. DP 5					
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として一次階にある人と家族を対象とした疾病予防、活指導を実践する。また地域アセスメント業としての各種検診、予防接種の必要性のに関する相談支援や専門的医療機関への紹ステムの構築を目指し実践する。	健康増進に を通して地: アセスメン	句けての健原 域の健康課題 トと実施、記	康教育、健康 題を明確化し 評価、疾病予	限相談、生 レ、保健事 予防や管理	
到達目標	1. 地域の健康課題を明らかにし、その解との協働連携ができる。 2. 地域の保健所の相談や検診を受診する性期、終末期)にある小児から高齢者に対難事例や実践課題を導き出し、プライマ助の工夫や開発ができる。 3. エンドオブライフケア看護実習 I 及て療・福祉の現状を比較し、他の地域の共気4. 地域の健康課題の解決に向けて、新し	様々な健康 けし、その地: リ・ヘルス ゞⅡでの学修 重性と相違性	レベル(予防 域の健康課題 ・ケアを基盤 をに基づき地 ととその背景	、急性期、 頃に応じた特 盤とした高度	回復期、慢 時徴的な困 度な看護援 5保健・医 明できる。	
履修条件	特になし。					
授業計画	(1) 既存資料や地区路査を通して、地域アにする。実施されている保健事業の必要いて考察する。 (2) 地域の健康課題の中でエンドオブライに関して、保健所、区役所、ならびに地区整を行い、実践する。 (3) 担当事例の看護援助として、問診やヘント、看護計画の立案、実践、評価を行う返し実践する。この実践課程を要約したで報告し省察的実践と評価を行う。実習は保健師に引き継ぐ。 (4) 事例を通して既存のサービスでは対応について考案し企画、提案する。実習記成し、実践した内容を記録する。比較する。カンファレンスを開催し助言を得る①実習カンファレンス:主任保健師、実習ク全体カンファレンス:中間カンファレンス(看護管理者施設の実習指導者が、(到達目標に沿う)を提出する。	性の ア担当 ル。一期 で録る。指ンア 上健 アール・コンド なしか 教(大は いての 員学 スカー はい 第十二 は ま かん	メントを実施を実施を実施を実施を実施を表した。 おり おり かい がい かい	他、	対 事相 アまァ看 でし 調 でし でし でし でし でし でし でし でし でし でし	
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。 事後には講義で学んだ技術を実習で応用し	てみること。				
評価方法・基準	実習最終日に臨床指導者・担当教員とともる。学生は主体的に実習担当教員と実習指但し、到達目標を達成できない場合は実習(50%)、レポート(30%)で総合的に評価す	旨導者を調整 期間を延長	し、指導の	下に計画、	実施する。	
教科書						
参考書						
備考	【実習場所】鴨川市総合福祉会館(ふれあい 【臨床指導者】野村浩子(主任保健師)、田中		師)			

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
エント	<sup>、</sup> オブライフケア学課題研究	2	通年	2	講義 30時間	
担当教員	長江弘子					
授業概要	エンドオブライフケア学特論およびプライマリケア技術特論・演習の学びをもとに、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献レビューを行う。先行研究のエビデンスをもとに、エンドオブライフケア学の実践・教育・研究の発展に資する論文としてまとめる。					
到達目標	<ol> <li>関心があるエンドオブライフケア学に関するテーマについて文献検索を行い、研究の動向を説明することができる。</li> <li>自分の目的にあった系統的なレビューの方法を選び、その手法を参考にレビューを進めることができる。</li> <li>課題研究のテーマに関する系統的レビューを行いエンドオブライフケア学の発展に資する論文を作成することができる。</li> </ol>					
履修条件	エンドオブライフケア学特論 I ~Ⅵ・プラ スケア演習 I ~Ⅱを修得していること。	イマリヘル	スケア技術特	寺論・プライ	マリヘル	
授業計画	回 内容 1-15回 文献検討と個別面談				担当教員 長江	
事前・事後学習	事前学習:面談前に自己の関心テーマに関する研究の動向や前回の面談で出された課題 に関する結果、あるいは行った文献レビューに関する結果をまとめ、資料を 作成する。資料は面談前日に指導教員に提出する。 事後学習:面談の指摘事項をまとめ、それに対する対策を記述し面談後2日以内に指導 教員に提出する。					
評価方法·基準	討議への参加度(60%)、課題研究論文(40%	6)とし、総	合的に評価す	する。		
教科書	大木秀一編著、文献レビューの基本、医歯	薬出版、201	13.			
参考書	適宜紹介する。					
備考	特になし	特になし				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
	ウィメンズヘルス特論	1	前期	2	講義 30時間	
担当教員	志村千鶴子、潮田千寿子、毛利多恵子					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 5					
授業概要	女性のライフサイクル全般の健康とリプロダクティブヘルスに関する主要な理論や概念 を学ぶ。また、周産期継続ケアにおける地域支援システムとエビデンスに基づく継続ケ アの必要性について理解を深める。					
到達目標	<ul> <li>1. リプロダクティブヘルス及び、ウェルネス、エンパワメントの概念を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 女性のライフサイクル各期におけるエビデンスに基づく健康支援について理解し、説明することができる。</li> <li>3. エビデンスに基づくケアの改革や変革のための政策提言や助産教育、卒後教育について考え、記述することができる。</li> </ul>					
履修条件	特になし。					
	回          内容				担当教員	
	1 妊娠・出産・育児期の女性をエンパワ			<b>钊</b>	毛利	
	2 妊娠・出産と育児期のケアを担う助産		-		毛利	
	3 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関	関する主要な	埋論			
	4 女性の健康支援と自己決定 5 周産期のケアとエビデンス①				志村 志村	
	6 周産期のケアとエビデンス②					
	7     周産期の継続ケア				志村	
授業計画	8 助産ケアのエビデンスとシステマティ	ックレビュ			志村	
322011	9 女性のライフサイクル各期における助			 春期)	潮田	
	10 女性のライフサイクル各期における助			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	潮田	
	11 女性のライフサイクル各期における助	産ケアのエ	 ビデンス(更	年期)	潮田	
	12 女性のライフサイクル各期における助	産ケアのエ	ビデンス(老	年期)	潮田	
	13 周産期の継続ケア・地域支援システム	における助	産ケアのエし	ビデンス	志村	
	14 ウィメンズヘルスにおける健康支援・			政策提言)	志村	
	15 ウィメンズヘルスにおける健康支援・ (助産・卒後教育)	助産ケアの	改革・変革		志村	
事前・事後学習	授業終了時、次回の授業用にテーマに沿った資料を提示する。学生はそれを事前学習し、 授業ではその内容理解とそれに関する討議によって、学習を深める。					
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内 ・レポート課題の提出内容による評価(709		評価(30%)			
教科書	特に指定しない。					
参考書	毎回の授業で、次回のテーマに沿って事前	学習資料を	提示する。			
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員、助産師	が教授する。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	周産期ケア特論	1 • 2	後期	2	講義 30時間		
担当教員	田嶋敦、林正路、門岡みずほ、末光徳匡、	清水清美、	三谷尚弘、村	嬰井基一郎、	櫻井裕子		
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1. DP 4. DP 5						
授業概要	学び、ハイリスクを対象とした実践的助産 応できる基礎能力を培う。また、ハイリス	ハイリスク妊娠・分娩・産褥及び新生児ケアの基本的知識とエビデンスに基づくケアを 学び、ハイリスクを対象とした実践的助産活動を主体的に行える能力および緊急時に対 応できる基礎能力を培う。また、ハイリスク予備軍に対する健康向上のための科学的根 拠に基づいた助産ケアについて、基礎知識・技術・理論を学ぶ。					
到達目標	<ol> <li>妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異常とその病態と診断、異常への対応や治療を理解し、説明することができる。</li> <li>周産期における婦人科合併症の診断・治療について理解し、説明することができる。</li> <li>薬物治療に使用される医薬品と避妊薬について、基礎的な知識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項などについて理解し、説明することができる。</li> <li>薬物の妊婦や胎児、及び母乳への影響について理解し、説明することができる。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回内容1 周産期の救急医療体制2 母体搬送時の対処3 産科異常出血4 超音波診断5 周産期メンタルヘルス6 MFICU患者のケア:ハイリスク・異7 MFICU患者のケア:母体合併症管理8 MFICU患者のケア:胎児異常管理治9 新生児総論10 正期産児の生理11 早産児の生理12 不妊と不妊治療13 高度生殖医療について14 不妊症をめぐる現状15 不妊患者への助産ケア	常妊娠			担当教門三末門田田田基基 関 田田 田基基 裕林 林 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水		
事前・事後学習	必要時、事前に提示する文献・資料を読んで授業に参加する。産科救急に関する技術の						
評価方法・基準	* 授業に対する事前学習や授業中の発言内容等による評価(30%) ・試験、レポート課題の提出内容による評価(70%)						
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	5年以上の臨床経験を持つ産科医師、小児	科医師、助	産師が教授す	する。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態			
	助産マネジメント特論	1 · 2	前期	2	講義 30時間			
担当教員	志村千鶴子、柳村直子、河村洋子							
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 3, DP 4, DP 5							
授業概要	周産期医療機関における人材管理や人材育成、システム運用、及び、ハード面の環境、資金の有効活用について、組織マネジメント理論を応用した運用の実際を学ぶ。また、助産業務のリスクマネジメント、医療事故防止等のより安全で快適な出産ケアの提供について、教育・管理の視点を深める。更に、地域連携における母子の健康に関するシステムマネジメントについて、現状の分析と改革の視点から考察し、課題を明確にする力を身につける。							
到達目標	<ol> <li>助産管理の実際を理解し、質保証システムやその具体的内容・方法について理解し、説明することができる。</li> <li>助産管理の実際を理解し、現状における課題やその解決策について、改善・改革を目指す具体的な視点を見出し、説明することができる。</li> <li>周産期医療における経営管理について理解し、説明することができる。</li> <li>助産管理におけるリスクマネジメントについて理解し、説明することができる。</li> <li>災害に関する助産師の役割と対象のおかれた状況および支援について理解し、説明することができる。</li> </ol>							
履修条件	特になし。							
授業計画	回 内容 1 周産期医療施設の助産管理一般についる 2 助産業務管理とは 3 助産業務管理と人材開発 4 周産期医療施設の助産管理の実際と課 5 マネジメントの基礎的知識① 6 マネジメントの基礎的知識② 7 組織における意思決定・リーダーシッ 8 組織における意思決定・リーダーシッ 9 仕事の能率と安全・職場でのストレス 10 仕事の能率と安全・職場でのストレス 11 医療事故の防止とリスクマネジメント 12 被災地の妊産婦支援 13 被災地における助産師の役割 14 母子に配慮した避難時設営 15 母子に配慮した避難時設営		担当 柳柳柳柳河河河河河 志志志志志 志					
事前・事後学習	事前に提示される資料または視聴覚教材に の関心と課題を明確にして授業に臨む。授 ついて考えをまとめレポートを作成し、指	業終了後は、	、テーマご	とに課せられ				
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内・レポート課題の提出内容による評価(709		評価(30%)					
教科書	特に指定しない。							
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。							
備考	経験5年以上の臨床経験を持つ助産師、教	員が教授する	る。					

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
ウ	ィメンズヘルス特論演習	1	後期	2	演習 60時間
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、大野知代、小出加代大西涼子	子、吉田美和	、矢島藍、瀧	真弓、三國和	美、
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 4, DP 5				
授業概要	各学生の背景や専攻に応じて、地域で生活するが ケアシステムの創造と運営、又、組織改革に向い施等、改善や改革に向けた基礎的能力を養う。 生児におけるハイリスクやそのメカニズムを理 の知識・技術を習得する。更に新生児蘇生や産利 野を目指す学生は、ウィメンズヘルス・助産学の	ナた業務分析 <sup>を</sup> 更に高度実践 !解した緊急時 !対救急の技術!	や新たな人材 を目指す学生 すの対応、対象 こついて理解	育成計画・院 は、妊産褥婦 象支援に必要 を深める。ま	内教育の実 と胎児・新 な助産ケア た、教育分
到達目標	<ol> <li>日・母子及び女性の健康教育実践リーダーとしてきる。</li> <li>社会的ハイリスクな状況にある妊産褥婦とことができる。</li> <li>妊産褥婦と胎児・新生児における緊急時の習得し、実践することができる。</li> <li>助産活動を発展させるための専門職団体のができる。</li> <li>母性看護学・助産学の基礎教育及び院内教育ることができる。</li> </ol>	その家族の支対応、医療連 アセスメント 諸活動や政策	援の実際に 携と助産師の 及び助産ケン 提言につい	ついて理解し ででででいてでいる。 でででである。 でででは、 でででである。 ででは、 でではいる。 では、 ででは、 ででは、 ででいる。 では、 ででいる。 では、 ででいる。 では、 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは	、説明する 理解する。 識・技術を 明すること
履修条件	特になし。				
授業計画	回 内容 1 地域で生活する母子とその家族のニース 2-3 プロフェッショナル助産技術 4-5 産後の心理支援と助産時の役割 6 社会的ハイリスクな状況にある妊産婦の 7 社会的ハイリスクな状況にある妊産婦の 8 NICUにおける母子とその家族の支援 9 NICUとの連携と助産師の役割 10 妊娠分娩に関する泌尿器・生殖器への影打をが発し、関連する骨盤ケア 12 健康教育の計画立案(小集団、院内教育: 小集団指導の計画立案:対象者の理解と 15 小集団指導の計画立案:対象者の理解と 15 小集団指導の計画立案: 戸本と方法 16 小集団指導の計画立案: 評価基準の設定 17 小集団指導の実際(演習): 実施、リフレル集団指導の実際(演習): 評価による調明・19-21 ハイリスク助産ケア演習(妊婦) 22-24 ハイリスク助産ケア演習(産婦) 25-26 ハイリスク助産ケア演習(番婦) 27-28 ハイリスク助産ケア演習(新生児) 29 遺伝看護の基礎 30 遺伝看護の実際	D支援の実際D支援における を接における を響 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	地域連携		担当 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大
事前・事後学習	事前学習:毎回の授業で褥婦と新生児の助産ケス 授業の準備をする(2時間)。 事後学習:授業内容について復習を行い、理解			学習課題を調	べ、次回の
評価方法・基準	・目標達成に対する行動実践の程度の評価(70%・レポート課題の提出内容による評価(30%)	5)			
教科書	特に指定しない。				
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。				
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が	教授する。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
Ļ,	7ィメンズヘルス研究論	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	志村千鶴子、潮田千寿子						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 4						
授業概要		ウィメンズヘルスに関連する論文の検索、クリティーク、統合・解釈のプロセスを学び、 エビデンスに基づく助産ケアを探求できる能力を身につける。					
到達目標	<ol> <li>ウィメンズヘルスの対象となる人々の健康支援に向けた研究における概念、理論について理解し、説明することができる。</li> <li>研究のプロセスについて理解し、説明することができる。</li> <li>クリティークの基準に基づき、研究論文のクリティークをすることができる。</li> <li>文献レビューの概要と方法について理解し、説明することができる。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
	回           内容	[			担当教員		
	1 ウィメンズヘルスの対象となる人々の おける概念、理論	健康支援に	向けた研究に	Z	志村		
	2 研究のプロセス				志村		
	3 クリティークの方法:量的研究				志村		
	4 クリティークの方法:質的研究 5 景的研究のカリティーカの実際の(だ)	n -2 m >	7 · 7½ = =	F∃来 /	志村		
	5 量的研究のクリティークの実際①(グ) 6 量的研究のクリティークの実際②(グ)						
授業計画	7 量的研究のクリティークの実際③(グ)						
汉木田邑	8 量的研究のクリティークの実際④(グ)				潮田		
	9 質的研究のクリティークの実際①(グ)				 志村		
	10 質的研究のクリティークの実際②(グ)				志村		
	11 質的研究のクリティークの実際③(グ)				志村		
	12 質的研究のクリティークの実際④(グ)	レープワーク	7;発表・討	議)	志村		
	13 文献レビューの概要				志村		
	14 文献レビューのプロセス				志村		
	15 文献レビュー:文献の内容検討と統合	・解釈、整	理		志村		
事前・事後学習	事前学習:提示された事前学習について調 事後学習:提示された課題について考察し			出する(1時	間)。		
評価方法・基準	プレゼンテーションの準備・発表(40%)、 レポート課題の提出内容(40%)により総合			の発言内容	等(20%)、		
教科書	特に指定しない。						
/> ± ±							
参考書	授業で、テーマに沿って提示する。						

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
	助産学概論	1	前期	2	講義 30時間	
担当教員	志村千鶴子、吉田広美					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 3, DP 5					
授業概要	いて学習する。また、助産師の役割、助産 の理解を深める。また、国際的な母子保	助産学の概念、意義について理解し、母子保健の動向と助産の歴史、制度、関連法規について学習する。また、助産師の役割、助産師業務の活動範囲・責務・職業倫理、生活倫理への理解を深める。また、国際的な母子保健の動向、助産の役割・機能・活動を学ぶとともに、今後の課題と助産師の在り方について考察する。				
到達目標	<ol> <li>助産学の意義・概念について理解し、説明することができる。</li> <li>母子保健と助産の歴史、動向、制度、関連法規について理解し、説明することができる。</li> <li>助産師の専門性、責務、職業倫理を理解し、説明することができる。</li> <li>助産における倫理的課題について理解し、説明することができる。</li> <li>国際的な母子保健の動向と助産の役割・機能・活動を知り、今後の助産活動の在り方を考え、説明・記述することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。					
	回内容				担当教員	
	1 助産学の概念と意義・歴史				志村	
	2 助産師の教育				志村	
	3 母子保健の歴史と変遷				志村	
	4 母子保健の動向と今後の課題①				志村	
	5 母子保健の動向と今後の課題②				志村	
	6 母子保健・助産に関連する制度と関連	法規①			志村	
授業計画	7 母子保健・助産に関連する制度と関連	法規②			志村	
汉水田四	8 助産師の定義と業務範囲				志村	
	9 活動場所の特性と業務:助産の場				志村	
	10 助産師の責務				志村	
	11 助産活動と生命倫理				志村	
	12 助産専門職能団体および国際的連携(I	CM)の意義	と活動		志村	
	13 海外の助産師活動				志村	
	14 周産期施設における助産業務管理				吉田	
	15 周産期施設における運営				吉田	
事前・事後学習	事前学習:提示された事前課題について調事後学習:授業内容を振り返り、提示された出する。		て考察し、	レポートを作	作成し、提	
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内 ・レポート課題の提出内容による評価(709		評価(30%)			
教科書	特に指定しない。					
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が教授す	る。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	助産学展開論	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	大野知代、大塚伊佐夫	大野知代、大塚伊佐夫					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 4、						
授業概要	女性のライフサイクルを通じたリプロダクティブヘルス・ライツと健康問題、及び女性 と子ども、パートナー、その他の家族を対象としたエビデンスに基づくケアの改革や変 革の方策を探求する。更に、助産学の専門性の深化に向けて、実践知の形成や変革に向 けた活動の構造を分析的に理解する。						
到達目標	<ol> <li>女性のライフサイクル通した性と生殖の健康と健康問題について理解することができる。</li> <li>女性と子ども、パートナーその他の家族を対象とした健康支援の基礎となる知識・理論を理解し説明することができる。</li> <li>女性のライフサイクルに応じた健康問題やその家族を対象とした健康支援活動を理解することができる。</li> <li>リプロダクティブヘルスに関連する諸外国の現状と課題について理解し説明することができる。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回内容担当教園1 女性のライフサイクルと健康大男2 リプロダクティブヘルス・ライツの歴史的背景と概念大男3 リプロダクティブヘルス/ライツとセクシャルヘルス大男4 ウィメンズヘルスと助産学実践における理論の活用大男5 プレコンセプションケアの実際大男6 暴力被害に関する女性への支援大男7 SOGIの人々への支援大男8 在留外国人の実態と助産ケア大男9 性感染症とその予防大男10 生殖に関連する解剖生理大男11 人体発生学大男12 諸外国におけるリプロダクティブヘルスに関する現状と課題大男13 諸外国におけるリプロダクティブヘルスに関する現状と課題大男14 母子保健における国際活動の実際大男						
事前・事後学習	15 母子保健における国際活動の実際 大野   事前学習:提示された事前課題について調べて授業に臨むこと。   事後学習:授業内容を振り返り、提示された課題について考察し、レポートを提出する こと。						
評価方法・基準	・授業の準備状況や授業中の発言 ・課題等の発表内容による評価:40%・課題レポート:60%						
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	る。				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業形態	
Ļ	フィメンズヘルス教育論	1	後期	2	講義 30時間	
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、大野知代					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 3、DP 4					
授業概要	性と生殖の健康のためのセルフケア能力を高めるためのエンパワメントや自己効力感の概念・理論について、女性学に基づくケアの考え方を深める。具体的には、思春期の性教育やエンパワメントを高める妊娠中の健康教育、家族計画のための参加型教育活動、中高年のセルフケア行動や疾病予防活動としての助産ケアの視点を深める。					
到達目標	<ol> <li>性と生殖の健康に関するセルフケア能 説明することができる。</li> <li>思春期の性教育やエンパワメントを高 加型教育活動、中高年のセルフケア行動 解し、説明することができる。</li> </ol>	める妊娠中の	の健康教育、	家族計画の	うための参	
履修条件	特になし。					
授業計画	回 内容  1 助産師活動と教育 2 教育・相談・援助の基本 3 女性の特性とエンパワメント支援 4 カウンセリングとファシリテーション 5 個人・集団に対する助産師の関わり 6 助産師活動における健康教育の展開方 7 助産師活動における健康教育展開方法 8 思春期の健康教育活動① 9 思春期の健康教育活動② 10 成熟期の健康教育活動② 11 成熟期の健康教育活動② 12 更年期女性の健康教育活動② 12 更年期女性の健康教育活動① 13 更年期女性の健康教育活動① 14 老年期女性の健康教育活動① 15 老年期女性の健康教育活動②	法①			担当 大大大志志志潮潮潮潮潮潮潮潮潮潮	
事前・事後学習	事前学習:ウィメンズヘルスに関連する健康課題と健康教育についての事前課題について学習し、記述する(2時間)。 事後学習:ウィメンズヘルスに関連する健康課題と健康教育について考察しレポートを作成し、提出する(2時間)。					
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内・レポート課題の提出内容による評価(709		泮価(30%)			
教科書	特に指定しない。					
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が教授する	る。			

	授業科目名	開講年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	周産期診断治療論	1	後期	2	講義 30時間		
担当教員	大塚伊佐夫、古澤嘉明、門岡みずほ、末光	大塚伊佐夫、古澤嘉明、門岡みずほ、末光徳匡、三谷尚弘、櫻井基一郎、櫻井裕子					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 4, DP 5	DP 1, DP 4, DP 5					
授業概要	妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異 ついて学ぶ。また、手術療法及び、薬物治 識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項 用についても理解を深める。	療に使用さ	れる医薬品に	こついて、基	よ 礎的な知		
到達目標	療を理解し、説明することができる。 2. 周産期における婦人科合併症の診断・ 3. 薬物治療に使用される医薬品と避妊薬量・副作用・注意事項などについて理解	<ol> <li>妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異常とその病態と診断、異常への対応や治療を理解し、説明することができる。</li> <li>周産期における婦人科合併症の診断・治療について理解し、説明することができる。</li> <li>薬物治療に使用される医薬品と避妊薬について、基礎的な知識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項などについて理解し、説明することができる。</li> <li>薬物の妊婦や胎児、及び母乳への影響について理解し、説明することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。						
	回 内容 担当						
	<ul><li>(流早産、切迫流早産、妊娠貧血等)</li><li>4 妊娠期に起こりやすい異常の病態と診 (妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等)</li><li>5 妊娠期に起こりやすい異常の病態と診</li></ul>				門岡 門岡  末光		
授業計画	(胎児機能不全等) 6 分娩異常の病態と診断・治療概要(前置 7 分娩異常の病態と診断・治療概要(分類 8 分娩異常の病態と診断・治療概要(吸引 9 分娩異常の病態と診断・治療概要(で	置胎盤、常位 免時出血、分 引分娩・鉗子	Z胎盤早期剥 放時裂傷等 -分娩、会陰	離等)	三谷 末光 末光 三谷		
	10新生児の異常(正期産児・早産児の疾患11新生児の異常時の対応(新生児蘇生)12周産期における婦人科合併症:病態13周産期における婦人科合併症:管理と14更年期・老年期女性の健康(更年期障害15母乳育児と薬剤使用	患) 治療		、RT 療法等	櫻井(基) 櫻井(裕) 古澤 古澤		
事前・事後学習	事前学習:次回の授業内容について提示され 事後学習:授業内容について復習を行い、				(2時間)。		
評価方法·基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内 ・試験、レポート課題の提出内容による評		評価(30%)				
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	5年以上の臨床経験を持つ産科医師、小児	科医師が教	受する。				

授業科目名 開講 開講 単位数					授業 形態		
助産診断	听・技術論 I (妊婦の助産ケア)	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	潮田千寿子	潮田千寿子					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4						
授業概要	正常な妊娠の経過について、そのメカニズムと解剖・生理を学び、胎児の成長発達・健康 状態について学ぶ。また、さらに、妊婦とその家族の心理社会的特徴についても理解を 深める。						
到達目標	2. 妊娠期の助産診断過程を理解し、事例	<ol> <li>妊婦および胎児の助産診断に必要な知識と技術を理解し、説明することができる。</li> <li>妊娠期の助産診断過程を理解し、事例を用いて展開することができる。</li> <li>妊娠期に必要な保健指導を理解し、事例を用いて展開することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容 1 助産診断過程について 2 妊娠期の助産診断の特徴と妊娠期の助 3 妊娠確定診断に必要な基礎知識・妊娠 4 妊娠期の助産診断に必要な基礎知識(明 5 妊娠初期の助産診断に必要な基礎知識(明 5 妊娠初期の助産診断を必 6 妊娠中期の事例助産診断<経過診断> 7 妊娠中期の事例助産診断<健康生活診 8 妊娠期の健康生活診断(妊娠期の心理 9 妊娠中期の事例助産診断<関連・予測 10 妊娠中期の事例展開まとめ 11 妊娠末期の事例財産診断<経過診断・ 12 健康教育計画の考え方 13 保健指導案の計画立案 14 保健指導の振り返り 15 ハイリスク妊婦の助産ケア	産診断類型 初期の助産 台児及び付属 断> ・母親役割過 >	診断 (場物) (計程)	トラブル			
事前・事後学習	事前学習:毎回の授業で提示された事前学 (2時間) 事前学習:授業内容について復習を行い、				· う。		
評価方法・基準		・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・試験・レポート課題の内容による評価(70%)					
教科書	特に指定なし。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が教授する	る。				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
助産診断	析・技術論Ⅱ(産婦の助産ケア)	1	前期	2	講義 30時間		
担当教員	志村千鶴子						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4						
授業概要	分娩経過に沿った分娩のメカニズムを理解し、産婦及び家族の心理社会的状態に沿って、 安全・安楽・快適な出産ケアを支援できるための理論やエビデンスに基づく知識・技術 を学ぶ。						
到達目標	<ol> <li>正常な分娩経過について、そのメカニズムと解剖・生理を理解し説明することができる。</li> <li>安全・安楽・快適な出産を支援できるための理論やエビデンスに基づく知識・技術を実践することができる。</li> <li>ハイリスク状況にある産婦への助産ケアについて理解し説明することができる。</li> </ol>						
履修条件							
授業計画	回 内容 1 分娩期における助産診断の必要性と特 2 分娩3要素と分娩機転 3 診断に必要な基礎知識 4 診断の時期と進行判断 5 分娩の環境と助産師の役割 6 入院時の助産診断 7 産婦の心理・社会的支援 8 分娩期の助産診断過程の展開(入院時9 産痛の発生機序と種類、産痛緩和法・10 正常分娩介助技術:分娩介助手順 11 分娩期の助産診断過程の展開:分娩第 12 分娩各期の診断と助産ケア 13 分娩体位の工夫 14 フリースタイル分娩 15 分娩期のフィジカルアセスメント	特徴 ) 産痛に対す	る援助				
事前・事後学習	事前学習:毎回の授業で産婦のケアについ業の準備をする(2時間)。 事後学習:授業内容について復習を行い、				次回の授		
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内 ・試験、レポート課題の提出内容による評		評価(30%)				
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	女員が教授す	る。				

授業科目名 開講 開講 単位数 授業 年次 期間 単位数 形態						
助産診断・技術論Ⅲ(褥婦・新生児の助産ケア) 1 前期 2 講 30時						
担当教員	志村千鶴子					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 4					
授業概要	褥婦の生理的変化と新生児の母体外生活への適応と生理的変化、及び褥婦とその家族の 心理社会的状況について、適切な技術を用いて情報収集、アセスメント、ケアの実践が できるための学習をする。					
到達目標	<ol> <li>福婦の生理的変化と新生児の母体外生活への適応と生理的変化、および褥婦とその家族の心理・社会的状況について理解し、説明することができる。</li> <li>補婦と新生児の生理的状況、心理・社会的状況について理解し、事例を用いて情報収集、アセスメントをすることができる。</li> <li>事例を用いた褥婦と新生児のアセスメントから必要なケアを立案することができる。</li> <li>ハイリスクな状況にある褥婦と新生児のケアについて理解し、説明することができる。</li> <li>退院後の生活への適応に向けた母子とその家族への助産ケアについて理解し、説明することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。					
授業計画	回 内容					
事前・事後学習	事前学習:授業で提示された事前学習課題 事後学習:授業内容について復習し、理解					
評価方法・基準	授業に対する事前学習や授業内の発言状況 筆記試験・課題レポートの提出内容による	-	評価(30%)			
教科書	特に指定なし。					
参考書	テーマに沿って提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が教授する。				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	助産診断・技術演習	1	前期	2	演習 60時間		
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、小出加代子、吉	田美和		1			
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1 DP 3 DP 4						
授業概要	妊婦・産婦・褥婦及び胎児・新生児の健康状態把握のアセスメントのために必要な知識やフィジカルアセスメント技術を習得する。また、安全・安楽・快適な出産ケア技術及び分娩介助技術を身につける。妊娠期から産褥期における妊婦とその家族を対象とした保健指導技術を習得する。						
到達目標	<ol> <li>妊婦・産婦・褥婦及び胎児・新生児の健康状態をアセスメントするために必要な知識を理解し、説明することができる。</li> <li>妊婦・産婦・褥婦及び新生児のフィジカルアセスメントに必要な技術を習得し、実践することができる。</li> <li>妊婦・産婦・褥婦・および新生児の助産過程を理解し、事例を用いて展開することができる。</li> <li>安全・安楽・快適で主体的な出産のケア技術および分娩介助技術を習得し、実践することができる。</li> </ol>						
履修条件	特になし。						
授業計画	回 内容 1 妊娠初期の助産診断 2 妊娠期のフィジカルアセスメント: 3-4 妊娠中期の助産過程の展開(事例) 5 保健指導案の立案 6 妊娠期の保健指導の実際 7-8 妊娠末期の助産過程の展開(事例) 9 妊娠期の助産ケア 10 妊婦健診に用いる診断技術(演習) 11 分娩期のフィジカルアセスメント: 12-13 正常分娩介助技術の実際 14 分娩期のフィジカルアセスメント: 15 分娩期のフィジカルアセスメント: 16 分娩期のフィジカルアセスメント: 17-18 分娩期のフィジカルアセスメント: 17-18 分娩期のフィジカルアセスメント: 21 産褥期のフィジカルアセスメント: 22 産褥期のフィジカルアセスメント: 23-25 産褥期の助産過程の展開(事例) 26 出生直後の新生児のアセスメントと 27 新生児のアセスメントと助産ケア 28 新生児期の助産過程の展開(事例) 29-30 産婦と出生直後の新生児の観察とた	: レオポルド :	分娩促進ケ 産痛緩和  -  -  - IV期  - 志村	ア .	担当が関係である。「おおおり、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は		
事前・事後学習	事前学習:毎回の授業で褥婦と新生児の助べ、次回の授業の準備をする(2 事後学習:授業内容について復習を行い、	2時間)。			習課題を調		
評価方法・基準	・目標達成に対する行動実践の程度の評価・レポート課題の提出内容による評価(309						
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が教授す	る。				

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	地域母子保健論	2	前期	2	講義 30時間		
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、根岸雄子、國吉裕史、吉田文子、長谷川咲千香						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 2、DP 3、DP 5						
授業概要	地域で生活する妊産褥婦・新生児とその家族を対象とした、集団や地域のケアに関する概念・理論を理解し、地域母子保健の現状と課題、保健医療福祉の連携、助産師の役割について考察する。						
到達目標	<ol> <li>地域で生活する女性及び、妊産褥婦・新生児とその家族を対象とした集団や地域のケアに関する概念・理論を理解し、説明する。</li> <li>地域母子保健の現状と課題、保健医療福祉の連携、地域母子保健事業の創出・事業運営における助産師の役割について理解し、考察することができる。</li> </ol>						
履修条件	特に指定なし。						
	回内容				担当教員		
	1 地域母子保健の概念				志村		
	2 地域で生活する母子とその家族の現状、地域母子保健の現状と課題						
	3 地域母子保健事業における行政の助産	師の役割			長谷川		
	4 子ども家庭センターの取り組み				吉田		
	5 産後ケアにおける助産師の役割				根岸		
	6 産後ケアの現状と課題				根岸		
授業計画	7 地域で生活する妊産婦の産前産後のマ	イナートラ	ブル		國吉		
3221111	8 産前・産後のケアの実際				國吉		
	9 3-4か月の母子のアセスメント				潮田		
	10 3-4か月の母子の助産計画の立案				潮田		
	11 子ども虐待の発見と通告				志村		
	12 乳幼児虐待防止のために助産師ができ				志村		
	13 地域診断と母子健康の課題及び課題解				潮田		
	14 地域診断と母子保健の課題及び課題解				潮田		
	15 地域診断と母子健康の課題及び課題解	(アンステム) 	の発表 		潮田		
事前・事後学習	事前学習:地域母子保健に関する課題につ に準備する(1時間)。 事後学習:地域母子保健の現状と課題、助 する(2時間)。						
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内 ・試験、レポート課題の提出内容による評		評価(30%)				
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	専門職として5年以上の経験を持つ助産師	、保健師、	鍼灸師、教員	員が教授する	<i>,</i> .		

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態		
	<b>助産管理論</b> 2 前期 2 30						
担当教員	志村千鶴子、武田智子						
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 5						
授業概要	周産期施設(病院と助産所)における助産業務管理、運営、周産期医療システムの連携機能を学ぶ。また、周産期における医療安全に必要な基本的理論、安全確保体制の整備と 事故防止に向けた管理システム及び、事故対応の原則等について学びを深める。						
到達目標	<ol> <li>周産期医療システムの連携と医療施設(病院・助産所)における助産業務管理、運営を理解し、説明することができる。</li> <li>周産期施設における安全確保体制の整備と事故防止に向けた管理システム及び、事故対応の実際を理解し、説明することができる。</li> <li>病院の助産師活動分野及び助産所運営に必要な資源、人材、経営的視点について考察し、説明・記述することができる。</li> </ol>						
履修条件							
授業計画	回 内容	全 ついて 例の検討			担当教志志志志志志志志武武武武武		
事前・事後学習	15 助産所における助産業務官理(武田助産院)   武田   事前学習:周産期施設(病院と助産所)における助産業務管理について課題を提示し、授業でグループ討議ができるよう準備する。   事後学習:授業内容を踏まえ、周産期施設(病院と助産所)における助産業務管理についてレポートを作成し、提出する。						
評価方法・基準	・授業に対する事前学習や授業中の発言内 ・課題レポートの提出内容による評価(709		評価(30%)				
教科書	特に指定しない。						
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。						
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員、開業助	産師が教授	する。			

	授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
	助産学実習Ⅰ	1	後期	2	実習 90時間	
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、小出加代子、吉	田美和				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4					
授業概要	妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面を統合的に理解し、必要な助産ケアを実践し、助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を習得する。受け持ち産婦の助産過程を展開し、分娩経過の診断、対象の健康状態のアセスメント、ケア、実施、評価を行い、出産時の助産実践に必要な能力を養う。					
到達目標	1. 妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、ケア計画の立案と助産ケアを実践することができる。 2. 助産実践に必要な基本的理論、知識の理解と助産技術を習得し、実践することができる。					
履修条件	特になし。					
授業計画	1. 正常分娩で分娩第1期から分娩第3期終了後2時間までの産婦を受け持つ。 2. 正常経過の産婦を受け持ち(2例程度)、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。受持ち産婦の、助産診断とケアの一連の助産過程を実施・評価する。 3. 2例(程度)までの受け持ち産婦・褥婦に関し、基本的な理論・知識の活用、基本的な産婦の支援・分娩介助技術を実施し、自己評価できる。 4. 妊婦の健康診査と保健指導を見学し、妊婦のスクリーニング・フィジカルアセスメント・保健指導の一連を理解する。					
事前・事後学習	事前学習:既習の妊産褥婦と胎児・新生児別会的側面について復習しておく。 事後学習:受持ち事例に実施した基本的なし記述する。	)				
評価方法·基準	実習目標に対する行動実践の程度による総・実習記録による学習内容の評価(40%)	合的評価(60	)%)			
教科書	特に指定しない。					
参考書	必要時、提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導する	<u></u>			

授業科目名 開講 開講 単位数 授 形						
	助産学実習Ⅱ	1	後期	4	実習 180時間	
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、小出加代子、吉	田美和				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 3、DP 4					
授業概要	助産学実習 I での助産ケア実践における自 心とした対象への助産ケア実践を学ぶ。	己の課題を	明確にし、	別き続き分娩	免介助を中	
到達目標	1. 実習における自己の課題を明確にし、説明・記述することができる。 2. 助産実践に必要な基本的理論、知識の理解と助産技術を習得し、実践することができる。 3. 産婦にとって安全で安楽な分娩介助技術を実践することができる。					
履修条件	特になし。					
授業計画	1. 正常分娩で分娩第1期から分娩第3期で分娩第1期から産褥入院期間まで(2億2. 受持ち産婦の生理的側面、心理・社会実践することができる。 3. 受持ち産婦の分娩から産褥までの助産ことができる。 4. 6例程度(そのうち1例は継続事例)ま性に応じた助産計画の立案・ケア実施・	列程度)を受 的側面をア 診断とケア での受持ち	持つ。 セスメント I の一連の過 <sup>和</sup> 事例に対し <sup>~</sup>	し、必要な助 呈を実施し、 て、産婦・襟	か産ケアを 評価する	
事前・事後学習	事前学習:毎回の助産ケア・分娩介助の課 事後学習:分娩介助の振り返りを指導者と					
評価方法・基準	実習目標に対する行動実践の程度による総・実習記録による学習内容の評価(40%)	合的評価(60	)%)			
教科書	特に指定しない。					
参考書	必要時、提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	る。			

授業科目名 開講 開講 単位数 芋 ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ						
助産学実習Ⅲ 1 後期 2 90						
担当教員	志村千鶴子、潮田千寿子、小出加代子、吉	田美和				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3					
授業概要	軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ妊産婦及び、その家族を受け持ち、助産課程の 展開を通して助産ケアを主体的に実践できる能力を身につける。周産期母子医療セン ターにおける助産管理について理解する。					
到達目標	<ol> <li>軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ妊産婦及び、その家族のアセスメントをすることができる。</li> <li>アセスメントの内容から必要なケアを考え、実践することができる。</li> <li>周産期母子医療センターの助産管理について考え、説明・記述することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし。					
授業計画	1. 軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ妊産婦及び、その家族を対象とした実習を行う。 2. 分娩第1期から産褥入院期間までの対象(2例程度)を受け持ち、軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ対象の助産診断と助産過程を実施・評価し、個別的継続的な支援について学ぶ。 3. 分娩期の助産ケア、分娩介助、産後ケアや退院後の育児支援(家庭訪問を含む)、健康診査について継続的に関わる。 4. 周産期母子医療センターの助産管理について考察する。 5. 2例程度の受持ち事例に対して、産婦・褥婦の個別性に応じた助産計画の立案・ケア実施・評価を行う。					
事前・事後学習	事前学習:妊婦・分娩・産褥期における合 の心理・社会的課題について学 事後学習:受持ち事例に対する助産過程の 続的支援ができるようにする。	修しておく。				
評価方法·基準	・実習目標に対する到達度・実習の取り組 ・実習記録の内容による学習成果(40%)	み姿勢など	による総合的	的評価(60%)	)	
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。					

	授業科目名	開講年次	開講 期間	単位数	授業形態	
	継続事例実習     1・2     後期・前期     2     実習 90時間					
担当教員	志村千鶴子、潮田千寿子、小出加代子、吉	田美和			2044114	
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1、DP 3、DP 4、DP 5					
授業概要	妊娠期から妊婦を受け持ち、分娩期および産後の育児期までの継続した助産ケア実践し、 地域で生活する対象への助産ケアについて、必要な理論、知識、技術、支援システムにつ いて学習する。また、出産後の受け持ち事例では、地域での育児に助産師が出産を通し て、継続的にかかわることの意義と助産ケアの在り方を修得する。					
到達目標	1. 継続事例と信頼関係を築き、新しい家族をつくる過程で求められる援助を考えて実践することができる。 2. 妊娠期から育児期までの母子と家族に必要とされる個別的な助産ケアを立案し、指導を受けながら実践することができる。 3. 継続事例が安全で安楽な分娩経過を経て、より良い育児生活を送ることができるように、妊娠期から育児期まで継続して支援することができる。 4. 妊娠期から育児期までの継続支援の意義について考察し、説明・記述することができる。					
履修条件	特になし。					
授業計画	1. 妊娠中期から産後3か月までの継続事例を1名受け持つ。 2. 継続事例の妊娠中、毎回の健診及び、保健指導に立ち会い、助産計画の立案・ケア実施・評価を通して、個別的継続的支援について学ぶ。 3. 継続事例の出産時には、産婦の生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。 4. 出産後、産後ケアや退院後の育児支援(家庭訪問を含む)に継続的に関わる。 5. カンファレンスを通し、学生間の学びを共有し、継続支援について考察を深めることができる。 6. 妊娠期から育児期までの助産計画の立案・ケア実施・評価を行う。					
事前・事後学習	事前学習: 既習の周産期助産ケアに関する学習全般について復習する。受け持ち決定後は、状況に応じて健診時期に対応する経過内容を予習し、個別的なケアに対応できるために、実習前に指導教員と相談の機会を持つ。					
評価方法・基準	・実習目標に対する到達度・実習への取り ・実習記録の内容による学習成果(40%)	組み姿勢な	どによる総合		%)	
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しないが、事例に応じて必要な文献資料等を提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員	員が指導する	<b>,</b>			

開講   開講   単位数   授業						
<b>地域助産実習</b> 2 前期 1 2 4						
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、小出加代子、吉	田美和				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5					
授業概要	地域における妊産婦及び、新生児のケアの実際について学ぶ。具体的には、地域における助産師の活動範囲や業務管理、安全管理のための施設運営・関連機関との連携について理解を深め、地域における助産活動の特徴を理解する。					
到達目標	1. 出産施設と保健センターや育児支援施設との連携活動を通して、地域における母子 およびその家族へのケアの特徴を理解し、考察することができる。 2. 母子およびその家族を対象とした、地域における妊娠期・産褥期の保健指導や家庭 訪問を通して、助産ケアの具体的展開を理解し、考察することができる。					
履修条件	特になし。					
授業計画	<ol> <li>妊娠中から育児期の地域における妊娠し、出産後の育児支援に向け、出産施設携を学ぶ。</li> <li>保健センターや育児支援施設との連携たは、家庭訪問を通して、地域における</li> </ol>	と保健セン活動や妊婦	ター、育児国	支援施設との 対象とした係	)具体的連 発健指導ま	
事前・事後学習	事前学習:妊婦及び母子を対象とした保健 を収集する。 事後学習:地域の実情を把握し、地域にお					
評価方法·基準	・実習目標に対する行動実践の程度による ・実習記録による学習内容の評価(40%)	総合的評価	(60%)			
教科書	特に指定しない。					
参考書	必要時、提示する。					
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教	員が指導す	る。			

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
周産期ハイリスク実習		2	前期	1	実習 45時間
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、小出加代子、吉田美和				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 4, DP 5				
授業概要	周産期のハイリスク状態にある母児とその家族の特徴やケア、新生児医療システムの現状や課題について理解を深める。特に MFICU・NICU・GCU におけるハイリスク母児の実習を通して、対象のアセスメント能力を高めるための知識・技術を修得し、高度医療に対応できる基本的能力を身につける。				
到達目標	<ol> <li>MFICU・NICU・GCU におけるハイリスク母児のアセスメントを理解し、説明・ 記述することができる。</li> <li>受け持ち対象となるハイリスク妊産婦や新生児に必要なケアを指導の下に実践する ことができる。</li> <li>ハイリスク状態にある母児の特徴やケア、新生児医療システムの現状や課題を明確 にし、説明・記述することができる。</li> </ol>				
履修条件	特になし。				
授業計画	1. MFICUに入院中の妊婦を1例受け持ち、治療を必要とする妊婦の生活に即した助産過程を通して、異常妊婦のケアを学ぶ。 2. ICU入院児の病態・ケアを理解すると共に、妊娠中の健康管理および、分娩時のケアの意義、入院児の親に対する家族支援、新生児医療システムについて考察する。 3. 不妊治療の実際を見学し、治療中患者の学習場面の参加やカウンセリング事例に関する臨床講義等を通して、個別的・継続ケアの意義や倫理的側面の課題についての実際を学ぶ。				
事前・事後学習	事前学習:受持ちに関する身体的・心理的状況について事前に学習し、ケア計画を立案 する。不妊治療や、MFICU、NICU における助産ケアの特徴について復習 しておく。 事後学習:受持ち事例を通して、ハイリスク妊産婦・新生児とその家族のケアを考察する。				
評価方法·基準	・実習目標に対する行動実践の程度による総合的評価(60%) ・実習記録による学習内容の評価(40%)				
教科書	特に指定しない。				
参考書	必要時、提示する。				
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。				

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
助産管理実習		2	前期	1	実習 45時間
担当教員	志村千鶴子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和				
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1, DP 2, DP 5				
授業概要	助産所における助産業務管理、物理的・心的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理等の実践を通して学び、対象者のニーズに沿った質の高い管理の基本的特徴を把握する。				
到達目標	1. 助産所における助産師の活動範囲や業務管理、安全管理のための施設運営・関連機関との連携等について理解し、説明・記述することができる。 2. 出産施設における助産業務管理、対象のニーズに沿った物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理等について考察し、説明・記述することができる。				
履修条件					
授業計画	<ol> <li>助産所での助産管理に関する実習を1週間行う。</li> <li>助産所の実習を通し、助産所における助産業務管理、連携活動、対象のニーズに沿った物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理を知り、考察する。</li> <li>助産所ですぐれたケアを実践している助産師とともに、妊婦健診、分娩時ケア、母乳ケア、家庭訪問などを見学し、周産期ケアの課題及び理想像について討議・考察する。</li> <li>助産所における分娩の実際を見学し、質の高い助産ケアのあり方について考察する。</li> </ol>				
事前・事後学習	事前学習:周産期施設における助産管理を理解するために既習の「助産管理論」を踏まえ、自己の実習目標を記述する。 事後学習:対象のニーズに沿った物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理、質の高い助産ケアの在り方について考察し、レポートを作成する。				
評価方法·基準	・実習目標に対する到達度・実習の取り組み姿勢などによる総合的評価(60%) ・実習記録の内容による学習成果(40%)				
教科書	特に指定しない。				
参考書	特に指定しない。				
備考	助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。				

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態	
ウィメンズヘルス・助産学特別研究		1 • 2	後期・通年	8	演習 240時間	
担当教員	志村千鶴子					
関連するディプロ マポリシー(DP)	DP 1					
授業概要	学生個々の関心のあるテーマに沿って、女性の性と生殖に関する健康課題について研究 指導を行う。					
到達目標	<ol> <li>ウィメンズヘルスや助産ケアおよび助産師教育に関する研究テーマを見出し、系統的な文献検討を行い、研究計画を作成することができる。</li> <li>研究計画に基づき、データ収集および分析を遂行することができる。</li> <li>文献検討、研究計画、データ分析結果に基づいて、修士論文を執筆することができる。</li> </ol>					
履修条件	特になし					
授業計画	1~120回:文献検討、研究計画の作成、データ収集および分析、論文の執筆					
事前・事後学習	事前学習(2時間程度):ウィメンズヘルス・助産学研究の課題、研究手法に関する論文 や書籍の精読 事後学習(2時間程度):ウィメンズヘルス・助産学研究の方法、データ収集・分析方法、 考察、論文執筆の内容の検討					
評価方法·基準	研究計画、研究への取り組み及び論文作成、学位論文審査の内容などから総合的に査定 し、ウィメンズヘルス・助産学特別研究の達成度を評価する。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	・近藤潤子監訳(1994). 看護研究 原理と方法. 東京: 医学書院. ・谷津裕子(2015). Step Up 質的看護研究 第2版. 東京: 学研. ・川本利恵子監修(2016). 「尺度」を使った看護研究のキホンとコツ. 東京: 日本看護協会出版会.				日本看護協	
備考	看護研究について5年以上の経験を持つ教員が教授・指導する。					

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
ウィメンズヘルス・助産学課題研究		2	通年	2	講義 30時間
担当教員	志村千鶴子				
授業概要	ウィメンズヘルスや助産ケアに関する問題を取り上げ、エビデンスに基づく助産実践を 明らかにすることを目的とした系統的な文献レビューを行う。				
到達目標	<ol> <li>ウィメンズヘルスや助産ケアに関するテーマを発見し、系統的な文献検討を行い、 テーマに関する研究動向を把握することができる。</li> <li>テーマについて文献的に実証し、論文としてまとめることができる。</li> </ol>				
履修条件	看護研究履修済みのこと				
授業計画	回 内容				担当教員
	1-15回 文献検討と個別面談				志村
事前・事後学習	事前学習:2時間程度 事後学習:2時間程度				
評価方法・基準	課題研究の達成度によって評価する。				
教科書	特に指定なし				
参考書	特に指定なし				
備考	5年以上のウィメンズヘルスや助産に関する研究指導経験を持つ教員が指導する。			- る。	